

2636
28

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5
m m

始



263₆-28

宮城縣師範學校教諭
宮城縣師範學校訓導

野口吉郎治
本田甚平共著

高等小學地理實際的研究



大正
2. 6. 6
内交

東京 廣文堂書店發行

例言

一、方今國定教科書に準據して編纂せられたる小學校參考用地理書は汗牛充棟も啻ならずと雖、適切なる參考書といふべきもの、尠なきを著者常に遺憾とせり。本書の趣旨とするところは、是は則ちその缺陷を補はんと欲するにあり。

二、思想の幼稚なる兒童に一年六十時間内外にて外國地理の全部を教授せんとするものは教材の撰擇に充分なる注意を拂ふべきは當然なり。幸にも國定教科書高等小學校地理卷一はこの點に於て稍々當を得たりといふべし。卷二補習地理は天文、地文、人文に互りて廣く地理の任務を果さしめんとするものなれば記述簡單に失し難解の點少なからざる憾ありと雖、

これまた大體より材料の撰擇は妥當といふべし。この國定教科書を如何に取扱ひ如何に教授すべきかを陰に示し陽にその内容を充分説明するのは本書編纂の目的なり。

三、著者は多年の經驗に基づき、卷一に於ては各洲各國の地理の特徴を明にし、これを確實に種々の方面より觀察して地理的理法を説き、併せて見識の養成に勗め、延いては我が國國勢の大要を知らしむる趣旨を以て之を解説せり。従つて一般の事實を廣く互りて説かず深く説明せり。卷二は自然地理、人文地理の諸現象を統合的に教授する爲の資料を供給せり。これ世の教授者の最も苦痛を感じし所と思推したればなり。要するに本書は國定地理書に記載せる事實を深く深く兒童に徹底せしめんための参考書なり。

四、諸外國の地理中我が國に關係深きものは利害關係深き程他に比して詳細に記述したり。我が國の自然、人文に關係したる事項は他に比してこれまた詳細に説明することに努めたり。畢竟教授者が實際に教授せらるゝ場合の便益を慮りし爲なり。

五、本書の唯一の特色は直觀的材料を多く挿入したる點にあり。これ教授者をして實地教授に際して之が活用を怠ることなく、巧みに利用せしめて地理教授本來の目的に添はしめんか爲の微意に外ならず。

六、如上の趣旨によりて編纂したる本書は、要するに一方に於ては教授者の参考となり、他方に於て教授精案と見るを得べし。故に著者は本書を充分利用せば適切にして地理教授の目的

を逸せざる教授をなし得べしと信ずるなり。

七、著者は小學校地理の系統的研究を完成せん目的にて、初め尋常の地理より編纂せん考なりしも目下の急務に鑑み高等の地理を前にせり。故に尋常の地理も後日を俟ちて世に出し實際家の警告批正を乞はんと欲するものなり。尙本書收むるところの事項及び統計等は可成新を新をと撰擇せし爲に稍々統一を缺きたる點なきを保し難し、これ等は他日訂正増補の期を俟つて行ふべし。幸に著者の意のあるところを憐察せられ叱聲を賜はらんことを。

大正二年三月二十一日

仙臺の寓居に於て

著者識す

高等小學地理實際的研究 目次

緒論

第一章 高等小學地理書編纂の趣意

- 第一 現今使用の高等小學地理書……………一
- 第二 教材の選擇及び排列……………二

第二章 高等小學地理書取扱上の實際的注意

- 第一節 高等小學地理卷一……………五
- 第一 各大洲の總論教授の場合……………五
- 第二 各國地理教授の場合……………六
- 第二節 高等小學地理卷二……………七
- 第一 地球、地球の表面、陸地、海洋、大氣等に關する所謂自然地理……………七

第二 教材教授の場合……………八

人類國家、政治、教育、産業、交通、都會等に關する所謂人文地理教材教授の場合……………九

第一編 高等小學地理卷一の研究

第一章 亞細亞洲……………二

第一節 總論……………二

第二節 支那……………二六

第三節 亞細亞露西亞……………二六

第四節 亞細亞土耳其、亞刺比亞、イラン地方……………二九

第五節 印度……………二九

第六節 印度支那……………二九

第七節 馬來群島……………二九

第八節 亞細亞總括……………二九

第二章 大洋洲……………九六

第一節 總論……………九六

第二節 濠太刺利……………九六

第三節 本州の諸島……………一〇五

第三章 歐羅巴洲……………一〇

第一節 總論……………一〇

第二節 露西亞……………二六

第三節 瑞典、諾威、丁抹……………二七

第四節 獨逸……………二七

第五節 奧地利、洪牙利……………二八

第六節 瑞西……………二八

第七節 佛蘭西……………二八

第八節 白耳義、和蘭……………二八

第九節 英吉利……………一九〇

第十節 西班牙、葡萄牙……………二〇一

第十一節 伊太利……………二〇七

第十二節 バルカン半島諸國……………二一五

第十三節 歐羅巴洲總括……………二二四

第四章 亞弗利加洲……………二二七

第一節 總論……………二二七

第二節 各國誌……………二四五

第三節 亞弗利加洲總括……………二五六

第五章 北亞米利加洲……………二五九

第一節 總論……………二五九

第二節 加奈陀……………二七四

第三節 亞米利加合衆國……………二七九

目次終

第四節 墨西哥、中央亞米利加諸國、西印度諸島……………二九五

第五節 北亞米利加洲總括……………三〇五

第六章 南亞米利加洲……………三〇七

第一節 總論……………三〇七

第二節 南亞米利加洲諸國……………三二七

第三節 南亞米利加洲總括……………三二九

高等小學地理實際的研究 上編

宮城縣師範學校教諭

野口吉郎 治

宮城縣師範學校訓導

本田甚平 共著



第一章

高等小學地理書編纂の趣意

第一、現今使用の高等小學地理書

現今高等小學校に於て使用する高等小學地理卷一及び卷二は、明治三十七年四月以後使用の舊教科書に修正を施したるものにして、修正の必要を生じたるは一は舊教科書編纂以後に於ける地理的事項の異動と、一は義務教育延長の結果小學校令施行規則中地理科課程の改正を見るに至りしとに由りてなり。而して其の修

正に際しては舊教科書實地使用上の經驗に基づく意見を考量參酌して編纂せるものなれば實地使用者は能く其の趣旨を體得し、教材を研鑽し、以て遺漏遺算のなき教授をなし、本科教授の目的を貫徹するに助めざるべからず。

第二、教材の選擇及び排列

前述の如き理由と必要とによりて編纂せられたる高等小學地理卷一及び卷二は、如何なる教材を選擇し排列せしか、これ本書を使用する實際家たるもの第二に注意すべきことなりとす。即ち明治四十年文部省令第六號發布に依り、小學校令施行規則中地理科課程に改正を加へられたる以來、尋常小學校に於て新に滿洲の地理の大要及び本邦との關係に於て重要な諸外國の地理に關する簡單なる知識を授くることゝなりたるが爲、自ら高等小學地理卷一より滿洲地理の如きは省略せらるゝことゝなれる所以なり、又外國地理の地名は其の地と我が國との關係の親疎如何に依り増減したる結果、是亦大體に於て舊教科書より幾分の減少を見るに至れり。卷二は前學年までに教授せる地理の知識を概括、増補し併せて我が國

の世界に於ける地位を知らしむるに必要な教材を選擇せり。尙教材選擇に關してその標準ともなるべき教則を示せば次の如し。

教則第六條第三項

高等小學校ニ於テハ各大洲ノ地勢氣候區劃交通等ノ概略ヨリ進ミテ本邦トノ關係ニ於テ重要ナル諸國ノ地理ノ大要及本邦ノ政治經濟上ノ狀態竝ニ外國ニ對スル地位等ノ大要ヲ知ラシメ又地文ノ一斑ヲ授クベシ、

其の他右の教則に準據して選擇したる各大洲の地勢、産業、交通、都會、區劃等、すべて適切にして顯著なるもの、屈指にして必要なものゝみを選択せる方針に至りては、尋常小學地理書と略同様なり。

排列につきては、高等小學地理卷一は、亞細亞洲を始として、各大洲に及び、主要なる諸外國の地理の大要を説けること、舊小學地理第三卷の如し。たゞ朝鮮及び滿洲に關する地理の全部を省き、大洋洲を濠太刺利、本洲の諸島の二部に分ち、瑞典、挪威と丁抹、白耳義と和蘭を併記せるが如きは著しき異動なりとす。而して其の説述の體裁は、大體尋常小學地理卷一と同様にして、各州の總論は、尋常小學地理卷一中

各地方の一に相當し、各國は同卷一中各地方の二、即ち各府縣に相當せり。高等小學地理卷二は、系統に重きを置きたるが爲に、舊教科書に比して著しき異動あり。又各項に於ける記述の順序に就きては、概ね先づ大體の説明をなし、次に世界に於ける例を擧げて地理に關する概括的知識を與へ、更に我が國に於ける例を授くるを以て本則とし、以て本邦の地理に關する知識を一層確實ならしめんことを期したり。尙新舊兩教科書を對照して、記述の順序、體裁を檢察せば、一層其の異動得失を發見すべし。其の他兩卷共に地名、產物名、挿畫、圖表、分量等につきても多きを求めず何れも適切にして必要なるもの、みを探擇せり。之を要するに、現在使用の修正高等小學地理書は、舊教科書實地の使用に基づく意見を參酌考量して、修正増補したるものなれば、よく編纂の趣旨を明にして本書使用の目的を謬らざるやう注意せざるべからず。

第二章 高等小學地理書取扱上の實際的注意

高等小學地理編纂の趣旨前述の如し、而して之を實際に使用するに當りて、如何なる點に注意してその趣旨を貫徹すべきか、研究を要すべき須要の問題なり。材料そのものにつき充分の調査研究をなして教授すべきは勿論なるも、先づ如何なる注意の下に之を善用すべきかは、恰も事業に對する方針の確立を第一に要すると同様に最初に決定し置かざるべからざることなりと信ず。この意味よりして材料そのものの研究に先だち兩卷につき聊か注意すべき梗概を述べんとす。

第一節 高等小學地理卷一

高等小學地理卷一は前章に於て述べたるが如く、大體尋常小學地理卷一と同様なり。従而之が使用上の注意も尋常科に於て述べたること、大同小異なり。即ち

第一、各大洲の總論教授の場合

各大洲の總論教授は日本地理に於ける各地方一の教授と同様なれば、その洲の位置、境界、住民、區分等を知らしむること勿論なるが、更に地勢と氣候、産業及び交通と

の地理的關係を有機的に説明し、以て統一的觀念を有たしむる様教授すべきは總論教授の主眼なり。尙各國地理教授の豫備となり基礎となる様其の連絡關係を適宜にして、各國地理教授の出發點をこゝに求め次に學習すべき各國地理に對して推究の念を惹起せしめざるべからず。又全部を終りたる後總論と合せてその洲を一全體として復習をなし、自然地理と人文地理との關係を一層明瞭ならしむる様注意せざるべからず。

第二、各國地理教授の場合

各國地理の教授は、これまた日本地理教授の各地方の二各府縣地理教授の場合と大同小異なり。故に總論に於て教授せし基礎の上に來たらざるべからず。換言せば總論の材料と連絡關係を失はざる様互に緯となり徑をなす様教授せざるべからず。更に其の國につき、特に主眼とすべき點を發見して、其の國教授の目的を貫徹するやうにし、又他國と連絡すべき部面は之を比較聯係せしめ、以て知識を確實に把持せしめざるべからず。特に我が國と比較すべきことは一層必要にし

て直接の利害關係あるものは更に之が比較を詳にせざるべからず、即ち地勢の上より、産業の上より、又交通貿易の上より、進んで教育軍事政治に至るまで比較し得べきことは其の機を失はず比較し、以て明瞭に我が國の地位を自覺せしめ、愛國心を鼓舞獎勵すると共に、所謂偏見固陋に陥らざる世界的日本人たるの考を持たしむるやう教授せざるべからず。又各國地理材料中の沿革に關する部面は、枝葉に涉らず、詳密に失せず、よく過去より現在に至るまでの經過を明にして、其國國史の一斑を窺はしめ、以て現況を推量せしむるやう注意せざるべからず。

第二節 高等小學地理卷一

高等小學地理卷二は、前學年までに學習したる日本地理及び外國地理の上に、更に内外地理の補習並に地文の一斑を知らしむるを以て主眼とするものなれば、實地教授者は教材に對する充分の調査研究をなし、所謂地理に對する豊富なる知識を以て教授すること第一に心掛くべきことなりと信ず。更に本書を教授するに當り注意すべき點をあぐれば左の如し。

第一、地球、地球の表面、陸地、海洋、大氣等に關する所謂自然地理教材教授の場合

右の教材に屬するものは第一の地球、第二の地球の表面、第三陸地の山脈、火山、地震、溫泉、河川、湖沼、平原、地殼の變動等、第四海洋の海水、海底、海流、潮汐、波浪等、第五大氣の氣溫、風、雨、氣候等、第六の生物の分布これなり。而して該教材教授中留意すべき二つの事項あり。

一、地理學上の概念又は理法を發見せしむること必要なり

一例をあぐれば、河流について内外地理に於ける重なるものを授けし後抑河は如何なる所より發して海に注ぐものなるか、其の流るゝや途中如何なる作用をなし、自然の上に、人事の上に、影響を與ふるかを浸蝕、運搬、沈積の三作用知らしめて、地理學上の理法を發見せしめざるべからざるが如き之れなり。

二、右の概念又は理法より實例を考へしむることも亦必要なり

即ち右の概念理法を原則として、各種の場合につき、其の解釋をなさしめ、以て自然

と人文との發達關係を推察せしむると、共に他日實際に臨みて活用理解を充分ならしむるやう努めざるべからず。

第二、人類、國家、政治、教育、産業、交通、都會等に關する所謂人文地理教材教授の場合

右の教材に屬するものは、卷二中、第七人類、第八國家、第九政治、第十教育、神社、宗教、第十一及二の産業、第十三の交通、第十四の都會等なり。而してその注意すべき點は

一、自然地理は人文地理の基礎たり豫備たること

自然地理は人文地理の基礎たり豫備たること今茲に贅言を要せず。世は文明に進み人智開發するに従ひて、益々自然を利用し自然に打勝ちて種々の事業をなすと雖、宏大なる自然其の物より觀察するときは、實に一小部分に過ぎず。されば自然を基礎とし豫備として天然の良所に人智を施さば、茲に人文上の發達進歩は期して待つべきなり。故に善美なる自然を有する國民は之を基礎とし豫備とし出發點として、更に發展せしむべく、然らざるものは人智を以て或る程度まで自然に

打勝ちて之を利用し應用して發展興隆を圖るやう努めざるべからざることを現時各國の狀況に照して推究會得せしむべし。

二、本邦の地位及國勢の大要を悟らしむること

人文地理記載の順序は、先づ一般を説きて其の理法を授け次に我が國の狀況に及ぶを常とせり。されば内外の政治、交通、經濟、教育、軍備、宗教等の事項を補習する時は、特に彼我の狀態並に優劣、否を對照比較して、判斷をなさしめ、以て本邦の地位國勢を自覺せしめ、偏固なる愛國者とならず、世界列強と我が國とは常に有機的關係のもとに、發展進歩すべきものなることを悟らしむるやう教授せざるべからず。

三、比較統計圖等を利用して全體を大觀せしむること

右の外教育、軍事、貿易、交通等に關する比較統計圖を利用して、一目瞭然世界の狀態を目撃せしめ、全體を大觀せしむることに注意せざるべからず。斯くして自國の狀態を顧みれば多言を要せずして自國の地位を悟り發奮するところあるべし。要之、高等小學地理卷二は既に學習したるものを基礎として、内外地理の補習をなすと共に自然地理の概略を系統的にまとめ、以て地理に對する知識を一層確實に

せんことを期したるものなれば過去の知識を參酌し常に大體を把握せしむることに注意し、自然と人文との連絡關係を密接にして、之が統一を圖り、大人らしき日本人として、偏狹に陥らず、世界的に流れず、世界と日本、日本と世界との關係を部分と全體、全體と部分の如く密接ならしめ、以て誤なき眞の愛國心を養成し、他日忠良の臣民として邦家隆昌に盡力するところの者たらしむるやう教授せざるべからず。

第一編 高等小學地理卷一の研究

第一章 亞細亞洲

第一節 總論

第一、要旨

吾人の住せる亞細亞の位置、面積、地勢、氣候、產物、生物、住民、宗教、區分等につき授け以て自然地理と人文地理との關係を知らしめ、次に學習すべき本洲内各國地理

の、基本を明にし、その連絡を保たしむ。

第二、區分 凡三時間

第一時 位置、面積、地勢

第二時 氣候、生物產物、住民

第三時 宗教、區分及全體の概括

第三、教辨物

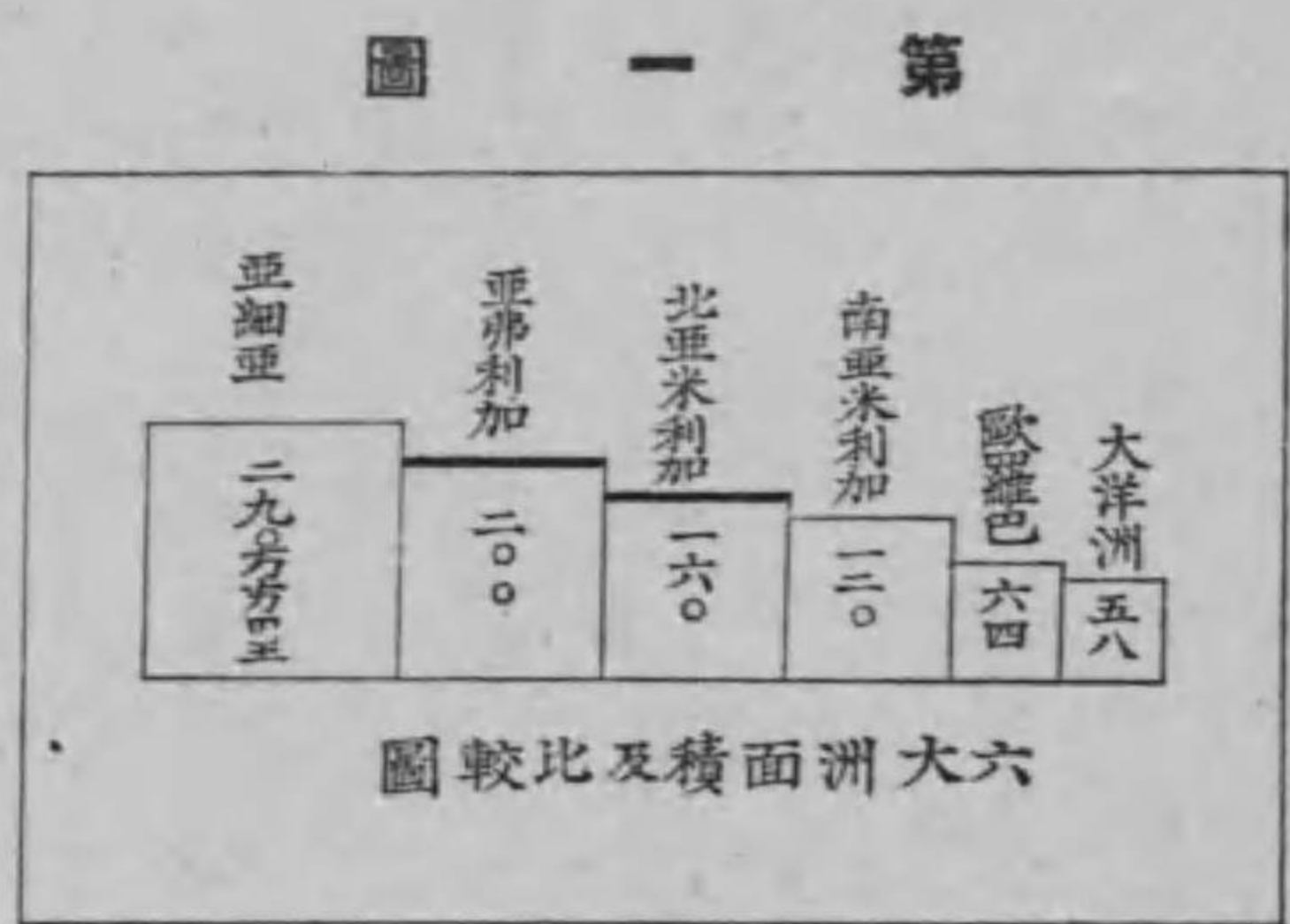
地球儀 世界全圖、亞細亞洲地圖及地勢圖、生物產物の繪畫若
は模型、區分圖等

第四、教授材料

一、位置

亞細亞洲は東半球の東北部にあり、地球儀使用北は北氷洋に東は大平洋に南は印度洋に臨み西はウラル山脈裏海黒海を境として歐羅巴に續き、又長さ約四十里幅二百尺なるスエズ地峽によりて僅に亞弗利加と切斷せらる。(尋常小學地理書卷二参照且つ世界全圖を使用すべし)

二、面積



圖一第

圖比較及面積洲大六

亞細亞洲は、六大洲中最も大にして、南北廣きところ約二千六百里、東西廣きところ二千八百里、徑度一百六十度の間に跨り面積約二百九十萬方里、實に世界全陸地の三分の一を占め、我が國の約六十七倍に相當する大陸なり。今六大洲の面積を比較せば第一圖の如し。

三、地勢

地勢は甚だ複雑にして、中央部は土地一般に高く、これより四方に大山脈派出し、本洲の中央より稍南に當りてバミール高原西藏高原と稱する大高原あり、前者は平均の高さ一萬尺以上、後者は平均一萬四千尺以上の高さにおいて、實に世界第一の高原なり。教科書の挿畫はバミール高原を示し、旅行者の通行せる道路土人の住家なる天幕小屋のあるところは、我が富士山の頂位の高に相等す。故に植物と覺しきもの一も見るを得ず。土着の住民はこの高原を「世界の屋根」と稱すといふ。この屋根より派出する山脈を見

るに第二圖の如し。

パミール高原より東南に走るは、ヒマラヤ山脈にして、脈中には高さ凡三萬尺の

エベレスト山を始めとして二萬尺以上の

高山甚だ多し、エベレスト山は我が富士

山の二倍半に近く世界第一の高峯なれ

ば頂上には四時白雪皚々たり。

○近時バプア島のノース山脈中にある

ヘルキユルス峯は海拔三萬二千七百

八十六呎なるを發見せしと雖今は暫

くエベレスト山を以て世界最高とな

す。

高原より東に向ふは、崑崙山脈にして、後

ち北嶺南嶺の二派となり、一派は陰山山脈より滿州の西方興安山脈と連絡す。ヒ

マラヤ山脈と崑崙山脈との間は有名なる西藏高原にして、高原中にはヒマラヤ山

圖二第



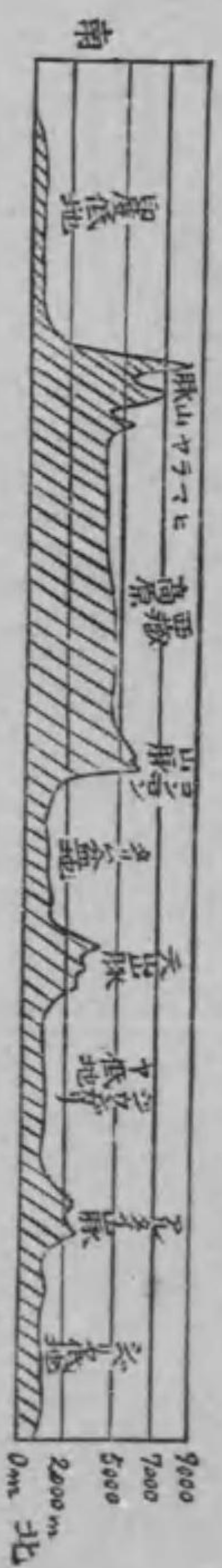
脈と並行してトランスヒマラヤ山脈聳立せることを、瑞典の探検家ヘディン博士によりて確められたり。

パミール高原の東北方には天山山脈アルタイ山脈あり、更に延びてヤブロンイ、スタノボイ山脈となる。崑崙山脈と天山、アルタイ、ヤブロンイ山脈との間には蒙古高原タリム盆地あり。

パミール高原より西方にはヒンヅークシ山脈連互し、エルブルス山脈に至る。パミール高原の南に向ふはスリマン山脈なり。断面圖を示せば第三圖の如し。

東徑八十七度邊ニ於ケル亞細亞ノ南北断面圖

圖三第



如斯亞細亞洲の山脈は稍中央なるパミール高地より五方に向つて支出せらるゝが故に大體四ツの斜面地を生ず。隨て河流は概ね中央高地に發源して、四斜面に別流することとなるは蓋自然の勢なり。先づ

第一に大平洋斜面に流るゝ重なるものは、黒龍江、黄河、揚子江、珠江等にして、黒龍江はヤプロノイ山脈に發源して、滿州より流れ來る松花江を合せ、北東に折れ間宮海峽に注ぐ、長さ凡そ一千里。

黄河は單に河と稱せられ、崑崙山脈の中部に發し、渭水を合せ洛水を入れて東北流して勃海に注ぐ。河水黄土を含み常に濁れるを以てこの名あり。長六百五十里、支那北部平原を灌漑す。

揚子江は單に江といふことあり。源は崑崙山脈に發し支那四川省に入りて、三大支流を合せ、東流海に注ぐ。長さ一千三百里。世界第四の長流、水利の便甚だ大なり。流域の平原は沃野千里の稱ある中部支那平野にして、支那の寶庫たり。

第二印度洋斜面の大なる河はメコン河、カンジス河、印度川等なり。メコン河は西藏高原の東部に發源し、印度支那平原を作り南流海に入る。長さ約一千二百里なり。

ガンジス河は中部ヒマラヤ山脈に發し、東より來るブラマプトラ河を合せ、河口に至りて數條に分れ、一大三角洲を作りて、ベンガル灣に注ぐ。長さ六百七十里。

インダス河は西ヒマラヤ山脈より出で有名なる五河地方を過ぎ、南西流してアラビヤ海に注ぐ。長さ七百九十里餘あり、前者と共に印度大平原をなす。

第三西南斜面の大河といふべきはチグリス、ユーフラット河あるのみ。この二河はアルメニヤ高原に發し、下流に於て相合してシフトエルアラブ河と改名して、ペルシヤ灣に入り、流域は名高きメソポタミヤ平原をなす。

第四北氷洋斜面にはオビ、エニセイ、レナの三河あり。オビ河はアルタイ山脈中に發源し、北流オプ灣に注ぐ。長さ一千三百里。

エニセイ河はアルタイ山脈より發し、一度バイカル湖に入り、出で、北流し、カラ海に入る。長さ一千一百八十里。

レナ河はバイカル湖の西方に發し、北流して河口に三角洲を作り、海に注ぐ。長さ一千二百里。

その外本洲には内地河多し。(海に注がざる河をいふ)タリム河、イリ河、アム河、シル河等は其の良例なり。更に以上の河について見るに、黄河と揚子江、チグリス、ユーフラット、アム、シル河の如く發源地相近く中流に於て相離れ、下流に於て再び相接

近して、海若くは湖沼に入るは本州の河の一特色にして、双子河の稱これより生ず。湖沼の大なるものは裏海、アラル海、バイカル湖などなり。

○裏海は世界第一の鹹湖、面積二萬八千方里、水面は地中海の海面以下に位し、海跡湖の良例なり。

○アラル海も鹹湖にしてその水面は海面上、百八十尺のところにより。面積四千方里、アム、シルの二河これに注ぐ。

○バイカル湖は面積一千二百方里、海面上八百尺のところにより。

○バイカル湖は亞細亞洲に於ける淡水湖の最大なるものにして、湖面の高さ一千百尺、面積二千一百六千方里。

右の外シリヤ地方には有名なる死海あり。

海岸は、太平洋及印度方面に於て出入殊に著しく、太平洋方面には、カムチャツカ半島、朝鮮半島、印度支那半島等あり。其の海上には、北に日本列島、中部にフィリピン群島、南部に馬來群島等ありて、其の間にオホーツク海、日本海、東支那海、南支那海等を圍む。又印度洋方面には、印度半島突出し、其の西北には亞刺比亞半島ありて、亞

弗利加との間に江海を挟み、東南には馬來半島突出してベンガル灣と南支那海とを分つ。如斯亞細亞洲大陸は半島島嶼に富み、全面積の四分の一はこれを以て占む

各大洲の面積を圓と見做し其圓周と海岸線の割合を示す圖



るが故に、海岸線の發達は、優、良の位置にあるべき筈なるに、第四圖に示せる如く、實際はこれに反し、歐羅巴州北米利加洲の次に位す。これ本洲は三方大洋に面するも其の一方なる北氷洋沿岸は極めて單調にして、一萬七千里にして、平均二百四

四、氣候

本洲は面積廣く地勢複雑なるが故に各地の氣候一様ならず。中央部及び北部は大陸性にして、寒暑の變化殊に甚だしく、北部平原の中のヤナ川の流域にあるベル

ホヤンスクは、人類の住所として、の最寒の地にして、酷寒の時は零下七十度、一月の平均零下四十九度に降るといふ。東南沿海の地方は一般に温和にして、東南部及び南部は季節風の影響を受けて、降雨甚だ多く、世界最多雨の地なるアッサム(印度の東北方ブラマプトラ河の流域)地方は一ケ年十五米突以上に上る、これに反し中央部より西南部に至る一帯の地は、海洋の影響を受くること尠なきが故に降雨乏しくして、沙漠(コビ、タクラマカン、波斯、アラビヤ)草地(中央亞細亞、アラル海附近)相連なり、本洲の西部地中海岸は氣候稍温和なり。又世界の最暖地方は亞刺比亞のマスカット地方及びイラン高原の沙漠中にあり。

五、生物産物

生物は大いに氣候の影響を受けて各地多趣多様なり、南部熱帯に屬し、且つ雨量多きを以て植物の成長甚だ盛にして、椰子樹、榕樹、チーク、ゴム樹等の植物に富み、又動物には象、狸、鱷、大蛇、犀などの猛獸、毒蛇を始とし、孔雀、鸚鵡の如き美麗なる鳥など棲息す。南部より東南部にかけては、米、麥、茶、桑などの農産物多く、内部の草地地方には馬、駱駝、羊等の牧養行はれ、高原地方には、犂牛の如き有用動物もあり、されど北

方に至るに隨ひ、生物次第にその種類を減じ、極北部には僅に矮小なる樹木(柳、躑躅の類)及び苔類を生じ、動物には馴鹿、白熊、狐等徘徊するに過ぎず。

第五圖 椰子の一種 (棗椰子樹)



○椰子樹、砂粘土質の地にして海より微風を送る濕地に繁殖す、高さ六十呎乃至八十呎に達し頂には十八乃至二十呎の羽毛狀の葉を有す。(第五圖及教科書十九頁の挿畫参照)菓實は食用、根は藥用、莖及葉は建築用に供す。

○チークは高燥なる辟地に

單生し、決して叢林をなさず、雜木の中に單株を發見するのみ、材質堅緻にして昆虫の侵害なく、久しきに堪ふるところより、鐵道の枕木及船材に重用せらる。

○教科書挿畫は印度支那地方に於て象を使用してチーク材を運搬せしむる狀況なり、小屋は製材に従事する土人の休憩所なるべし。

○駱駝は沙漠地方に産する動物にして、形馬似て大く、高さ八尺許、頭は羊に似て長く、頸の長さ四尺許、頭より蹄まで一丈許、胸より尾本まで九尺許、全身褐色、脚高くして三節あり、背に肉鞍出づ二箇なるは亞細亞産にして、毛長く、一箇なるは亞弗利加産にして、毛短し。ウラル、アルタイ山の兩山脈中より金、白金を産しウラル山の如きは世界第一と稱せらる。



第六圖 チークの枝

○裏海附近よりは石油を産し世界第二なり。
○支那の鐵、石炭は無盡藏と稱せられ、マライ半島の錫は世界第一の稱あり。

六、住民

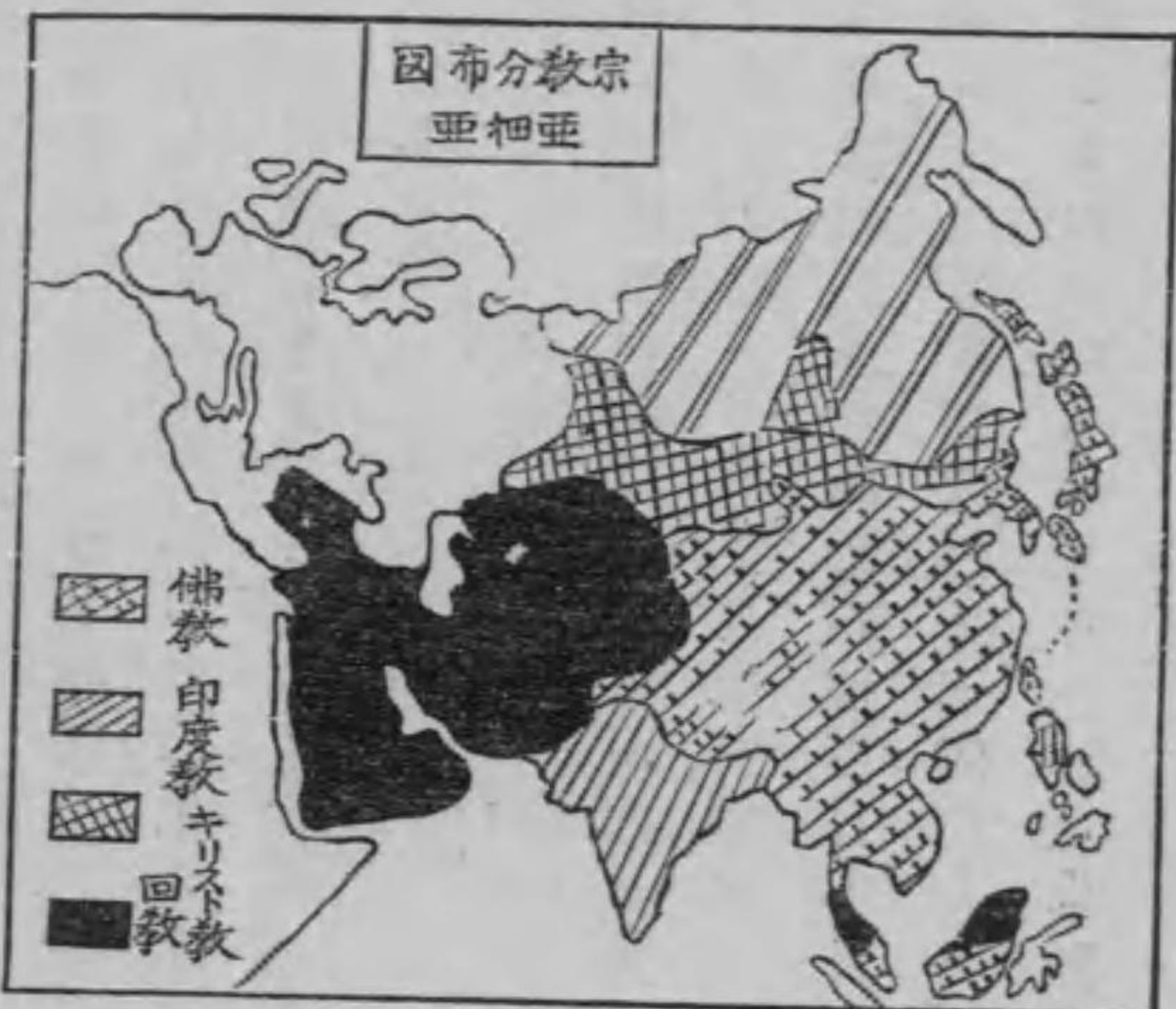
住民は其の數八億八千四百萬に餘り世界人口の過半を占め、その大部分は東部及南部の季節風帯に住す、人種は亞細亞人種に屬するもの最も多く五億七千萬人に及び東部及中央部に住む。歐羅巴人種に屬するものは、印度半島及び其の以西の地又は西比利亞に住し、其の數二億五十萬に達し。馬來人種は其の數遙に少く馬來半島及同群島を重なる住地とす。

七、宗教

本洲に行はるゝ宗教の重なるものは佛教、印度教、マホメット教、基督教とす。
○佛教は、釋迦の教にして、迷を開き悟に至らしむる人の道を説き、慈悲慈愛を主とするものなり。信徒四億四千萬、支那、日本、印度、印度支那地方に多し。
○印度教(波羅門教)佛教の前身にして、元印度に盛に行はれたるものなり。この宗教にては階級制度嚴重(四階級)なり。釋迦が波羅門教の弊を認めて、更に唱道したるものは即ち佛教なり、印度佛教信徒約二億三千万、印度を主とす。
○マホメット教は西曆五百七十年、ムハメットが亞刺比亞のメッカに生れ、アラート稱する唯一神を尊崇すべきを説けるものなり、信徒二億二千五百萬、波斯、土耳其、其

亞刺比亞の地方を其の中心とす。

第七圖



東南岸より廣く内地に亘れる地方を占め、其の面積甚だ大にして、凡そ本洲の四分

八、區分

○基督教は西曆紀元前四年に生れたるキリストの唱道したるものにして、四海同胞、博愛主義の教なり。信徒約六億三千九百萬、主として歐米其の他各地方に行はる。

以上の宗教は何れも本洲に起りて世界の大宗教となり、廣く地球上に普及せるを以て、世人本洲を稱して世界宗教の搖籃といふ。蓋謂なきにあらず。

の一に當る、此の外獨國立として、西南部に波斯あり、印度支那半島の中部に暹羅あり、以上の三國を除きては概ね西洋諸國の領土となれり。其中露西亞帝國の一部なる亞細亞露西亞は、本洲の北部より西部に涉りて、全洲の三分の一以上の地を占め、土耳其帝國の一部なる亞細亞土耳其は本洲の西南部にありて稍、大なり。英領印度は印度半島、印度支那半島の西部を含み、これまた廣大の地を占む。佛領印度支那は印度支那半島の東部を占め、蘭領印度は馬來群島の大部分に涉れり。

九、注意事項

- 1、本洲の地勢はあらゆる地理的事項を含有する材料なれば地勢に最も注意して、其の關係するところを明にし、地理の基本觀念を確實にすることに努むべし、
- 2、地勢と氣候、氣候と天産物との關係は有機的關係をなして密接ならしむる様教授すべし、
- 3、本洲には國勢の振はざる國多く、殊に大部分は他國民跋扈の地たることに注意すべし、
- 4、全體を教授し終りたる後次の問答をなしその觀念を概括整理して明瞭ならし

むべし、

- イ、亞細亞洲の地勢は如何に、
- ロ、亞細亞洲の氣候と天産物との關係を説明せよ、
- ハ、本洲内各國の狀況を述べよ、
- ニ、本洲内の住民の數及び其の種族を述べよ、
- ホ、本洲と宗教との關係を述べよ、

第二節 支那

第一、要旨

支那の位置、面積、地勢、産業、交通、住民、行政上の區分、都邑、沿革に關する大要を授け、以て其の現時の國勢を知らしめ、且つ我が國と關係深き點を悟らしむ。

第二、區分 凡六時間

- 第一時 位置、面積、地勢、産業
- 第二時 交通、住民

第三時 行政上の區劃及支那本部(北部)、

第四時 支那本部(中部)、

第五時 支那本部(南部)、蒙古、新疆、青海、西藏、

第六時 沿革、政治、全體の復習概括、

第三、教辦物

支那地勢圖、米の統計圖、生糸の統計圖、支那區分圖、北京市街圖、威海衛及膠洲灣圖、上海附近の圖、漢口武昌漢陽鼎立圖、香港附近圖等、

第四、教授材料

一、位置面積

支那は亞細亞洲の東部斜面地の大部を占め、面積凡そ七十一萬方里にして、我が國の約十七倍に當り、本洲の四分の一、世界第四の大國なり。

二、地勢

土地の大部分はバミール高地より發する諸山脈及びその間の高原の占むる所なれば、山地多けれども山脈高原より發する諸川の下流域地方は、廣大なる平野をなして國中の重要部をなす。東北方の滿州平原には松花江、及遼河ありて之を濕し、

支那地勢圖 第八圖



支那本部の北部平原には黄河之を貫流して、下流には凡そ三萬方里一億以上の住民を有する平野あり。支那中部平原は即ち揚子江の灌域にして、物資豊富、人口の夥多なること世界隨一と稱せられ、所謂支那本部の主要部にして、文化の中心地たり。この平野の廣きこと吾人の想像に苦しむ所にして、草より出で、草に入るといふ關東平野の如きは、その一小支流域にも及ばざるべく、實に面積十二萬方里にして我が國の三倍に相當し、人口一億八千萬を數

ふといふ。南部には珠江ありて、支那南部平野を灌漑しその面積二萬五千方里あり。

海岸は渤海灣の遼東、山東の兩半島に抱かれたる外一般に大なる出入なく、たゞ南部支那海の沿岸は小出入に富み、島嶼少なからず。杭州灣、廣東灣の如きは重要な灣をなし、海南島の如きは支那最大の島にして我が臺灣に等し。

三、産業

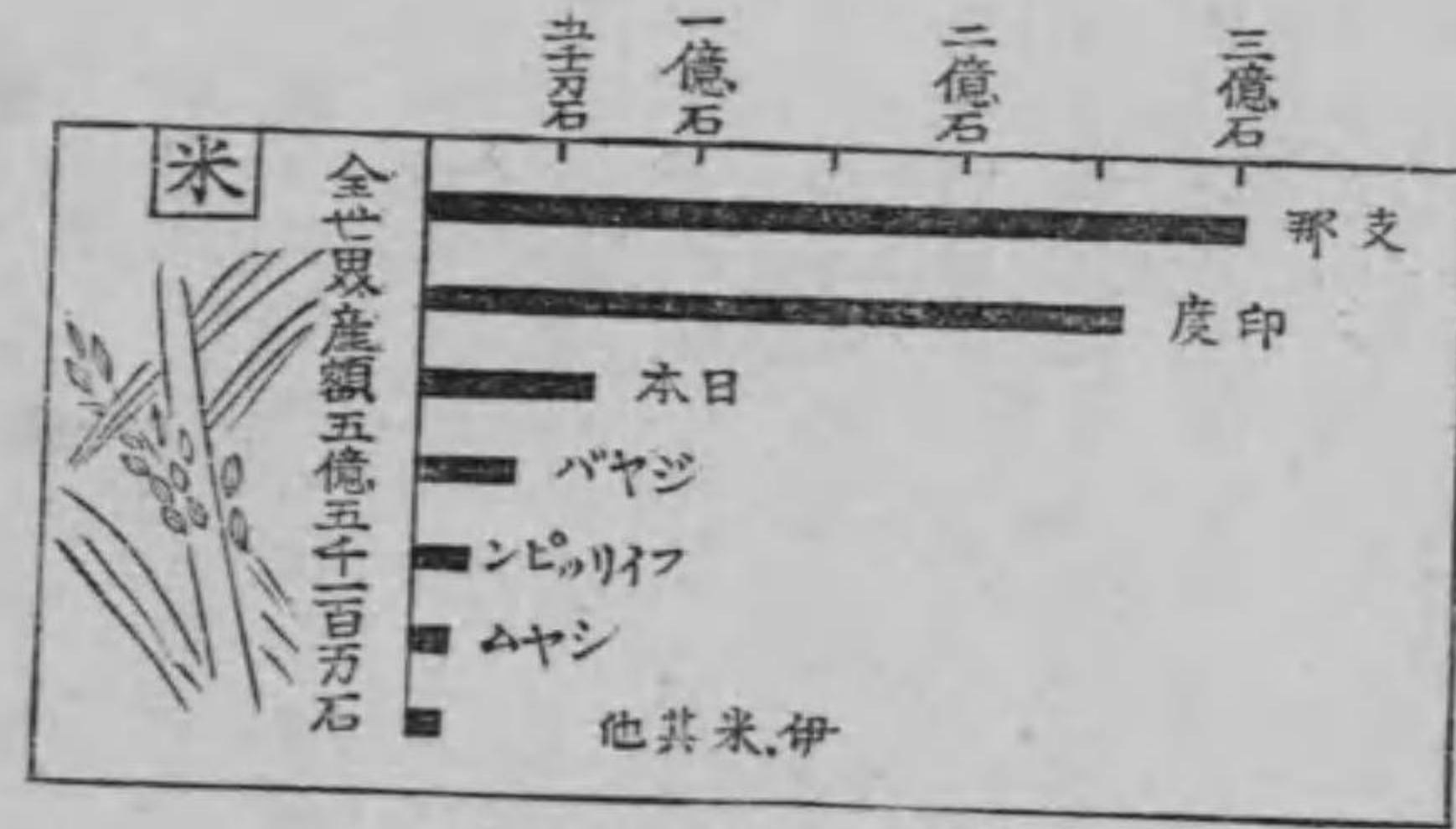
滿洲平野は雨少く、寒暑の差稍大なれども、大豆、黄豆、綠豆、黑豆、高粱等を産すること甚だ多く、日本、英吉利、獨逸等に盛に輸出す。(尋常科の部参照)

○教科書の挿畫は、滿洲地方の大豆貯藏狀況を示すものにして、圖中に見ゆる馬車は畑より大豆を運搬し來れるもの、圓筒狀の小屋は大豆貯藏所にして、高粱の稈にて葺き、周圍を簾にて卷きたるもの、高二三丈、直徑一丈五尺、中に五六百石を入るゝといふ。

支那本部北部平野は土地黄土より成るところ多けれども、小麥、綿の産額尠少なからず。中部及び南部の平野は氣候溫暖にして雨量甚だ多ければ、米、茶等の産に富み

養蠶製糸、砂糖業も亦盛なり。

第九圖



し、其の産額世界の首位を占め、上海は實にその大輸出場なり、佛國を主なる得意先とし、其の産額世界の首位を占め、上海は實にその大輸出場なり、佛國を主なる得意先

米は中部以南の季節風の影響を受くるところに多く世界第一の産額を有し古語に「湖廣湖南湖北熟すれば天下足り、江浙江蘇浙江實れば天下飢えず」と稱す。然れども尙支那人の需用に不足するを以て印度支那半島より輸入す。ここに統計圖(第九圖参照)を示す。

茶は、元來濕熱の地を好むを以て湖廣地方、福建省、四川省、雲貴省等に多く産し、就中福建省を以て最とし九江、漢口、福州はその三大市場なり、産額印度に次ぐ。

生糸は江蘇省、浙江省を以て最盛大の地域とし、江蘇省に於ては蘇州、浙江省に於ては杭州を中心とし、

第十圖(第十圖参照)

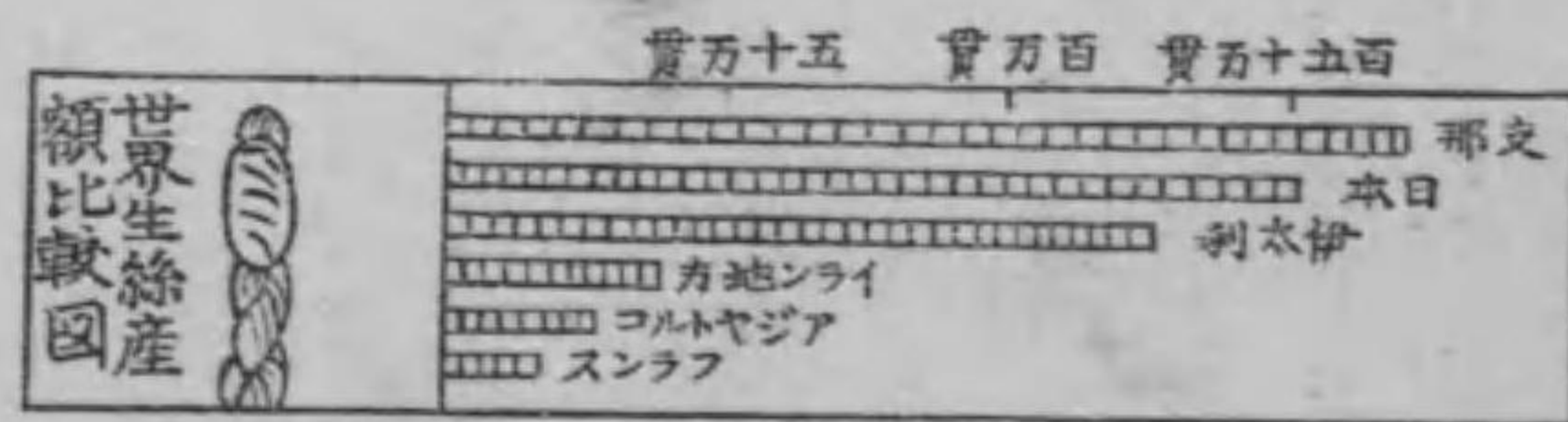
牧畜は、豚の飼養國內一般に行はるこれ支那人の嗜好するところなるが故にして中にも漢口殊に盛にしてその肉甚だ佳良なり。蒙古地方には、駱駝、羊、青海、西藏地方には、犏牛の飼養行はるは一に地勢の然らしむるところなり。

鑛業は、諸種の鑛物に富み、直隸省の開平、江西省の萍鄉、南滿洲等に大なる石炭坑あれども、主として外國人によりて經營せられ、鐵鑛の採掘も大冶鐵山の外未だ盛なりといふを得ず。

工業も未だ進歩せず。故に輸出品は農産物及粗製品に限られ、最も多きは生絲、茶、絹織物、豆類、綿等なり、輸入品は綿布を第一とし、阿片(印度及びビルマ地方より)、米、砂糖、綿絲、綿織物等の精製品なり。一年の貿易額十一億圓に達し、貿易は直接或は香港を経

て行はる、英國を第一とし、日本亞米利加合衆國、印度、佛蘭西、獨逸これに次ぐ。外國貿易の一大中心は上海にして、南支那の廣東、内地の漢口、北部の天津これに次ぎ、

第十圖



支那四大開港場と稱せらる。我が國との取引は綿、豆粕、豆類を輸出し、我よりは綿、石炭、マッチ、綿織物、水産物、砂糖等を輸入し、其の額年輸出八千八百十五萬圓、輸入六千九百九十九萬圓の多きに上り、我が國の重なる華客なり。(明治四十四年の統計)

四、交通

高原地方は、一般に交通不便なれども、東部平原は水路道路の便多く、古來「南船北馬」の諺あるは、蓋し北部は道路稍、整頓し、交通に馬を用ひ、南部は諸大河の本支流と大運河とによりて舟運の便頗る大なるを以てなり。殊に揚子江流域は水運の便甚だ大にして汽船は其の本流の河口より遡ること約四百五十里の宜昌に及び、有名なる大運河は揚子江、黄河等の下流を貫きて南北に通じ長さ三百里に餘れり。鐵道は、近年所々に敷設せられ、支那本部のみにて、二千五百哩の長さには達し、其の主要なるものは北京に起りて、一は南方揚子江沿岸の漢口に至り、更に延びて將に廣東に達せんとし、一は東北に延びて、山海關をへて奉天及び牛莊に於て、我が國の南滿洲鐵道に連絡し、共に南北交通の幹線をなす。今重なる線路をあぐれば左の如し。

イ、京漢鐵道(北京漢口間)七百五十四哩。白耳義の管理、

ロ、京津鐵道(北京天津間)八十七哩。支那政府經營、

ハ、京張鐵道(北京張家口間)百二十三哩。同前

ニ、粵漢鐵道(武昌廣東間)七百十哩。同前

ホ、榆津鐵道(天津山海關間)百七十三哩英國の管理(一部完成)

ヘ、山東鐵道(青島より濟南府迄)二百四十七哩。獨逸の經營

ト、滬寧鐵道(上海より江寧迄)百九十哩。英國の經營

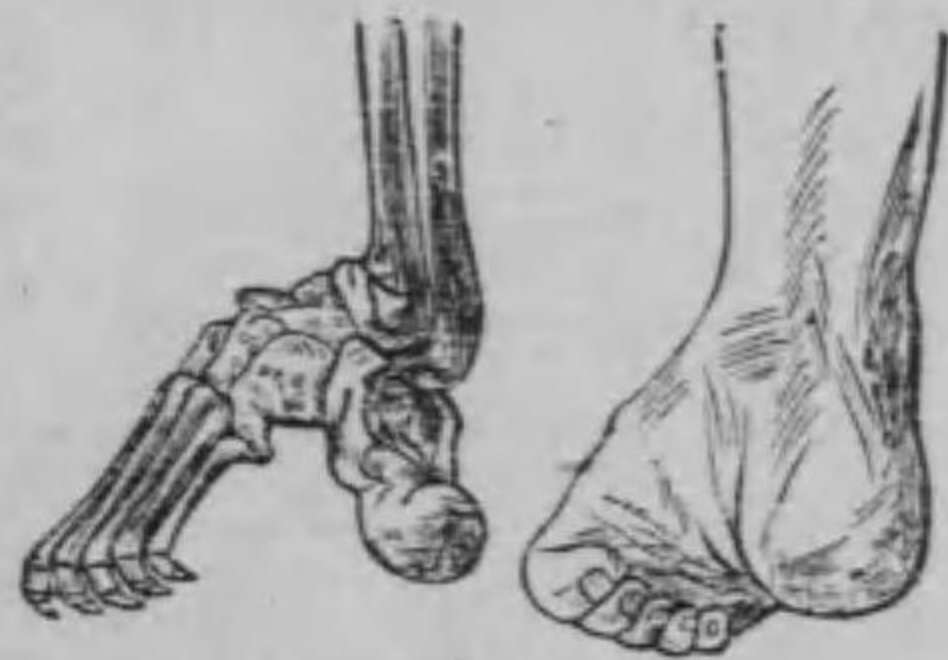
等なり。海運も漸く盛になりたれども、國人の自ら經營するもの甚だ少なく、重要なる航路、殊に揚子江流域、黄河の流域地方との交通は、英吉利及び我が邦會社の獨占到任せらるゝ狀況なり。

○大運河は、隋の煬帝開鑿し、明代に至りて更に之を改鑿して現今の如くしたるものにして、浙江省杭州府に起り、揚子江及黄河を切斷し、天津に至りて白河に通ず。今は填塞して大船を通せず、小船の往來に過ぎざれども、南北物貨の運送上頗る利便を與ふ。

五 住民

住民は、其の數四億三千萬を超え、實に世界人口の四分の一を占め、漢族、滿洲族、蒙古族、西藏族、土耳其族等數多の種族あり。その中最も多數なるは漢族にして、その數四億に及び、所謂支那人と稱せられ、主として沿海地方、揚子江本流の沿岸、珠江の下流地方に住し、局部の人口甚だ稠密なれば、海外に出稼するもの甚だ多く、全世界に涉りて足跡を印す。其の性質、勤勉にして、殊に商業に巧に、營利上の團結心に、富めども、國家的精神の缺乏と、貪慾心に過ぐるは、其の缺點なりとす。一般に男子は辮

第十圖 足纏



纏足は足の骨を縮め、馬蹄は足の骨を伸ばす如く示す

髮をなし、阿片を喫飲し、女子は纏足をなすの風習あるは、これまた大なる弊風なり。

○纏足は、支那婦人の風習として、足の小なるを以て美觀となすより起る。故に歩行困難を感ずるを以て上流社會の婦人は、教科書挿繪の如き一輪車を使用するものあり。

○阿片は精神を魔睡せしむる奇效を有するが故に、之

第二十圖



を吸飲する時は恍惚として、極樂世界に遊ぶとを得るを以て、一旦其習慣を得れば、容易に之を禁ずるを得ずして、其毒膏盲に入り遂に是が爲に瘖死するに至る。滿洲族は、主として滿洲及び北部支那に住し、其の數六百五十萬餘、漢族に比して遙に少なし、曾つては政治上に勢力を振ひしも、今は其の地位を失せり。蒙古族は、蒙古に、西藏族は、西藏に、土耳其族は、新疆省に棲息す。何れも其の數多からず。教育は、未だ普及せざれども、近時漸く先進國に倣ひ各種の學校を設立し、我が國及び歐米諸國の學者教育家を聘して大いに進歩改良を計り、又地方には多數の留學生を日米諸國に派遣して、物質的文明吸收に孜々たり。

六 區分

支那全國を分ちて支那本部十八省、滿洲三省、新疆二省を直省とし、蒙古、青海、西藏を藩部とす。直省には、都督を置き、藩部には、特別の官吏を駐在せし

む。又各省概ね省議會あり。

圖三十第 支那本部區劃圖



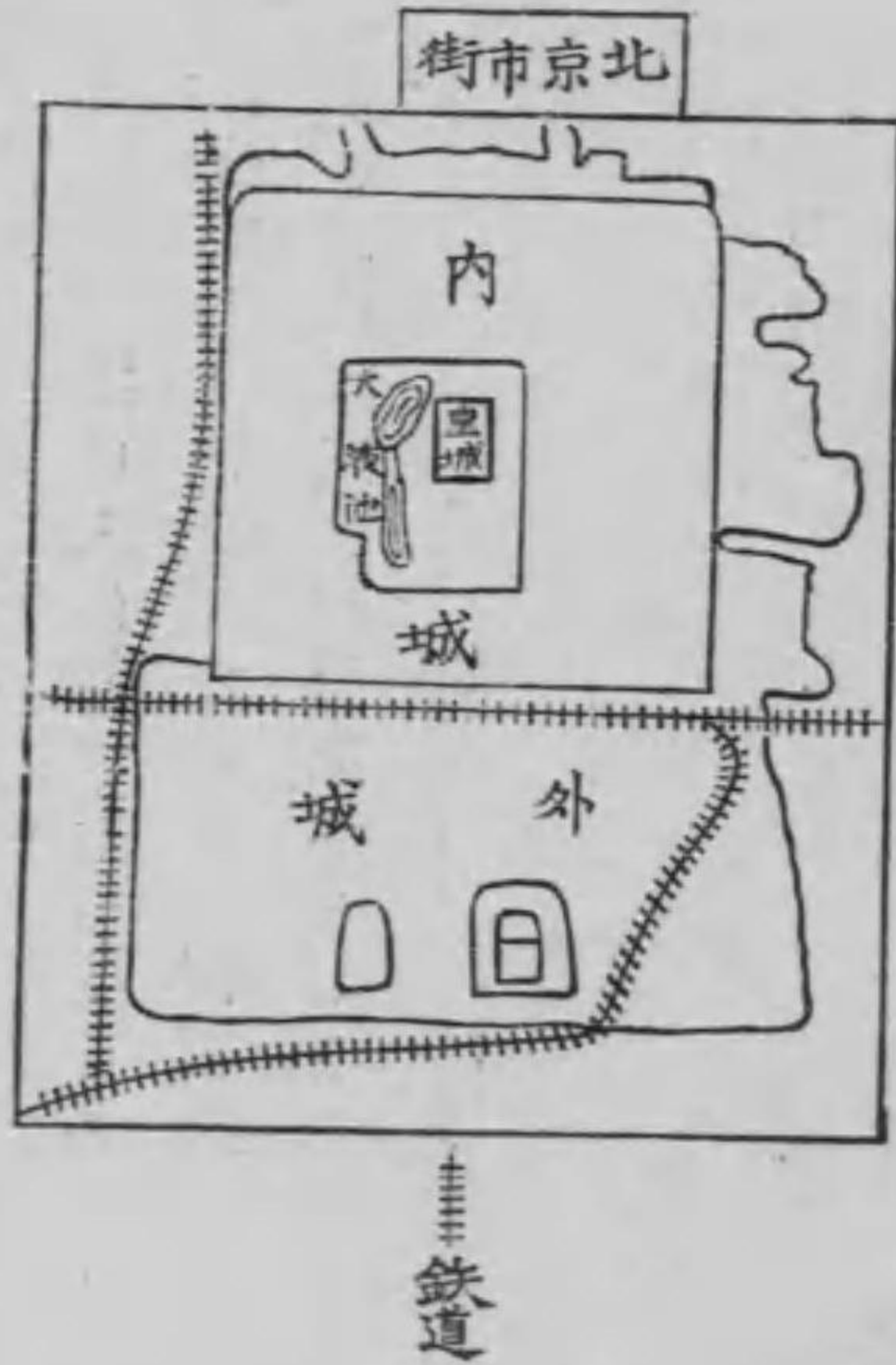
○特別の官吏内外蒙古には阿爾泰辨事長官青海には西寧辨事長官西藏には西藏長官あり。

1、支那本部

支那本部は地勢上北嶺南嶺の二山脈によりて北部中部南部の三大部に分る。

イ、北部(直隸、山東、山西、河南、陝西、甘肅省)は黄河、白河等の流域に屬し、國中の最も早く開けたる地方にして、黄河上流地方は地僻遠な

圖四十第



れども、下流地方は形勝の地を占め、歴史上有名なるところ多し。

○北京は支那の首府にして白河の流域に位し、人口は精確ならざれども約一百万人を有す。市街は城壁を圍らし、廓内を内外二城に分ち、内城には元皇城、官衙等ありて、教科書の挿畫は其の皇城の内門を示す。外城は一般市民の住居に充てられ、繁盛なる商區をなす。街路は廣けれども不潔なり本市の發達せる原因は交通上の要衝たる、古來より屢々帝都となり政治上の中心たりしとを以てなり。

本邦人の在留するもの約八百

人、我が公使館あり。

○天津は北京の外港にして、白河口を廻ること約二十八里のところにあリ。支那

北部に於ける貿易の一大中心地をなし、豆粕、油、茶等を輸出し、綿糸、綿布、マツチを輸入し、我が國よりは海産物、銅を主として入る。人口は八十五萬、冬季河水氷結の爲に三ヶ月間は船舶の出入を杜絶するを缺點とす。明治十八年天津條約締結の地として、國史上注意すべきところなりとす。

天津條約とは、朝鮮に於ける日清兩國の兵を撤し、爾後朝鮮に兵を出す必要あるときは兩國互に相知照することゝを約せるものなり。

圖 五 十 第



○芝罘は山東半島の北岸に位し、物海灣口を扼し、軍事上商業上の要津にして、氣候良好不凍港なるが故に、貿易甚だ盛に我が關東洲との取引多く且つ大連との間海底電線を敷設す、人口六萬餘。

○威海衛は山東半島の東北部、直隸海峽の東南部にあり。劉公島灣口に横り旅順口と、共に天然の良港をなす。日清戦争の折、我が軍のために陥落するところとなりしが、明治三十一年償金皆済と共に、英國に租借せらる。面積七十方里、人口五萬餘。

圖 六 十 第



○漢より唐に至る八百六十餘年の帝都たりき。

○西安は古の長安にして、北京を去る三百五十餘里、黄河の支流渭水の南岸にあり。

○膠洲灣は威海衛と脊合せをなして、半島の南方にあり。明治三十一年獨逸に租借せらる。面積六十一方里餘、域内に青島の良港を有し、軍港と商港とをかね、市街の建築、宛然西歐の風を帯ぶ。人口一萬八千、青島より汽車に乗じて西行すれば、黄河に近く、山東省の首府濟南に達し、更に黄河を廻れば、五代、宋、金の舊都なる開封を過ぎ、河南に至る。河南は昔時の所謂洛陽にして、洛水の北畔にあり。後

關中盆地の中央に位し、東に函谷關を控へ、真に要害の地たるを以て漢、隋、唐の帝都を置かれしところ、史蹟に富み近くは北清事件の際、清帝の避難地として、名高し。人口四十萬今尙一大都會をなす。

○萬里の長城は、所謂北方民族の南侵を防がんが爲に築かれたるものにして、今より二百餘年前、秦の始皇帝が前人の計劃をつぎて、大成せるものにして、爾後、歴代修増築を加へ今日に及べり。東は遼東灣の西岸山海關に起り、西は遙に甘肅省の嘉峪關に終る。長さ凡そ八百里前説の大運河と共に支那古代の二大工事として有名なり。(高等小學讀本卷一第二十四課參照)。

ロ、中部(江蘇、安徽、江西、湖北、湖南、四川省)は揚子江流域の殆ど全部を占め、中流以下は水利甚だ便地、味豊沃、物産饒多、住民の稠密なる繁盛なる都會多きことに於て、支那中他に其の比を見ず。實に支那の寶庫たるに背かず。

○上海は圖に示す如く、揚子江の河口に近き黃浦江に沿ひ、河口より六十一海里の所にあり、支那第一の開港場にして、商業甚だ盛んに、生絲、綿茶の輸出、綿布、綿絲、阿片の輸入多し。殊に生絲の輸出に於ては、我が横濱と共に世界二大輸出場と稱

第七十圖



せられ。工業も近來頗に勃興し、造船業の如き、本國第一にして、其の外製絲、製粉

業なども盛大になれり。人口一百萬に近く我が長崎を去る四百六十三海里、四十時間にして達するを得べし。東洋航路の一大中心をなし、我が領事館あり。教科書挿畫は上海の埠頭にし

て、外國居留地の市街を示す。河は即ち黃浦江なり。○蘇州は上海の西、二十八里鐵道の便あり、絹織物の名産地にして、蘇州絹の名は天下に名高く、人口三十萬、馬關條約によりて開かれたる開港場にして、我が領事館、專管居留地ありて、風景絶佳なるところなりといふ。

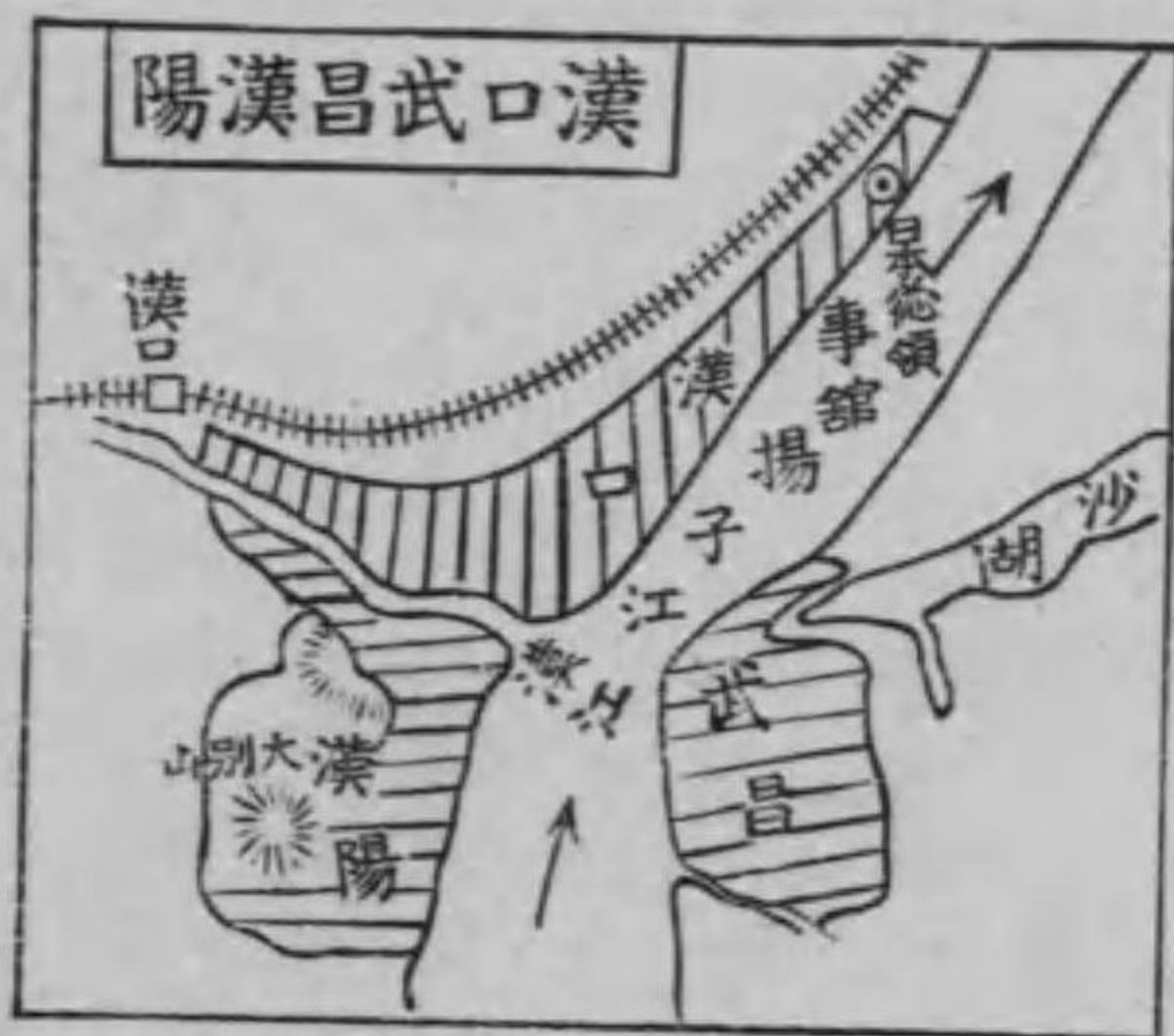
○杭州は蘇州の西南にあり。錢塘江に瀕し、大運河の南起點にして、蘇州と共に絹

織物を産するを以て名高く、馬關條約によりて開かれたる貿易港なり。人口七十萬

○江寧は、一に南京と稱せられ、揚子江の下流南岸に臨み、人口四十萬、古來支那文化の中心地となり。吳、東晉、南朝、及明の舊都なれば、市内には史蹟甚だ多し、一千八百四十九年長髮賊の侵略を受けて、市街は荒廢し、加ふるに最近革命軍の據るところとなりて、一入荒涼の姿となりたれども、支那南部の要地なれば、雖て舊觀を呈するに至るべし。

○漢口は漢江の本流に會合するところにある揚子江中流の大開港場にして、揚子江口を遡ること約五百八十海里の上流地にありて、對岸の武昌、漢陽と共に三鼎足をなし、内地商業の一大中心にして、東洋のシカゴと稱せられ、貿易年額一億五千萬兩に及び輸出の重なる

圖八十第



ものは茶、綿花、豆等にして、日本よりの輸入品は綿絲、綿布、銅、海産物等を主要なるものとす。人口八十萬

○武昌は人口三十萬餘、商業盛に、且歐羅巴風文化の一大中心地たり。漢陽は人口十六萬餘、大別山下に製鐵所、及兵器製造所あるを以て名高し、最近革命軍がこれを占領せんと企てたるにより、一大戰場となり、慘害を蒙ること多かりしといふ。武昌の東南に大冶鐵山あり。支那第一の鐵山にして、漢陽の製鐵の原料を供給し、併せて我が八幡製鐵所の原料に供せられしが、今はその輸出減小せりといふ。○重慶は揚子江上流地方の要津にして、揚子江口を遡ること約四百海里、蘇州、杭州、沙市と共に馬關條約によりて開かれたる四港の一なり、四川省物産の集散地なり。人口三十萬餘。

○成都は四川省の首府にして、盆地の中部にあり、市街の整備せること支那第一にして、人口八十餘萬多く、絹織物を出す。

ハ、南部、浙江、福建、廣東、廣西、雲南、貴州省は、重に珠江の流域及び我が臺灣海峡に臨める地方にして、平地多く、氣候溫暖、養蠶業と製茶業盛なり。

○廣州は一に廣東と稱し、珠江の口に近き南部の大都會にして、人口一百万支那貿易港中最もよく開けたるところにして、南部貿易の一大中心地なり。附近は養蠶業盛なるを以て生絲、絹織物の輸出甚だ多く、上海の次に位す。廣東人は殊に

商機に富み、香港、印度支那、濠洲等に於て商業上の實權を握る。

○香港は廣州の東南近海の英領なる香港島上にある都會にして、對岸九龍と相俟ちて無比の良港をなし、人口三十万市街はビクトリヤと稱し、自由港となりてより、東洋貿易の一大中心地、東西兩航路の根據地となれり。貿易は中次貿易にして、南支那との貿易最盛なり、我が國との取引は年額約五十万圓明治四十

四年度に達し石炭綿糸銅マツチ海産物樟腦などを入れ、砂糖、雜貨を出す。

○香港は西曆一千八百四十二年南京條約の結果として阿片戦争の結果清國よ

圖九十第



り讓與を受けたるもの英國は之を東洋艦隊の根據地とせしが本島防禦の必要上西曆一千八百九十八年對岸の九龍附近を租借せり。

○福州は福建省の首府にして閩江の下流に位し九江漢口と共に支那に於ける、茶の三大市場として名あり。人口六十二萬。

○厦門は厦門島によりて良港をなし、我が臺灣に對し重要な位地を占め、淡水との間に交通甚だ盛なり。又南洋諸島其の他との交通も甚だ繁盛にして、海路交通の大中心をなし、海外移民の大部は本港よりす年々出稼するもの二百五十萬以上なりといふ旺なりと謂ふべし。

2、蒙古

蒙古は支那本部の北部の高原地方を占め中央にゴビの沙漠ありて、之を内外の二部に分つ、面積約三萬方里、人口三百萬、人種多くは蒙古族にして、概ね牧畜を業とし、騎馬に長じ佛教の一派なる喇嘛教を信ず。

○庫倫は外蒙古の一都會にして、政治、宗教、商工業、牧畜業の中心なり。人口三萬餘、其の大半は喇嘛僧にして、市街には壯麗なる殿堂多し、近時露西亞人の住するも

の益々其の數を加ふるに至れりといふ。

3、新疆省

新疆省は、支那本部の西方高地を占め天山脈によりて南北兩路に分れ、南路は即ちタリム盆地にして、中央にタクラマカンの大沙漠を有し、面積九萬方里に涉れども、人口僅に一百萬特に大都會と稱すべきものなし。

4、青海、西藏

青海は支那本部の西南崑崙山脈一帯の高地を占め、海拔一萬一百尺の高所に同名の湖あり、産物として岩鹽を出す。

西藏はヒマラヤ山脈と崑崙山脈との間に圍まれたる地域にして、世界第一の高原をなし、面積八萬方里、人口七百萬、住民は西藏族にして、犂牛を飼ひ喇嘛教を奉ずること厚く、政治、風俗、習慣ことごとく喇嘛式なり。

○拉薩は首府にして、西藏の中部海拔一萬二千尺のところにあリ。人口五萬餘、其中二萬は喇嘛僧にして、市街には宏壯なるラマ教の大本山、ホタラ山に倚りて建てられ、其の教主はこれをダライ喇嘛と稱し、西藏に於ける政治上の實權を握

りこの本山の正殿に住す。教科書、挿畫は、即ち其の大本山を示す。中央の最高所にある殿堂は即ち正殿なり。

六 沿革

世界最古の文明の中心地は四ヶ所あり。支那はその一にしてこれを黄河、揚子江流域の文明と稱し、國家の建設は少くとも今より四千年以前にあり、其後王朝の荒

支那王朝變遷略系

唐—虞—夏—殷—周—秦—漢—新—魏—晉—東晉

—後魏—隋—唐—宋—元—明—清—中華民國

廢甚だ繁々上に示せる如く國號屢々變じたり。前の清朝は凡そ三百年前滿洲より興り、遂に全國を一統

したるものにして、其の國運は一時頗る隆盛を極め、露西亞、佛蘭西等と對抗し屢干戈を交へたるも、聊か遜色なかりしが、その後外交を謬り、凡そ七十年前英吉利と戦ひて、香港を失ひ、香港の部參照、其の後露西亞に東北境の地沿海洲附近を割き、日清戦役には臺灣を我に割讓し、次いで海岸の諸要地を強國(獨逸、露西亞、英吉利)の租借となすに至りしが、その後北清事變日露戦争を経て、漢族の奮起となり、我が國及び西洋諸國の制度に倣ひて、種々の改

革を施せしが、最近革命起り遂に清朝を亡し、中華民國を組織し、國運の發展を圖れり、而して列國は未だ一獨立國たるを承認せざる状態にあれども、應て承認の運ひに到るべきか。

七 注意事項

- 1、支那は面積廣大なる爲に、隨て人口の多きこと、及大平原大河流産物の多額なることに注意し、我が國と比較するところあるべし。
- 2、地勢は亞細亞洲總論の部と連絡して授くべし。
- 3、住民の種族多く國家の統一困難なることに注意すべし。
- 4、支那本部の三大區分は天然の形勢に基けることを注意して各部の性質狀況を詳にすべし。
- 5、蒙古、^新青海西藏は其の大要を授くべし、たゞ西藏、青海は從來一つの秘密國として餘り注意せられざりしも、今は文明の惠澤に浴し、昔日の態を脱しつゝあることに注意すべし。
- 6、都會については重要なものゝみをあげたれば、確實に地勢産業交通等と連絡して授くべし、且つ人口は元來正確ならざるが故その大要に止めたればその心

て授くべし

7、本邦との關係は、諸外國中第一位なるを以て、歴史的方面若は地理的方面より充分力を込めて教授すべし。

8、沿革は古來より現時に至るまでの筋道を失はざる様明確に概説すべし。

9、教授に餘力あらば、寫真若は挿畫を利用して風俗習慣の概略を説明するも可なり。

10、教授の際は、可成直觀材料を準備し、具體的に教授すること、に努力すべし(以下同斷)

11、最後に支那全體を復習概括して系統的に收得せしむべし、設問略す

第三節 亞細亞洲露西亞

第一、要旨

亞細亞洲露西亞の區分地勢産業都邑の大要を授け特に日本と關係する點を明にするにあり。

第二、區分 凡二時間

第一時 區分、西比利亞の位置面積人口地勢產業都邑(浦潮斯德まで)

第二時 都邑の續き及中亞細亞コーカシヤ

第三、教辨物 西比利亞の地勢區分圖及天產分布圖、浦潮斯德の圖、西比利亞

鐵道圖等

第四、教授材料

甲、區分

亞細亞露西亞は分ちて西比利亞、中亞細亞、コーカシヤの三部とす

乙、西比利亞

西比利亞は亞細亞洲の廣大なる北部斜面地を占め面積凡そ八十萬方里我が國に約十九倍すれども人口は八百二十二萬にして我が國の八分の一に過ぎず主なる住民は白哲人種なるスラブ族及支那人(漢人)なれども東部に日本人土人としてフイン人、サモイド人、ブリヤド人あり教科書挿畫は即ちサモイド人を現せるものなり。

一、地勢、産業

地勢南部は山岳多く、西北に開けて其の低き地方は西比利亞平原をなし西方にはウラル山脈ありて歐亞の境をなせども傾斜概ね緩漫なるが故に交通上さしたる妨害とならず、西比利亞平原の北部は所謂凍原帯にして盛夏の外は地面の凍結地

第十二圖 地勢區分圖



下二百尺に及び、沼澤山海の區別すら明ならず、従つて農業に適せざるは、勿論植物にも灌木、鮮苔、動物にも馴鹿、白熊の類を見るに過ぎず。前説のサモイド人は重にこの地方に住し、馴鹿を以て唯一の財産とし交通にも之を使用す。挿畫中小山の向側に見ゆるは、土人の小屋にして、其の右方には、馴鹿を驅りて、櫓を引かしむるもの、手前は休息の態なり。凍原帯の南は森林繁茂し、樺、松、樅等の良材に富み、多く材木を出す。この森林帯の南部は沃野帯と稱して、地味豊沃、麥類を始とし、毛皮其他の礦物に富む、又大平洋沿岸は臘虎、臘獸等の

貴重獸を始めとし、鱒、鮭、鱈等の好漁場にして、本邦人の出漁するもの少からず、氣候大體大陸的氣候にして、夏は非常に暑く、西比利亞の南部ヤクーツクに於て、攝氏

三十八度に上り、冬は甚だ寒く、南部地方に於てすら零下二十度に下ることあり、矧んや北部地方に於てをや。彼の世界最寒の地方の存することも至當といふべし
(總論の部参照連絡)

○貴重獸の群集地はカムチツカ半島の東コンマンドルスキー島にして世界三群集地の一なることは日本樺太の部に於て説けり参照すべし。

二 都邑

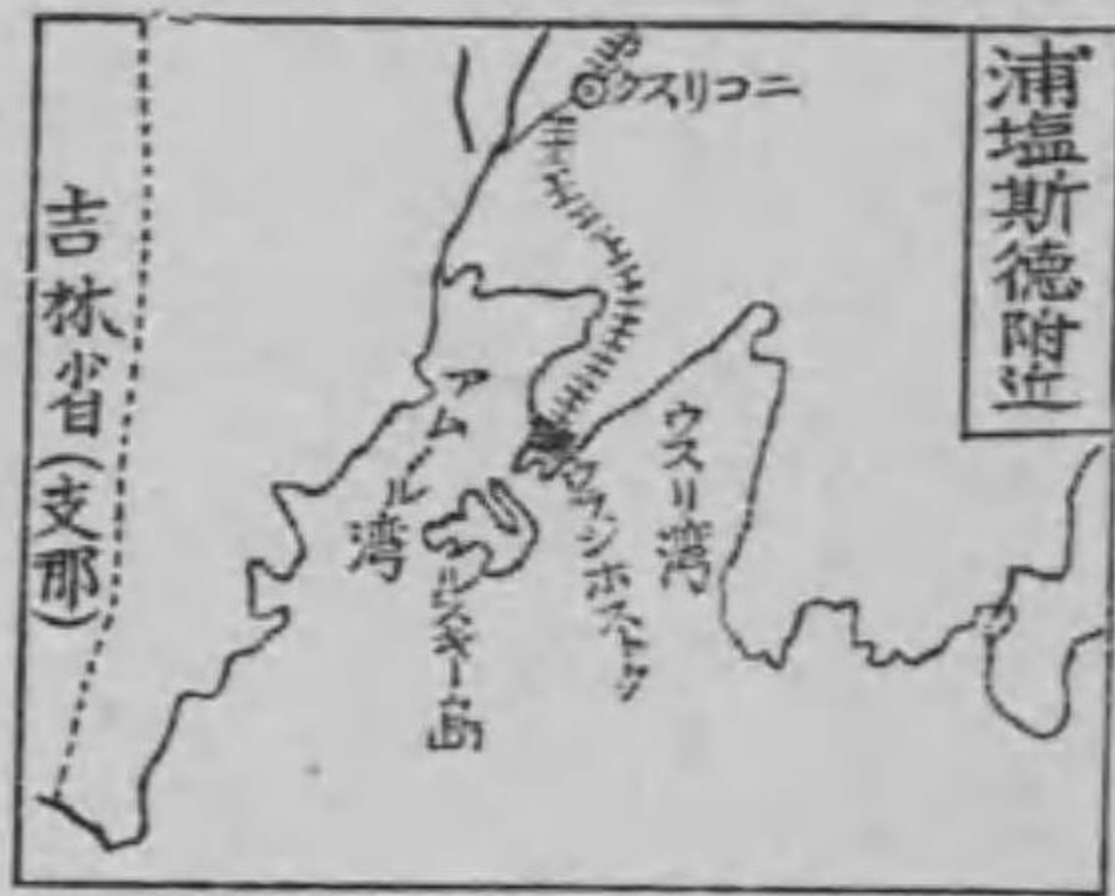
○浦潮斯德は日本海岸のペートル大帝灣に臨み、前面にロスキー島を控へ、風波穩に天然の良港をなすを以て露國は大平洋艦隊の根據地をここに置き、又一部は商港となせり。冬季十二月より翌年四月に至るまで、港内は結氷し、有事には碎氷船により支障なきも、

圖一十二第



事實上交通は杜絶する不便あり。然れども東部西比利亞中最も重要な地に

圖二十二第



圖三十二第



して、我が國との貿易は甚だ盛年に一ケ年百五十萬圓に達し、敦賀

長崎等の間に、定期航海の便あり。(日本の部敦賀参照)本邦人の在留するもの三千人に及び我が總領事館設置せらる。西比利亞鐵道の起點にして、人口十萬五千、この港より輸出するものは、滿洲の大豆、豆粕、麥類、魚類にして我が國より輸入せるものは、米、織物、陶磁器、石炭、果實等なり。

○西比利亞鐵道は、元來露西亞が西比利亞開拓、極東經營の軍事上の目的にて、敷設せるものなるが、本線は一部未設なるが故に、東清鐵道を利用し、(本線も本年中には落成する計劃なり)浦鹽より重なる經由地ハルビン、カイダロボ、イルクツク、オム

圖四十二第



スク、チエリヤビンスク、モスクバ、等を過りて、露都に達す。其の間五千八百十哩最大急行にて、十二日間を要す。

○西比利亞鐵道とは、浦鹽斯德よりウラル山下のチエリヤビンスクまで三千九百三十三哩の間をいふ、極東より鐵路の便をかりて歐洲に至らんとするには、必らずこの鐵道を利用せざるべからず。

○イルクツクはバイカル湖に近く西比利亞第三の都會にして、東部西比利亞總督はこの地に駐屯す、人口五萬八千、商業亦盛にして、毛皮及支那茶の取引多し。

○トムクスはオビ河の支流トム河に沿ひ、人口七萬、西比利亞第二の都會にして、唯一の大學及び博物館あり。又商工業上この地方重要な一中心地をなす。

丙、中亞細亞

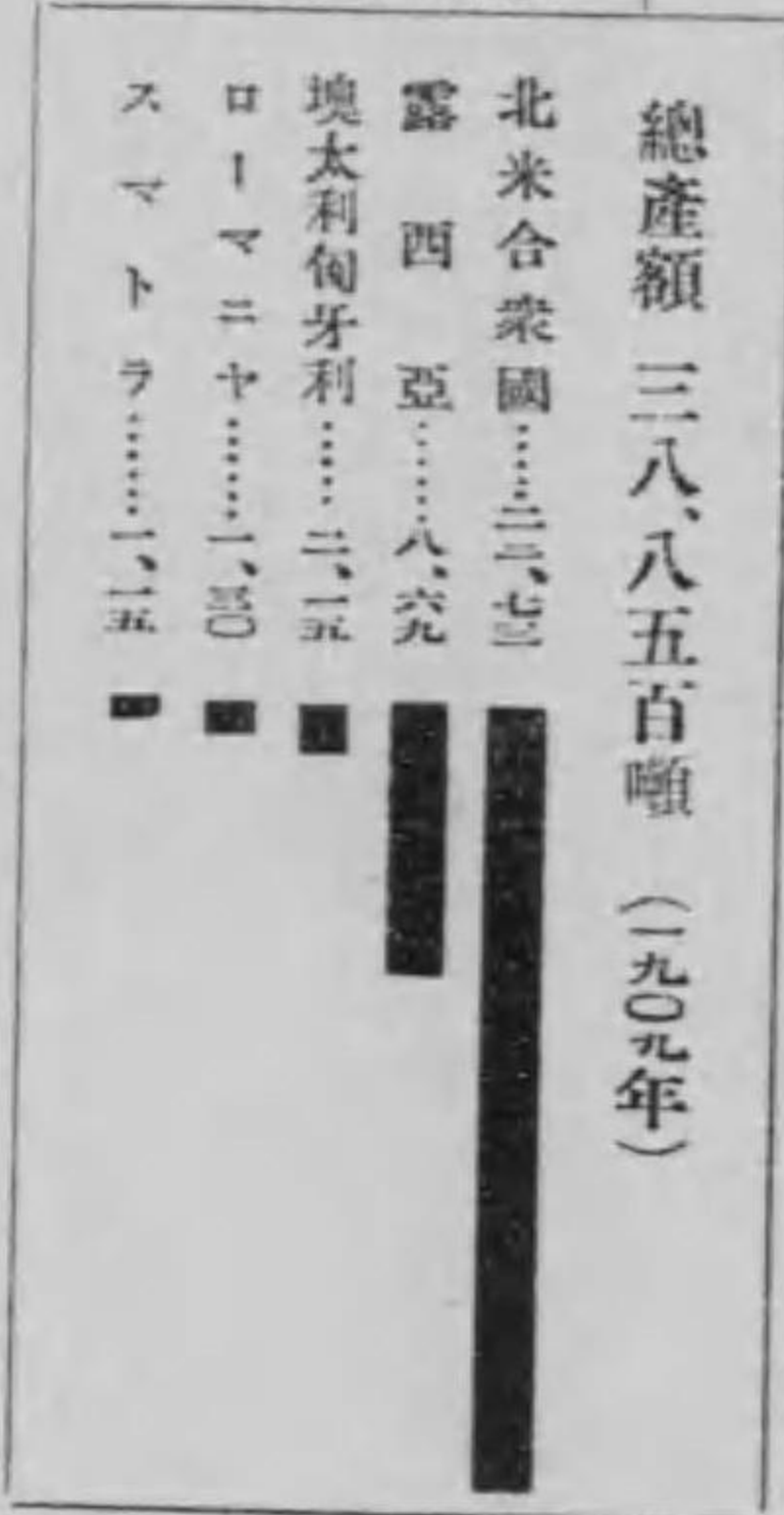
露領中亞細亞は、裏海アラル海の流域地方二十五萬八千方里餘の面積(我が國の五倍)を占むれども、人口一千萬に満たず、域内概ね不毛の沙漠茫茫たる草地にして、雨季には野草全面に發生するも、乾燥季に至れば枯死してその影をとめず。唯茫茫、無限の平野をなす。獨りシル、アム兩河の流域地方には、耕作に適する肥沃の土地あり。裏海、アラル海は鹹湖にして裏海の如きは世界の最大湖なり。(總論の部参照連絡)

丁、コーカシヤ

コーカシヤは亞細亞露西亞の西南裏海黑海の間にありて、山勢險峻のコーカサス山脈(最高山エルブルス山は一萬九千尺)其中央を略東西に亘りてこれを南北二部に分つ。面積約三萬方里、人口一千二百萬、住民の過半は、ゼオルジヤ、即ち高加索人種の一種にして、容貌の秀麗、體格の健全なるを以て、世に知らる。裏海に臨める、ア

ブセロン半島は石油の産出無盡藏と稱せらる。バクラーを以て其の中心地とす。世界産額の五分の一を占め、曾つては多く我が國にも輸入せられしが、今はバクラーより鐵路鐵管にて黒海沿岸のバツームに送り、この地より世界各國に輸送せらるれども、其の多くは西比利亞鐵道の燃料に供せらる。バクラーは人口十二萬、石油業の中心地となりてより商業殷盛に赴き、又裏海艦隊の根據地なり。

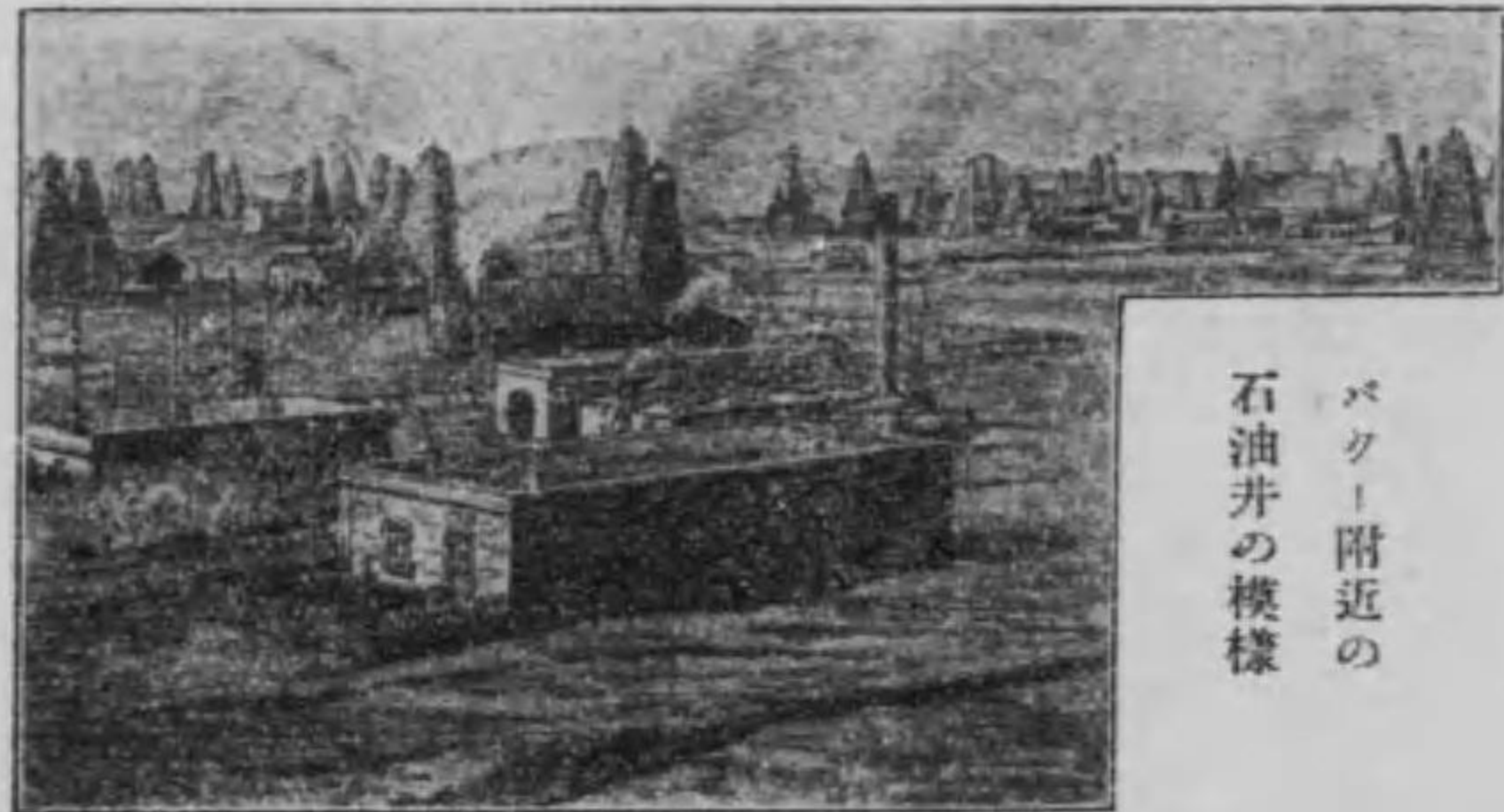
石油産額圖



三 注意事項

- 1、地勢を授くるに當りて凍土帯のところは總論と連絡を保ち世界の最寒地はこのうちにあることを知らしむべし。
- 2、地勢は三部に區分して説明したれども、普通四部に分ちあるを以て教授者はその心して説明をなすべし、最南部を山岳多き所なる故山岳帯と稱するこれなり。

第二十五圖



バクラー附近の石油井の模様

- 3、浦鹽斯德は露領亞細亞中我が國と關係最も深き都會なれば、廓大圖を巧に利用して確實に授くべし。
- 4、西比利亞鐵道は高等小學讀本卷一第十一課に連絡して授くべし。
- 5、凍土帯に住するサモイド人は、馴鹿の皮を利用して衣服とし、肉を食料とし、乳は飲料に供し、骨格は器具にし、又天幕の材料に用ふることを授け、實地に於ける住民の生活と氣候、生物との關係を知らしむべし。
- 6、全體を終へしならば次の問答をなして收得を確

實ならしむべし。

- イ、亞細亞露西亞の區分を述べよ、
- ロ、西比利亞の地勢氣候産業の大要を述べよ、

ハ、西比利亞鐵道について、
ニ、コーカシヤ地方に於て殊に注意すべきは何か、
ホ、裏海について。

第四節 亞細亞土耳其亞刺比亞イラン地方

第一、要旨

亞細亞土耳其亞刺比亞イラン地方の位置、地勢、産業、區分、都邑等につき其の大要を授け、且つこの地方は太古文明の起源地をなすこと、及回教、基督教の搖籃地なること、總論と連絡して教授するにあり。

第二、區分 凡二時間

第一時 亞細亞土耳其亞刺比亞

第二時 イラン地方及概括

第三、教辨物 亞細亞土耳其亞刺比亞の地勢圖

第四、教授材料

甲 亞細亞土耳其

一、位置地勢



亞細亞土耳其亞刺比亞の地勢圖

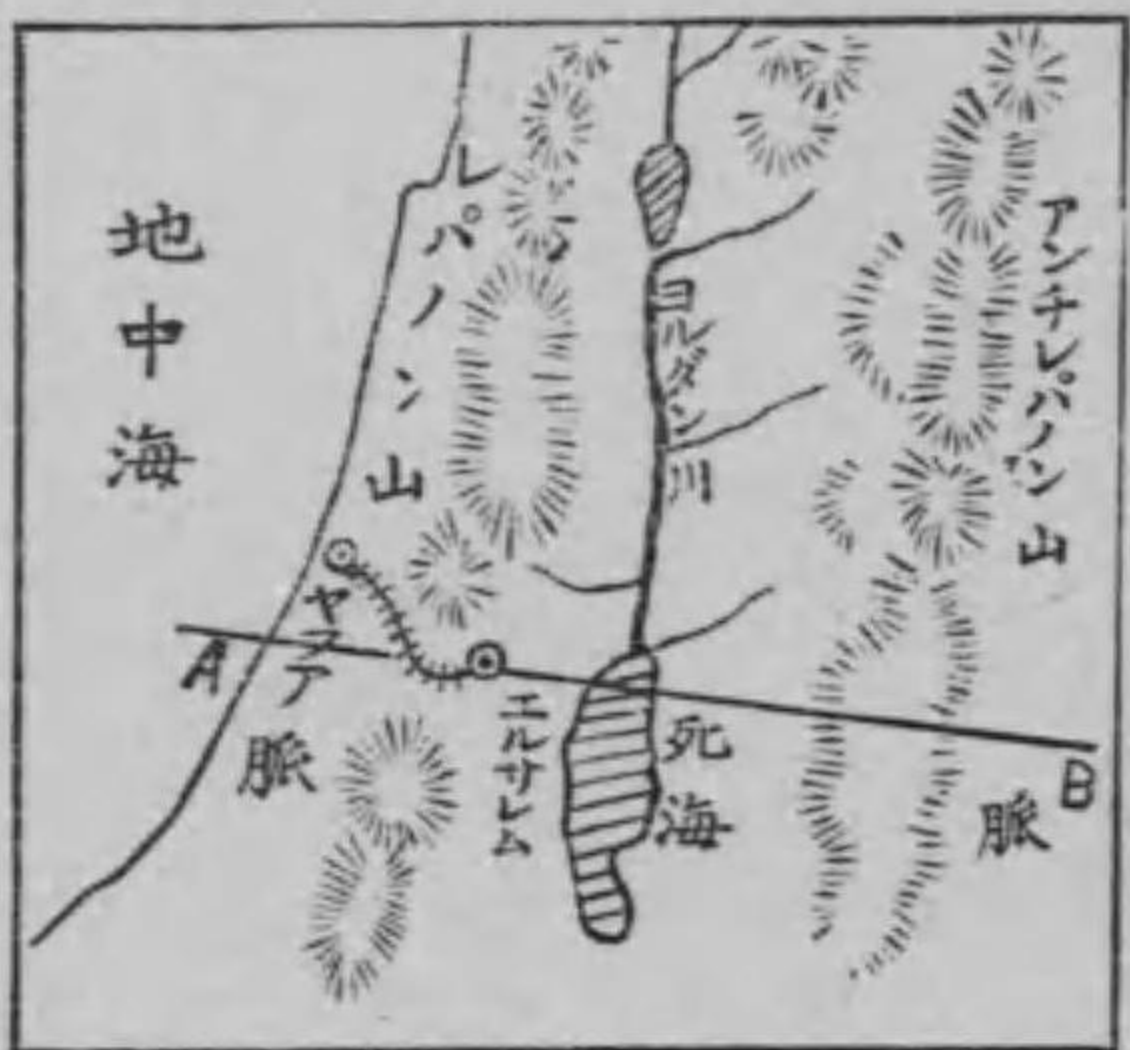
亞細亞土耳其は、亞細亞の最西部地中海と黒海との間に突出せる小亞細亞半島及び其の附近の地を占め、更に延びて亞刺比亞半島の東西兩海岸に及び面積十二萬方里、人口千六百萬、五十萬歐羅巴土耳其の領地なり。地勢は大體三部に分れ、北部小亞細亞、アルメニヤ地方の高原、これより發するチグリス、ユーフ

第二十六圖

ラット河畔のメソポタミヤ平原西方地中海沿岸のシリヤ地方これなり。メソポ
 タミヤ平原は今より凡そ一萬年以前に於てすでに高等文明を有せし地方にして、
 太古早く開けしところなり。これ畢竟この地方の氣候温暖に地味豊沃なるが故
 にしてメソポタミヤとは双子河の沃野の義にして文明の母たる資格を字義に於
 てこれを表はす。シリヤ地方は又太古早く開けたる地にして左圖に云す如く海
 岸に沿ふて二條の山脈南北に走り其間是有名なるヨルダンの河谷にして河は遂
 に死海に注ぐ。死海は地盤の陥落によりて生ぜしヨルダン地構帯中の水集りて成
 れる湖水にして地中海々面より底き事一千三百尺湖水は鹽分を含む事千分の二
 百六十乃至二百八十にして魚類を放つも生育せず人其水に入るも沈まずといふ。
 ○地中海の鹽分は千分の三十七、全地球の平均鹽分は千分の三十五なり而して死
 海を通して切斷したる断面圖を見れば地中海より低きこと直に了得せらる。こ
 の地方より産する重なるものはシリヤ地方の材木、メソポタミヤ地方の穀類(小麦)
 果實(椰子)小亞細亞地方よりは葡萄、山羊及鐵、鉛などの礦物を産す。(教科書挿畫の
 樹木は椰子樹を示す)。

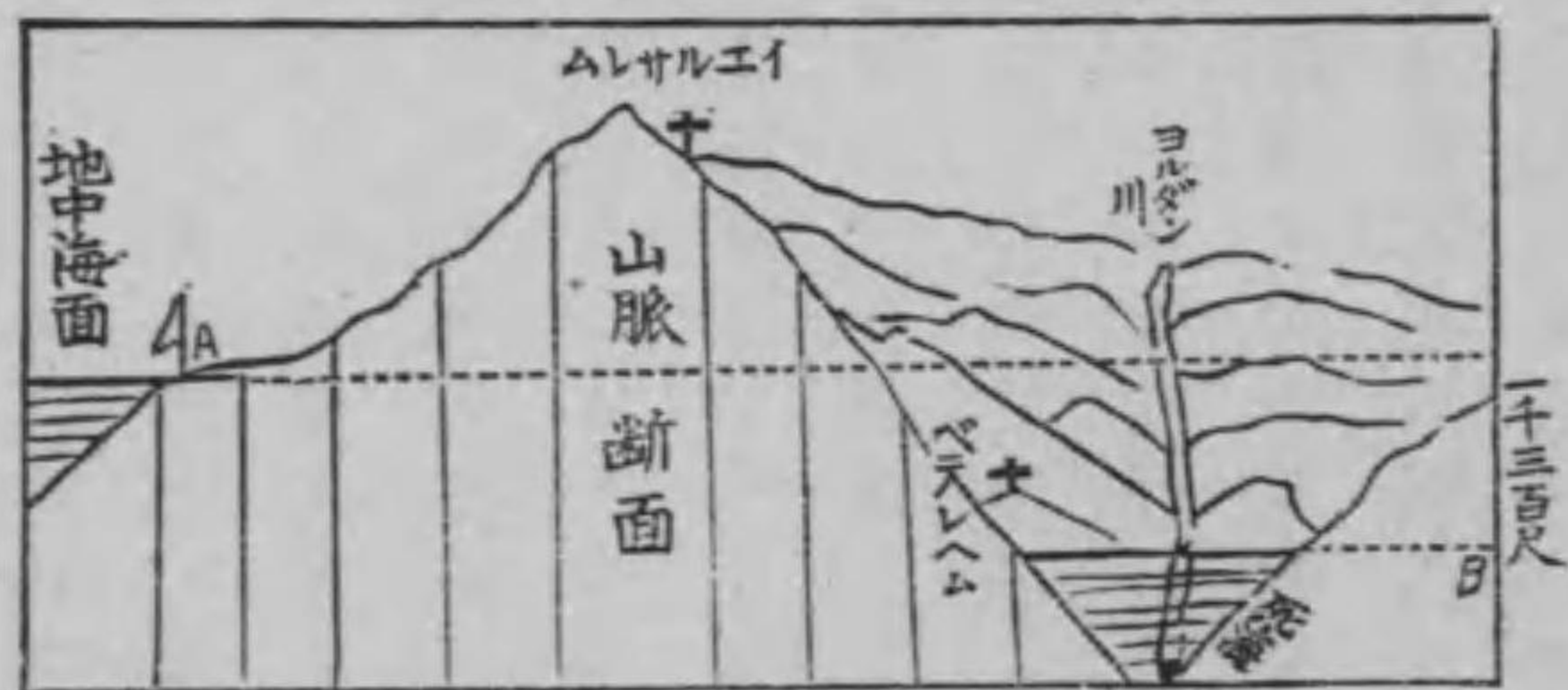
亞刺比亞は面積十一萬方里、世界第一の半島なり。地勢は一大高原にして、熱帯に

ヨルダン川谷死海附近の圖



A Bは断面線を示す

圖八十二第



屬し、雨量甚だ少なきを以て概ね沙漠をなす。住民は亞刺比亞人にして、其の數五百萬と稱せられ、主に海岸地方に住す。内地には所々に部落ありて各酋長を戴き、遊牧を業とす。産物アラビヤ馬。アラビヤ護謨(主に糊に使用す)珈琲を名産とす。

アラビヤ馬について

圖七十二第

は尋常小學讀本卷十一を参照すべし。

二 都邑

○エルサレムはシリア地方、地中海岸に近きレバノン山(海拔約二千五百六十尺)の高所にありて、市街は石灰石の丘陵に圍まれ、西暦紀元前一千四十九年以來の舊都にして人口約七萬、基督の墓あるを以て名高く、年々一萬五千人の參拜者ありといふ。

○ベテレヘムはエルサレムの南六哩にあり人口四千に過ぎざれども、世界の大宗、敎家基督の誕生地として、巡拜者の跡を絶つことなしといふ。

○メヂナは江海沿岸の土耳其領内にありマホメット敎の開祖マホメットの墳墓あるを以て名高く、其の墓は銀を以て飾られ、見事なる大理石を以て覆はれたり。宗徒の巡拜者今尙絶えず。

○メツカはメヂナの南方にありて、西暦紀元五百七十一年マホメットの生地として世に知られ、同敎の本山カーバの大寺院あり、メヂナと同じく信者の參詣甚だ多し。

○アデンは亞刺比亞の南隅、火山質の半島(七十方哩)にあり、西暦千八百三十九年以

來英國の領地となり、今はボンベール政廳の所管なり、氣候、炎熱、用水に乏しく、天水を

以て飲料とす、首府をアデンといひ、人口二萬餘商港としては自由港なるを以て、亞刺比亞内地の珈琲護謨等この地を經由して輸出せられ、又綿糸、穀類等の輸入あり。港は火山の一火口内にあるを以て頗る良港なれば、今は海軍根據地を置かる。

乙 イラン地方

イラン地方は一般に高原にして、四周に山脈を繞らし、内地は殆ど海洋の影響を受けず、氣候概ね炎熱にして、雨少なければ沙漠多く、肥沃の地としては四周の山脈の溪谷附近に僅に存するのみ、産物としては穀類、葡萄、綿等を産す。住民は密度粗にして多くは遊牧を業とし、中には性勇悍にして、鬪を好み盜賊を業とする者あり。本地方を分

圖九十二第



ちて波斯、アフガニスタン、ベルチスタンの三部とす



第三十圖 地方勢力圖

1. 波斯は、イラン地方の西部を占め、面積十萬四千方里餘、人口一千萬、立憲王國にして國王をシャーといふ、産物の主なるものは、米、綿、煙草等とす。首府をテヘランといひ、人口廿八萬、沙漠を横りて營まる、隊商貿易の中心地なり。氣候甚だ不良なるは遺憾とす。

2. アフガニスタンは高原の北東部を占め、面積四萬餘方里、人口僅に四百萬内外の酋長國なるが、英露兩勢力の間に在りて、僅に獨立を保つ。國內に於て最も大なる都會を、カブルと云ひ、人口約十四萬、英領印度中亞細亞間の要路に當り、交通貿易甚だ盛なり。

3. ベルチスタンは面積二萬二千餘方里を有するも人口僅に九十萬に過ぎず。土地の大部は不毛の地に屬し、農牧に適するは印度境上の一部あるのみ、全部殆ど英國に屬す。最大なる都會は、ケタといひ印度

よりアフガニスタンに通ずる要地にして、交通上軍事上須要なる地位を占む。人口二萬餘英國官吏この地に駐在せり。

三 注意事項

1. 亞細亞土耳其は、古來歐亞連絡の橋梁地たることに注意し、この地方に起れる太古文明が歐洲に傳播したることを注意して授くべし。

2. 宗教と本地方との關係を注意して授くべし。



第三十一圖

3. 教科書の挿畫はこの地方の風俗を表すものなれば、時機を見て教授すべし、圖に見えたる丸き盪形ものは渡船にして椰子の樹と葉にて造り、その上にセメント又はアスファルト(池瀝青)を塗りて浸水を防ぐ様にせるものなり、川の緩流なる爲かゝるものを渡航となすなり、先方四角形のもの家は屋なり。

4. イラン地方は英露の勢力競争上他より英露外交の衝突點と稱へらるることに注意すべし、近時英露の間に協商成り、波斯を三分し

東南部を英吉利、北部を露國の勢力範圍とし、中央部を中立地帯となし、ベルシヤ灣をこの中立地帯中に置けり。

5、この地方には世界最暖地あることを總論と連絡して授くべし。

6、全體教授したる後次の問答をなして概括整理をなすべし。

イ、亞細亞土耳其及亞刺比亞の地勢について述べよ。

ロ、兩地方の都會と宗教との關係を述べよ。

ハ、アデンにつき知るところを話せ。

ニ、イラン地方の區分及其の重要都會並に英露の關係を説明せよ。

第五節 印度

第一、要旨

印度の位置、面積、人口、地勢、氣候、産業、都邑、沿革等の大要を授け、且つ印度は世界の寶庫たる所以及我が國と關係する點を知らしむ。

第二、區分 凡二時間

第一時 位置、面積、人口、地勢、氣候、産業

第二時 都邑、沿革

第三、教辨物 印度地勢圖、夏季及冬季雨量圖、カルカッタ市街圖等

第四、教授材料

一、位置、面積、人口

印度は亞細亞洲の南斜面にありて、印度洋上に突出せる三角形の半島及其の附近（ベルマ、ベルチスタン）の地を占め、面積二十九萬方里、我が國の約六倍強に當り、大部は熱帯に屬すれども、一部は溫帯に入れり。人口は三億一千萬、我が約四倍にして、人種はヒンヅ種最も多數を占め、多くは印度平原に住し、印度教を奉じ、階級の制甚だ嚴格なり。その外ドラビタ族は主として、デカン高原地方に住し、約五千萬あり。

○ドラビタ族は元來印度の土人なりしが、中亞細亞方面より歐羅巴人種の一なるヒンヅ種侵入し來りて彼等を山地に追ひ退けたるなり。

二、地勢、氣候

圖二十三第



印度地勢圖

高地とデカン高原との間は所謂印度大平原にして、カンジス、ブラマプトラ、インダ

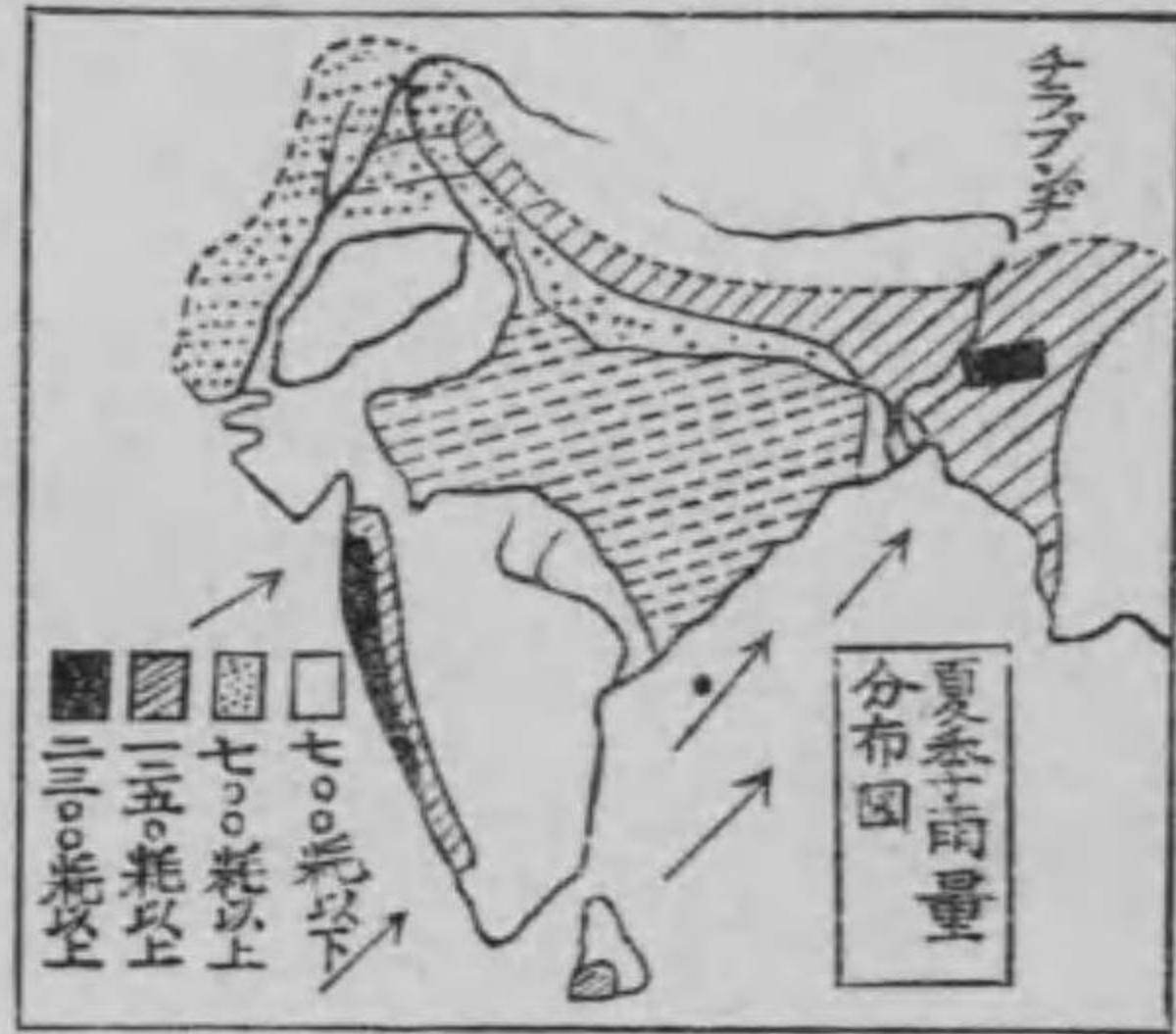
北部には地球上最高の山脈なるヒマラヤ山系東西に亘り、三大河はこゝに發す。この山中にネパール、ブータンの二獨立國あり。地熱帯に近けれども、山上には積雪絶えず。氷河は八千

米乃至三千五百米のところにあり、ヒマラヤ山とは即ち雪山の義なりといふ。南部にはデカン高原ありて、南端コ

スの三大河之を灌溉す。一般に高温多雨なれば重要な農産物を多く出す。

海岸は屈曲なく良港に乏し。デカン高原の東岸にコロマンデル海岸、南西岸にマラバル海岸の名あり。西岸中天然の良港と稱すべきは西方にたゞ孟買港あるのみ。

圖三十三第



圖四十三第



東海岸のマドラス港は人工港なり。氣候は大體高温なり、然れどもヒマラヤ山高地及デカン高原は、夏季も涼しく避暑の別天

地となせるところ甚だ多し。最も炎熱を感ずる地方は印度平原なり。季節風の影響頗る大なれば、雨量甚だ多く、特に夏季に降雨繁く彼の世界最多雨の地と稱せせらるゝアッサム地方には毎年一萬二千六百耗の雨量を有するチラブンデーあり。

如斯地勢にして地味肥沃なるに、氣温高く加ふるに雨量夥多なるは産物の豊なる所以にして、産業の發達に至大の關係を有す。

圖五十三第



阿片は印度平原カンジス河の中流地方に多く年産額七千六百十九萬三千二百二十

三 産業

平原及高原地方は概ね地肥沃にして、米、麥、阿片、綿、茶、黄麻、等の農産物に富む。

米は印度平原に多く殊に五河地方及ビルマのランゾーン地方を其の最とす(五河地方はインダス河の中流、四支流の本流に合する地方なり)年産額二億五千萬石、我が國の四倍に上り、世界第二なり(支那産業の部参照)

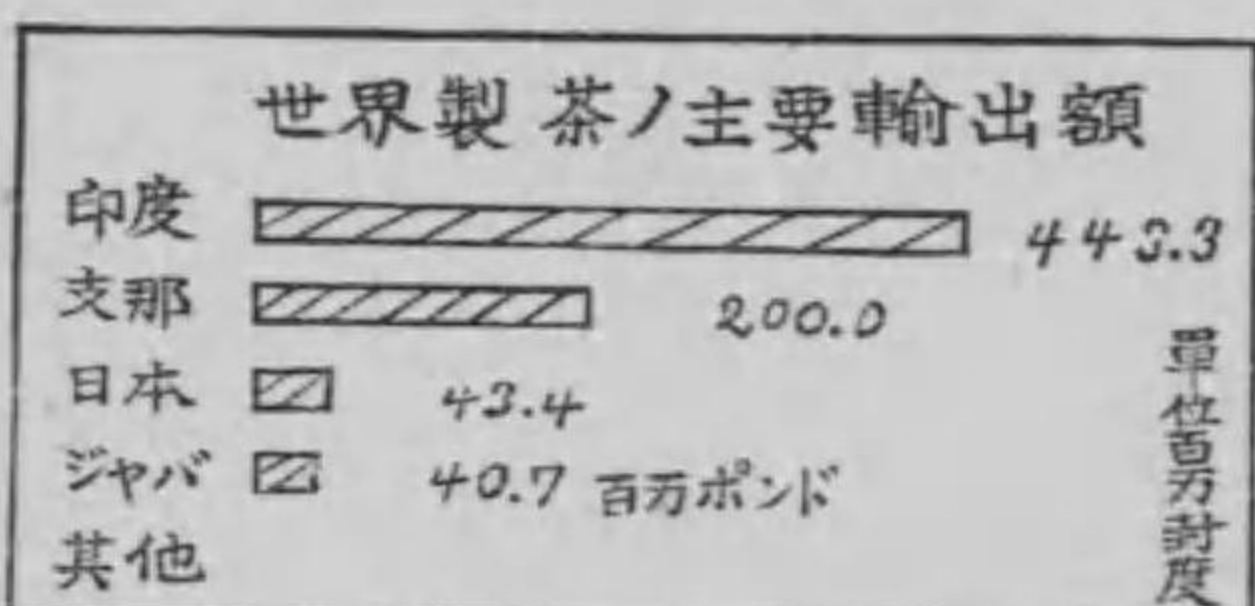
圖六十三第



阿片の原料 罌粟

六留にして、内地土人の吸飲用は極めて粗製にして精良阿片は支那に輸出す。印度政府は阿片の害毒を認めて將來この栽培を禁止する計劃なりといふ。

圖七十三第



○阿片、罌粟の未熟なる果實を傷くれば乳汁流出す、之汁初は無色なれども次第に黄色を帯び次に赤褐色に變じて凝固す、之を把き集めたるもの即ち阿片也、支那人嗜好する所なることは前述の如し、藥品として止痢劑に供し、或はモルヒネを之より製することあり。
茶は其の産額世界第一にして一ヶ年四億四千三百萬封度にして、我が國に十倍す。デカン高原セイロン島、ブラマブトラ河の中流地方に多く、其の種類、紅茶を主とし、英國を始めとして、歐羅巴諸國人の嗜好に適す。

○日本茶は緑茶、支那茶は磚茶、印度茶は紅葉を主とす、從て其の輸出先を異にす、例へば印度茶は歐羅巴諸國、日本茶は米國、支那茶は多く露國に向ふが如し、磚茶は又瓦茶と稱し、茶の葉を引白にてひき、動物の血を混じて固めたるものにて瓦狀をなし、普通これを飲用する時は削りて粉末とし煎じ出して飲用す。

圖八十三第



世界棉花產出高
全額九七七八七百萬ポンド

合衆國	六五〇
印度	一四三
埃及	一八二
其他	一〇八
支那	四二
ロシア	三〇
アラビヤ	二〇
ペルシヤ	二〇
メキシコ	二〇

棉花は合衆國、埃及と共に世界三大棉花國の一にして、殆んど全印度に涉りて栽培せられざるなく、就中デカン、高原地方、孟買州を最とす。一年の産額十四億五千七百萬封度金額一億五千萬圓、許合衆國に次いで世界第二なり、孟買港はその輸出港にして、英國を最とし、我が國の棉花は重に原料をこゝに仰ぐ。
黄麻は、カンジス河の下流ベンガル地方、及アッサム地方に多く、近時その輸出額棉花に優れりといふ、カルカッタはその輸出港にして、大部は英本國に輸出し、ヅツク、麻織物等を製す。

以上、農産物の多きより外國貿易は頗る盛にして約二十五億圓に達し、輸出十四億

麻 黄 圖九十三第



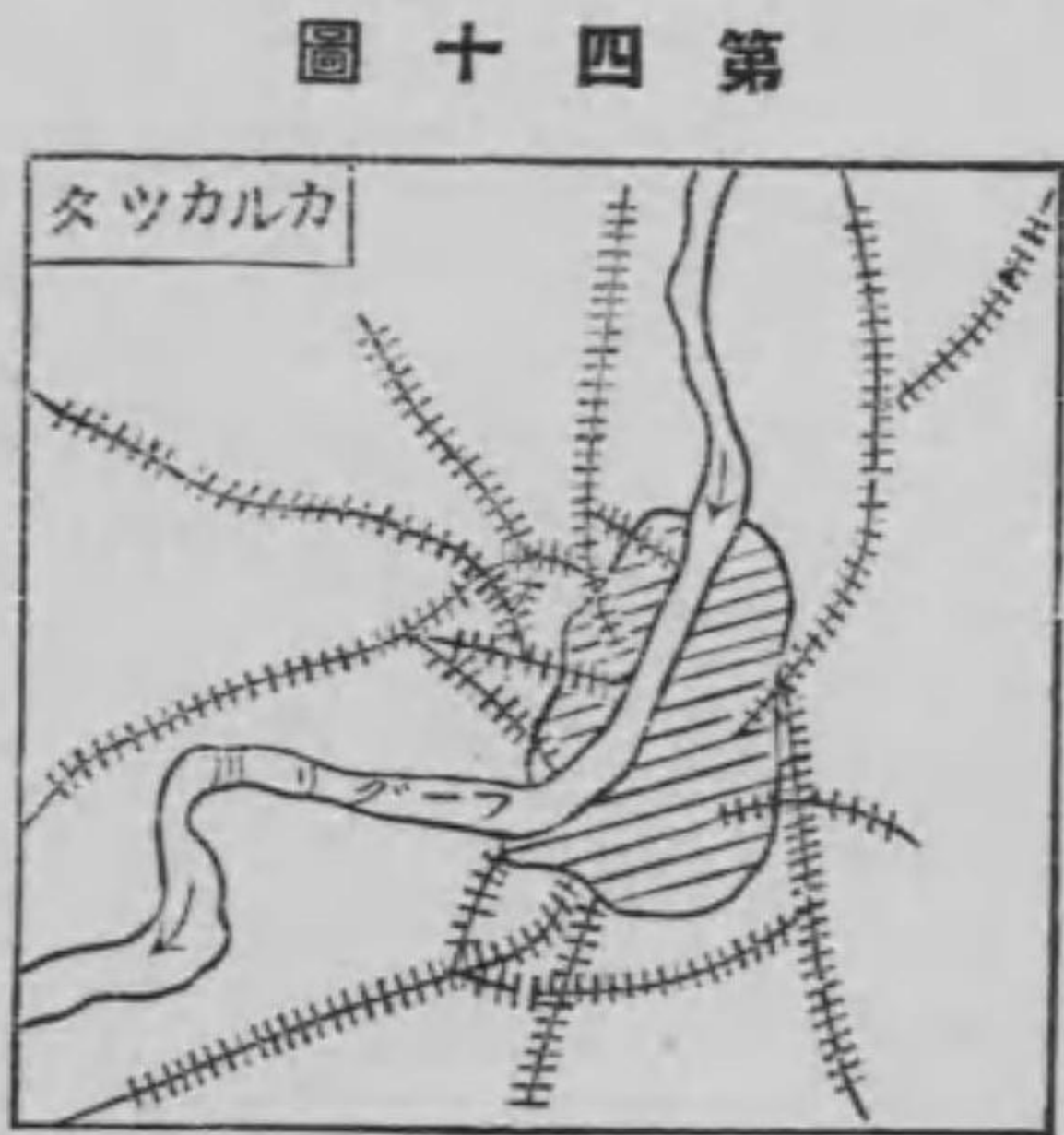
草木にして多く熱帯の温地に生ずる葉より採取したる纖維は帆布、窓掛、袋等に用ひ又製糸の原料とす。スツクはこの纖維にて織りたるもの段通も之を原料とす。

重綿布メリヤス等を輸入す、換言すれば我が國は印度より多く買ひ少く賣れる狀況なり。

印日貿易 輸出九千九百七十萬圓 輸入二千〇三十三萬圓

圓餘、輸入十一億圓、主として英本國との間に行はれ、支那、獨逸等これに次ぐ。重要輸出品は黄麻、綿を第一とし、米、茶、阿片等これにつぐ。輸入品の主なるものは綿布を第一とし、金屬製品、砂糖、器械類これに次ぐ。即ち農業國にして、工業は未だ發達せざるを以て、原料品を輸出し、製造品を輸入せるを見る。我が國との取引も近時次第に増加し、綿及茶を我が國へ輸出し、我が國よりは羽二

四、都邑



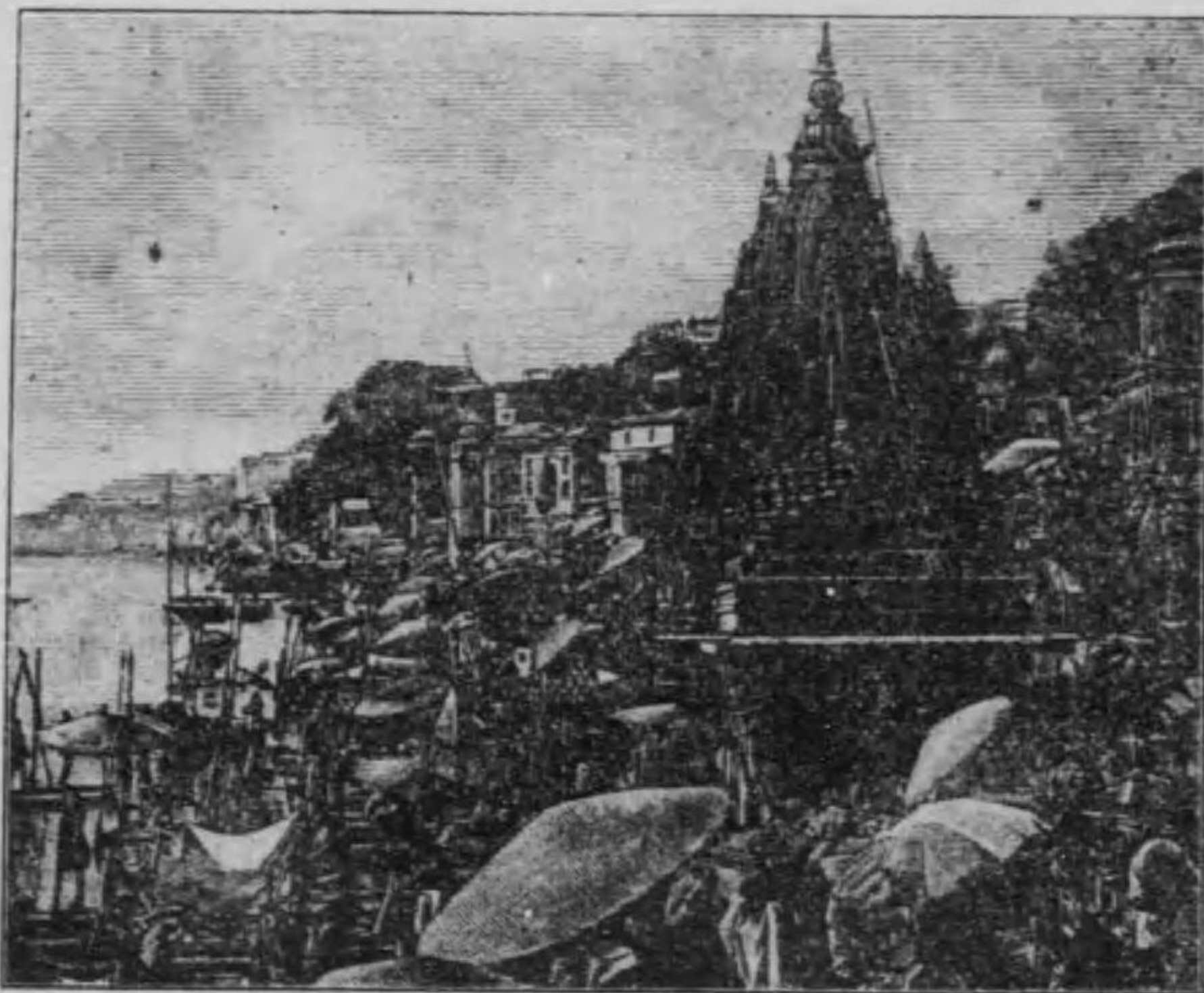
圖十四第

○カルカッタ、ガンジス河の本流、フーヰ、グ、リ、河口を遡る約八十哩のところ、に位する、河港なり。人口百二十二萬、印度第一の都會にして又第一の貿易港なり。本港より輸出するものは、米、黄麻を重なるものとす。印度全貿易額の三分一は、この港の占むるところ、輸入品としては、木綿、織物、金屬等なり。在留本邦人百五十名以上に達し、帝國總領事館を設置せらる。市中には大學、博物館、植物園などの設備完全にして、街衢、壯麗、印度の倫敦と稱せらる。一昨年まで印度の首府たりしが、明治四十四年十一月英國皇帝は、德里に遷都の宣言を發せられたり。

○ベナレスは、ガンジス河の中流に臨み、印度教の靈地として著はれ、寺院古跡多く、巡禮者一年三百萬人に上るといふ。(圖參照) 人口二十萬あり。ベナレスの西方

にガヤあり。近傍のブタガヤは釋迦の遺蹟として名高く、國定教科書の挿畫はブタガヤの高塔を表はし、塔内には釋迦悟道の石像を安置せり。

圖一十四第 スレーナベ



印度の教地靈の地に信者常に集す 圖中天幕は靈水に浴して 病癒をんきとす 其族の居所に 下説は教所又 休りな所

これ釋迦悟道の場所なるを以て、佛教史上に名高き所なり。塔の高さ約百八十尺、塔基四十八尺、其の四方に層龕あり、多く尊像を刻り出す。

○德里は、ガンジス河の上流に位し、人口二十六萬、印度の首府にして、印度政廳のあるところ、大總督ここに駐在す。印度に於ける文化の中心地にして、内

地商業甚だ盛なり。市の寶石細工は有名なり。

○孟買はデカン地方の西岸孟買島上にある貿易港にして、人口九十八萬、印度第二の都會なり、綿花の輸出甚だ多く、我が國に輸出するもの年三千四百萬圓の多きに達するを以て、我が郵船會社の孟買航路はこの目的を以て開れ、定期汽船の往來あり。本邦在留者百九十名、横濱を去る五千三百三十哩、航程一ヶ月を要す。

圖二十四第



○マドラスはデカン高原の東部にあり、人口五十二萬、印度第三の都會なり。港は防波石堤によりて築かれたる人工港にして、大波を僅に防ぎ、淀泊安全ならず。

○孟買航路、横濱、神戸、門司、香港、シンガポール、ペナ

ン、マドラス、コロンボ、孟買、但ペナンは複航には寄港せず)

然れども尙著名の貿易港なり。

○コロンボはセーロン島の西南岸にある天然の良港にして、世界交通の要衝に當り、歐洲航路の汽船は印度洋航行の際、本港に寄港せざるものなし。人口十五萬六千、本島の主産物たる茶はこゝより輸出せらる。セーロン島の茶は其の産額甚だ多く、印度茶の三分の一を占む。

セーロン島は廣さ四千方里、我が北海道位にして、人口三百六十萬、印度に於ける佛教の最も盛なる地方にして、産物としては茶の外に寶石(金剛石)を出す、英國は本島を直轄殖民地として、總督はコロンボに駐在す。

五、沿革

印度は世界最古の四大文明發源地の一にして、文化夙に開け、佛教の開祖釋迦の出生地として有名なり。今より四百有餘年前、葡萄牙人來航せし以來、歐羅巴諸國より(和蘭、佛蘭西、英吉利)この地に來るもの多かりしが、中にも英吉利人は第十七世紀の初葉、東印度商會を設立し、爾來勢力を半島内に扶植し、佛と戦ひ、葡を追ひ、遂に獨り最も勢力を得、後ムゴール帝國を滅して、西曆千八百五十八年、遂に其の政權を握

るに至れり。今は全半島中、セロン島を除き、印度支那のビルマ、及びベルヂスタ
ンの一部を加へて印度帝國と稱し、英國皇帝は兼て印度皇帝の稱號を有し、内閣に
印度省の一省を置き、印度帝國には別に印度大總督を置きて、全島を治めしむ。

六、注意事項

- 1、印度の地勢、産業に重きを置きて、教授すべし。
- 2、都邑の重なるものは挿畫及寫眞等を示して具體的に説明すべし。
- 3、印度と我が國との關係は宗教上、貿易上にあることに注意し、且つ佛教は元印度
に起れるものなれども、今は本地に衰へ反つて印度支那、支那、日本等に於て盛な
ることに説き及び、印度に於ける佛教信徒は僅に三十萬人内外に過ぎずして、セ
ロン島及び南部地方に散在するのみ。然して印度教は日々其の勢力を得て
今や其の信徒全人口の四分の三を占め二億萬以上に達することを知らしむる
ことも必要なり。
- 4、佛教はガヤ附近の釋迦の遺蹟を授くる時に、印度教の狀況はベナレスを説く際
に注意すべし。

- 5、印度が政治上に權力を奪れたる原因を推究せしむべし。
- 6、沿革を授くる際英國が印度を統治するに至りしに與りて力ありし。ヘスチン
クス、クライブの治績は兒童に頗る興味あることなれば餘力あらば説明するも
可なり。
- 7、第二時間の終に於て適當なる發問をなし、復習概括をなすべきは前と同様なり。

第六節 印度支那

第一、要旨

印度支那の位置、地勢、産物、區分を授け、次いでビルマ、暹羅、佛領印度、海峽殖民地の
大要を知らしめ、兼て同地方中我が國と關係する點を知らしむ。

第二、區分 凡二時間

- 第一時 位置、地勢、産物、區分、ビルマ、暹羅、
- 第二時 佛領印度支那、海峽殖民地

第三、教辨物 印度支那地勢圖、區分圖、市街地圖等、

第四、教授材料

一、位置、面積

印度支那は亞細亞洲に於ける三大半島の、一にして、亞細亞洲の東南隅に位し、支那の南、印度及ベンガル灣の東方に突出せり。東西三百里南北七百五十里、面積十四萬方里にして、我が國に三倍し、人口三千六百萬餘を有す。

二、地勢、産業、區分

地勢圖



圖三十四第

地勢は、ヒマラヤ山脈が延びて本半島に入り、數條の山脈となりて、略南北に連り、イラワヂー、サルウイン、メナン、メコン、トンキン河等數多の河流其の間を流れて、沿域に肥沃の平野あり。是れ等の平野は有名なる米の産地にして、我が國にて南京米と稱するは概ね

これなり。山地よりはチーク、黒檀其の他の木材を産すること多し。(總論の部參照)

海岸は屈曲多く、出入に富み、延長約一千七百里殊に馬來半島は長く、南海中に突出

して、半島の標本と稱せられ、南支

那海、ベンガル灣を分ち、シヤム灣

を抱く。東方支那の海南島と安

南との間には東京灣あり。

地熱帯に位するを以て、氣候一般

に炎熱なれども、夏冬氣溫の差極

めて少なく、住居に適す。雨量は

概して多雨にして、殊に西部に多

く東部に少なし。

圖四十四第

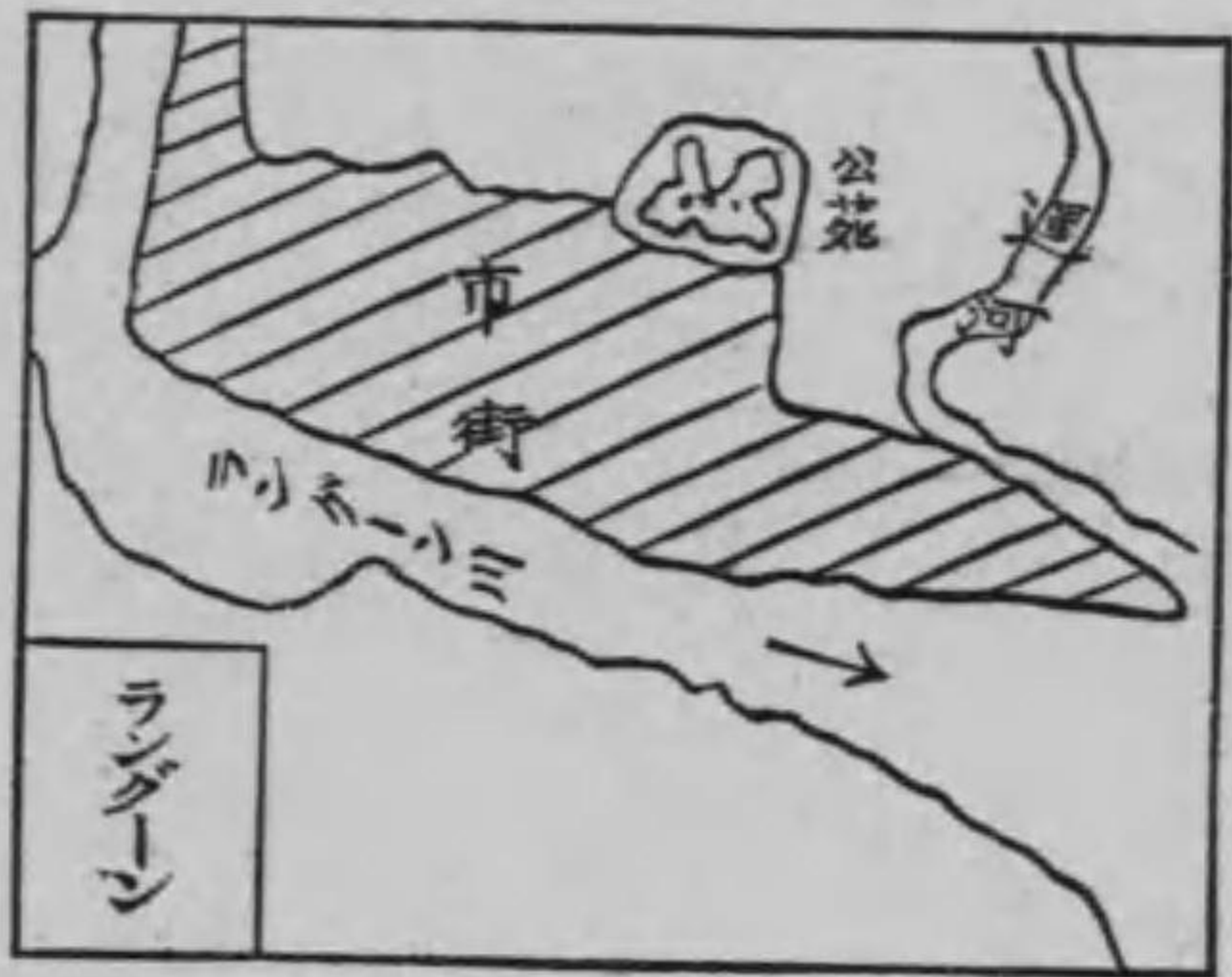


域内を分ちてビルマ、暹羅、佛領印度支那、海峽殖民地の四部とす。

甲、ビルマ

ビルマは印度支那半島の西部を占め、面積四萬四千方里餘、人口一千二百萬を有す。ビルマの生命はイラワヂーサルウィン兩河の流域にありといふべく、この地域は米の産額頗る多く、我が國に輸出するラングーン米殊に名高く、一年七百萬圓に及ぶ。

圖五十四第



○ラングーンは即ちその米の輸出港にしてイラワヂー河の三角洲上にあり、この地方第一の貿易港にして、人口凡そ二十四萬、ビルマ政廳の所在地なり。

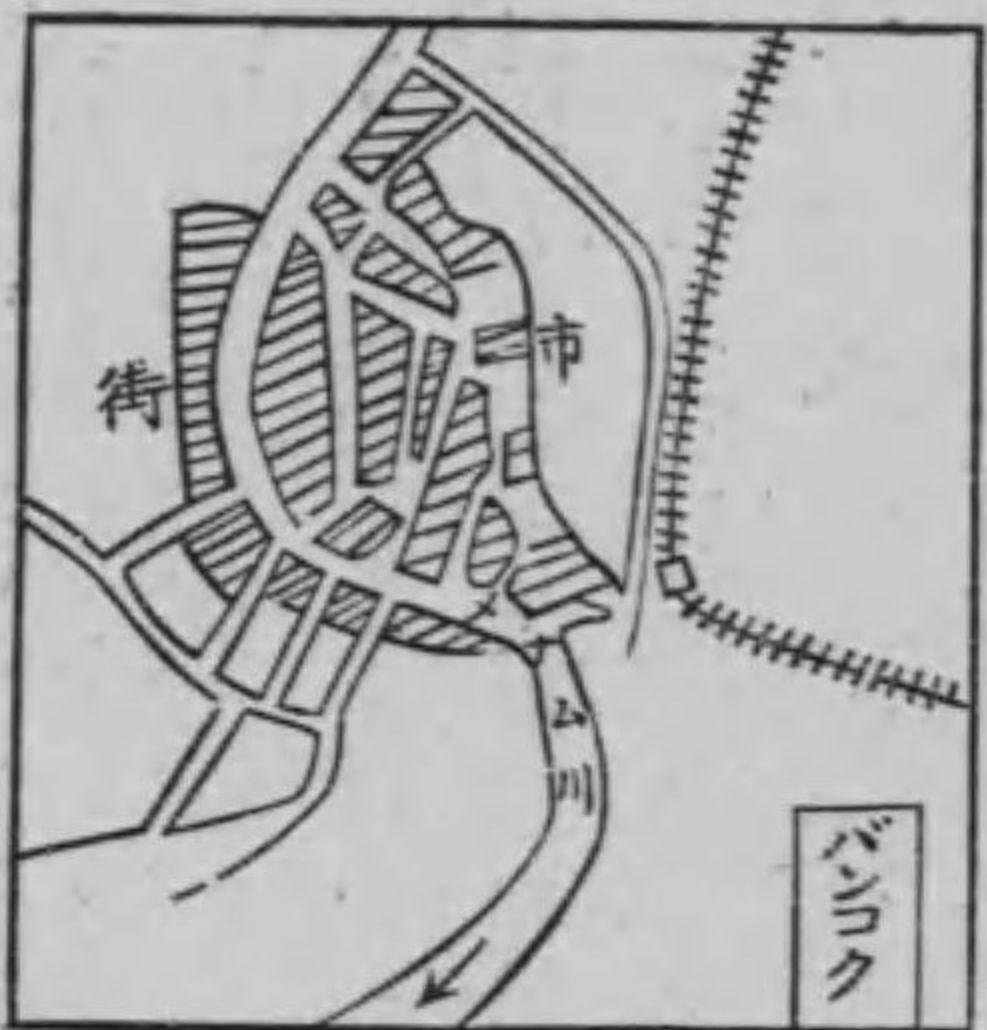
○ビルマは元マンダレを首府としたる一の獨立國なりしが、英國の侵略を受けて、西曆一千八百八十五年國遂に亡び、今や英領印度の一部となれり。

乙、暹羅

暹羅は印度支那半島の中部を占め、面積約三萬三千方里、我が國より稍々小なれど、

人口は凡そ七百萬に過ぎず、住民は多く、佛教を信すること厚く、男子丁年に達すれば、一二年間は必らず僧侶となりて、諸國を巡禮し、後還俗して一般民となる。國王と雖一度は僧侶となる慣習なれば、社會のあらゆる方面に佛教の影響を蒙ること大にして、殊に建築の如きは教科書挿畫の如く宮殿すら佛殿式にして、その玄關に佛像を安置せるを以て知るべし。

圖六十四第



國の中央をメナン河、南北に貫流し、本國の主要農産地をなし、雨季には水漲溢し、河畔を肥沃ならしむるを以て、米の産額多く、國民の需用を充したる剩餘を輸出して、年額尙三千五百萬圓に達す。山地よりはチーク材の伐採多く、年々百萬圓の輸出あり。以上の産物を輸出する地は盤谷なり。

○盤谷は暹羅の首府にして、前圖に示す如くメナン河を遡ること約七里半のところにありて、貿易盛にこの國の大部分を占む。人口約六十萬、運河縱横に通じ、水運の便に富む。住民の三分の一はこの運河上に水上生活をなす。本邦在留者

百八十一人、我が國公使館あり。

この國は徳川時代の初に當りて、山田長政の武勇を現せし所なり。其の後屢々興廢ありて今の王朝は百二十餘年前に起り、近時先進國の文明に倣ひて、國政の改良を圖り、獨立の體面を保てり。而して我が國とは近年交情益々親密にして立法、行政、教育等に我が國人を顧問若は教師として聘用しつゝあり、東洋に於ては我が國と共に完全なる獨立國なれども、人口の寡少と國民の怠惰は、折角天然の富源を有しながら、未だ充分開拓するに至らざるは惜むべし。

○この國に於ける象は最有用なる家畜にして、耕作運搬に使用せられ、國王の乘輿にも象を用ひ、國旗及貨幣の紋章にもこれを描く、白色の象出現すれば國民大いに之を吉事とす。恰支那に麒麟の現はれたるを瑞兆となすと同様なり。

丙、佛領印度支那

佛領印度支那は、印度支那半島の東部の地を占め面積五萬方里、人口約一千七百萬、中部に山地多けれども、南部のメコン河、北部のトンキン河の流域に平野あり、佛國の殖民地中最も生産力に富める地方なり。海岸は單調にして、大屈曲良港に乏し

けれども、南部にカムラン灣あり。明治三十八年日本海軍戰前波爾的艦隊碇泊して戰備を整へ、物議を醸したることは人の記憶するところなり。

○ハノイは、北部平野にありて、佛領印度支那の首府なり。雲南鐵道の起點、交通上の要所に當り、南部支那との貿易盛にして、トンキン米を輸出す。人口十四萬餘

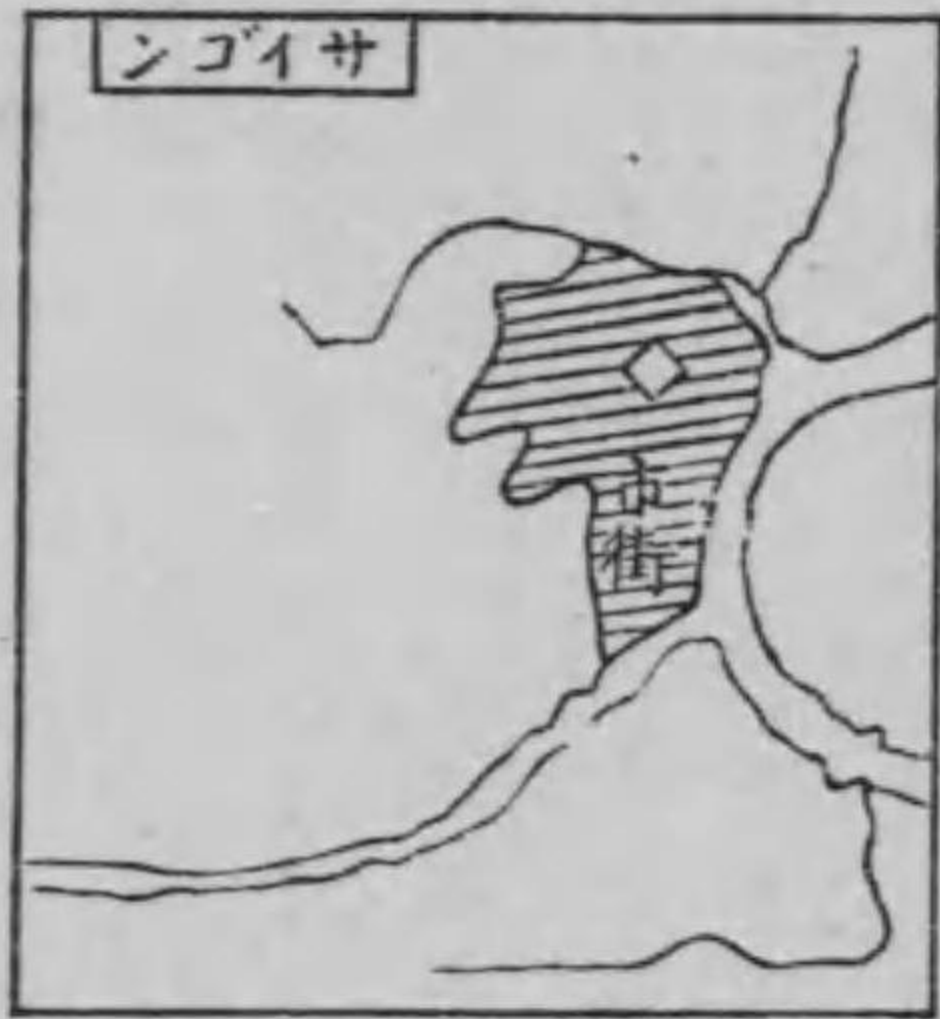
總督この地に駐在す。

○サイゴン は南部平野のメコン河の三角州上にありて、佛國東洋艦隊の根據地を

なし印度支那殖民地の重鎮なり。人口約五萬、サイゴン米の輸出多く、我が國にも年額六百萬圓の輸入をなす。日本郵船會社の一寄港地なり。横濱より三千三百六十八哩。

佛領印度支那の地には元安南、カンボチャ等の獨立國ありしが、今より百二十年前佛國に南部を割讓せしより、漸々侵略を受け、我が明治十七年頃より、何れも勢力を失ひ其の保護を受くるに至れり。

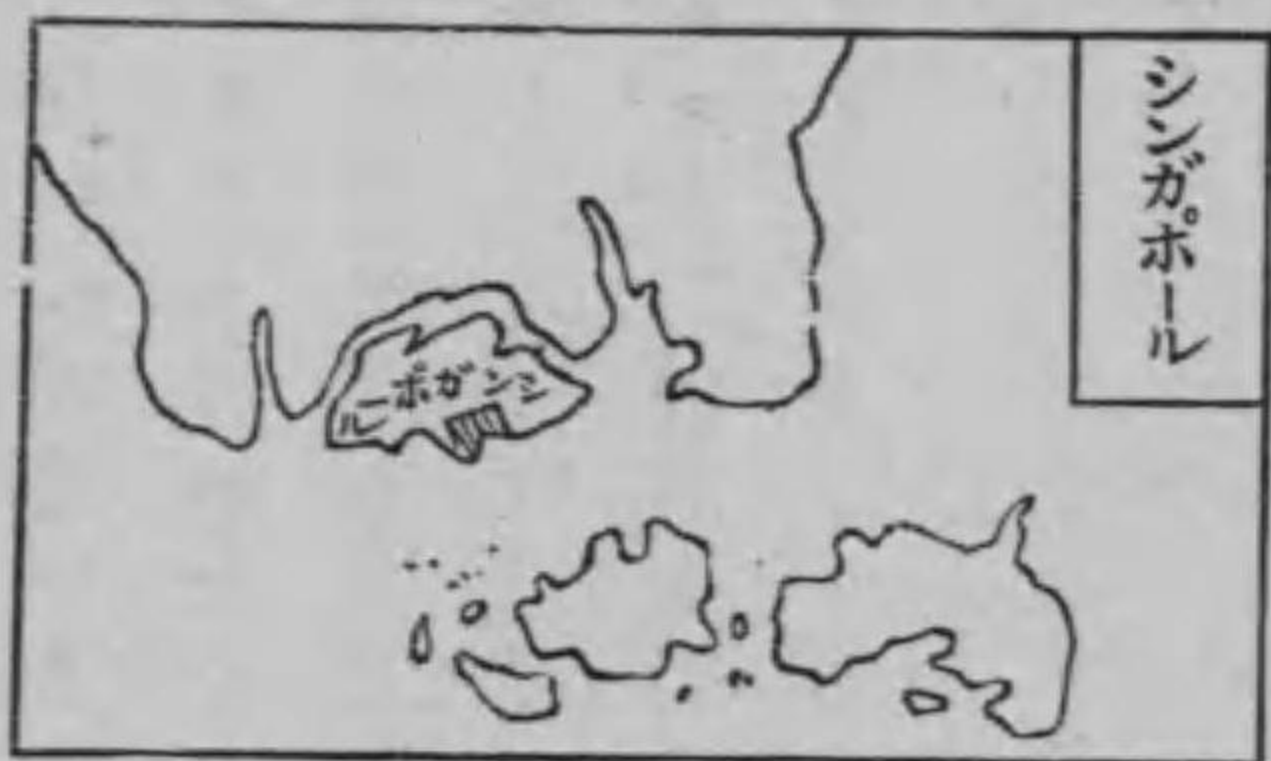
圖七十四第



丁 海峽殖民地

海峽殖民地はシンガポール、マラッカ等の總稱にして、馬來半島の南部にあり、今より八十餘年前、英吉利の直轄殖民地となり、其の行政權はシンガポール知事の司るところなり。土地熱帯に屬するを以て、護謨樹の栽培に適し、我が國人もこれに従

圖八十四第



事するもの尠ならず。本邦人の在留するもの一萬二千人に及び、就中シンガポールに多し。首府シンガポールは、同名の島上の南岸にあり、周圍六十七哩、海峽の關門にして、東西交通の要點、中次貿易の衝に當り、自由港となりてより、貿易盛大を極め、一年十億圓以上の取引ありといふ。日本郵船會社の歐洲航路、孟買航路の寄港地にして、我が領事館あり、横濱より二千九百哩、人口二十三萬の都會なり。日本對シンガポール貿易 我が國よりの輸入品マツチ、石炭、漆器、絹織物等

我が國への輸出品、錫、銅器、皮、綿織物等

○ペナンは海峽殖民地の西北海岸にある小島、南北十六里、東西十一里にして、檳榔子、薔薇せり。首府をジョージタウンといひ、目下我が國の旅館三軒あり。孟買航路の寄港地なり。

三、注意事項

- 1、本地方産の南京米について、其の産地と輸出港とを注意すべし。南京米とはラングーン米、サイゴン米、トンキン米、シヤム米の總稱なり。
- 2、暹羅については我が國との關係に注意し、且つ亞細亞洲に於ける稍々完全なる獨立國たることを知らしむべし。
- 3、海峽殖民地についてはシンガポールに注意し、東西交通の要點に當ること、又我が國と關係する點を知らしむべし。

第七節 馬來群島

第一、要旨

○教科書挿畫は籐細工及場所を示すものにして、籐を運ぶもの杭を立て其の側に

胡椒 圖一十五第



馬來諸島(產島諸來馬) 末粉と辛辣味の料の供に 蔓草にして其て子糖を

て作業をなすもの、光景なり。仕上げたるものにて籠、椅子網などを製す、馬來群島は殆どこれを産すれども、フィリピン島を其の最とす。周圍にある木は即ち椰子樹なり

三、區分、都邑

馬來群島は概ね和蘭の領地なれども、ボルネオ島の北部は英吉利に屬し、其の東北なるフィリピン群島は亞米利加合衆國に屬す。

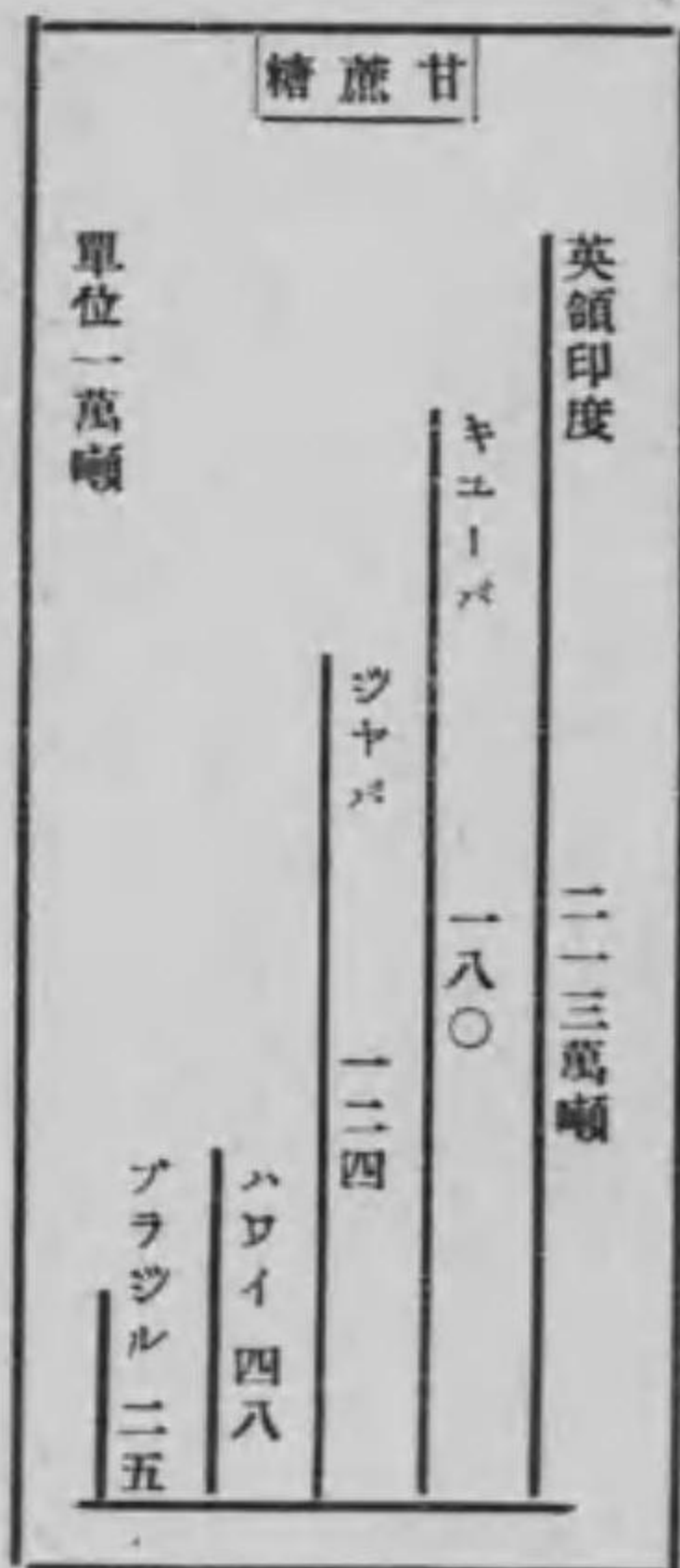
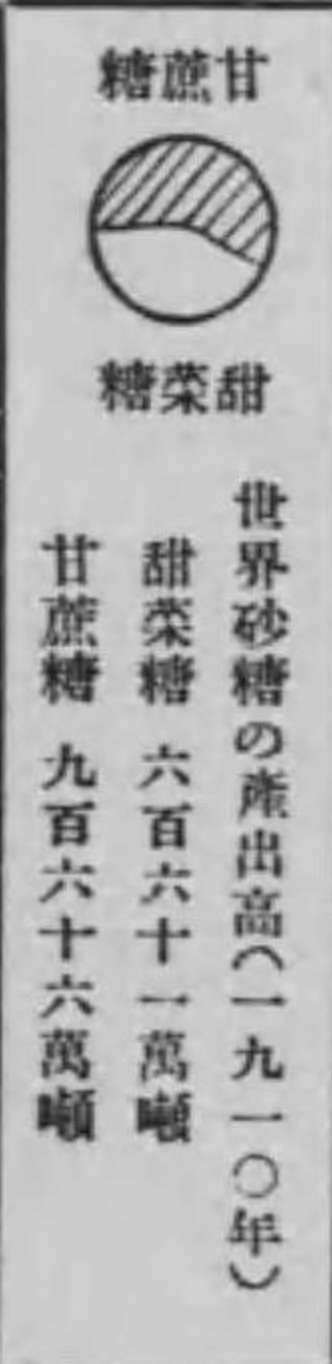
和蘭領 諸島の大部ニユーギニアの一部等にして合して和蘭領東印度と稱す面積九萬四千方里、馬來群島の四分の二を占む

英吉利領(北部ボルネオ、ラクアン島)

北亞米利加合衆國領(フィリピン群島)

葡萄牙領(チモル諸島)

一、ジャバ島はボルネオ島の南にあり面積我が本州の二分の一人人口三千萬に達し、和蘭領中最も開けたる所にして、甘蔗糖の産額は統計圖に示す如く、世界第三にして我が國製糖の原料は多くこの地に仰ぐ。其の他香料珈琲等の産も甚だ多く、蘭領の寶庫とも稱すべし。首府バタビヤは其の北岸にあり、本島物貨の集散



地にして、殊に砂糖珈琲の輸出頗る多し。人口十一萬六千餘、蘭領東印度總督この地に駐在す。我が國領事館あり。

二、フィリピン群島は巴西海峡を隔て、我が臺灣に對し、大小三千一百餘の島嶼より成り、そのうち、北部のルソン島を最も大なりとす。

(面積約二萬方里)島中の重要産物はマニラ麻、砂糖、煙草、米、珈琲等とす。就中、マニラ麻、砂糖、マニラ煙草、コブラーをこの地の四大産物と稱す。

麻ラニマ 圖二十五第



は維織り採な維織りよ皮包其てしに物植るた似に蕉芭
す製を等網は又布てしに極強甚

マニラ麻、マニラ煙草の輸出を以て名高く、我が國との關係は早く、慶長年間屢々

- コブラーは椰子の核を乾したるものにて石鹼及擬造パタの原料とす、一年の輸出額四百五十萬圓
- 煙草の産額一千萬圓
- 砂糖 四百萬圓
- マニラ麻は出額のみにて四千萬圓

圓

○マニラは、ルソン島の西岸マニラ灣に臨み、本群島の首府にして人口二十二萬を有し、百貨出入の大關門をなし、商況頗る殷賑にして、

邦人の來住せし所、現に本邦人の在留するもの少なからず。我が領事館あり。我が東洋汽船會社、郵船會社の重要寄港地なり。

○この群島は西曆一千五百二十一年マガリエンス(マゼラン)によりて發見せられし以來、西班牙の領地なりしが、米西戦争の結果、西曆一千八百九十九年遂に亞米利加合衆國の領地となれり。

四、注意事項

- 1、群島の地勢氣候産物との關係を有機的に説明すべし。
- 2、本島中列國區分範圍を授くる際和蘭の領分多きことを知らしめて、蘭領殖民地中重要なることを悟らしむべし。
- 3、フィリピン群島については我が國と地理歴史的の關係從來より深かりしことを授け、現時米國の同島に對する政策問題に及べば一層興味を添ふならん。
- 4、熱帯産物は成るべく實物若は標本を準備して、直觀せしむるやう努むべし。

第八節 亞細亞洲總括

第一、要旨

亞細亞洲の總論及各國地理の大要を復習し更に次の概論に達せしめ教授上の良果を得るを以て要旨とす

第二、區分 凡二時間

第三、教辨物 世界全圖、亞細亞洲地圖

第四、教授材料

- 1、亞細亞洲はその廣袤より見れば六大洲に冠たり。
- 2、これを地勢上より見れば、世界第一の高大なる山脈と、世界最低の窪地を有す。又世界第一の大高原ありと思へば、世界第一の大平原あり。(西比利亞平原)世界最大の半島ありと思へば世界最大の湖水あり。更に他洲に少き内地河、双子河を多く有するなど實に複雑極まれりといふべし。
- 3、これを氣候上に見れば人類の住所として世界最寒の地あり、これに對してまた世界最熱の地を有す、且つ世界最多雨の地ありと思へば、雨雪絶無の地を發見す、これ畢竟土地の廣大なるに歸因すとは云へ兩極端を集め來たれる感なくんばあらず。

らず。

- 4、これを産物の上より見れば寒、温、熱の三帯に跨るを以て、極めてその種類に富み印度及支那平原の農産物、印度支那半島並に馬來諸島の農産香料を始とし、西比利亞内地の鑛産及毛皮は注目すべき價あり。されば印度馬來諸島は英吉利、和蘭の東洋に於ける寶庫として、重要視する故なきにあらず。

- 5、これを住民に徴するに人種はその種類多種多様、人口は六大洲中の首位を占め而して古代文化の開拓者となり、世界宗教の搖籃を作れり。

- 6、これを都會及び交通上より見れば何れも氣候比較的温暖にして地味豊沃、天産豐富なる地方に多く發達し、印度、支那、日本には人口五十萬以上の大都會あり。たゞ北部西比利亞鐵道は世界交通上甚だ重要なものなることを記憶すべし。

- 7、斯の如く觀じ來れば亞細亞大陸には自然地理の上に於て、他洲に優るもの多しと雖、人文地理に關する方面に至りては、歐洲に比して遜色あるを免れず。これ抑、何に基因するか、簡單に評價するを得ざれども、地理上の關係大いに其の影響を與ふるものあるを覺ゆ。即ち地味豊沃、天産豐富なる南部は餘りに温暖に過ぎし

爲その發達は過去に屬し、北部は地瘦せ、氣候過寒にして、需用品缺乏するを以て、發達の餘裕なく、而して中央溫帯に屬すべき大部分の地は、不幸海洋の影響を受くること、少なきにより雨量少なく、氣候大陸的にして、沙漠高原の占有するところとなり、人衆の定住に適せず、從て文明の發達を見るを得ず。たゞ僅に天の壓迫を免れたるの地は東南岸の地と、西岸の一小部と沿海の島嶼あるに過ぎず。

8、更に之を國家の上より觀察すれば、我が國の外支那暹羅、アフガニスタン、ベルチスタン、ネパール、ブリタンの數國の獨立國あれども、勢振はず、他は概ね西洋諸國の領土に歸し、地形上ユーラシヤ大陸の一半島たる歐羅巴洲は、反つて本洲の主人公たるの觀あり、且つ亞細亞人を目するに劣等人視し、頗るこれを輕蔑し、濠洲に於ける白人濠洲主義、北米合衆國に於ける黄色人排斥の如きは、蓋しその一例なり。

第二章 大洋洲

第一節 總論

第一、要旨

大洋洲の位置、區分を明にし、次いで濠太刺利及本洲諸島の面積、人口、地勢、氣候、産業、都邑等の大要を授け、本洲の文化の如何、並に我が國と關係する點を知らしむ。

第二、區分 凡三時間

第一時 大洋洲の位置、區分、及濠太刺利の面積、人口、地勢、氣候、産物

第二時 濠太刺利の都邑沿革

第三時 本洲の諸島の面積、人口、地勢、氣候、區分、ニュージールランド、布哇諸島

第三、教辨物

濠太刺利地勢圖、同重要金産地、同人口稀薄比較圖、ニュージールランド、ニューギネ

ア島地勢圖、シドニー、メルボルン市街圖、大洋洲重要産物圖、地球儀等

第四、教授材料

位置區分

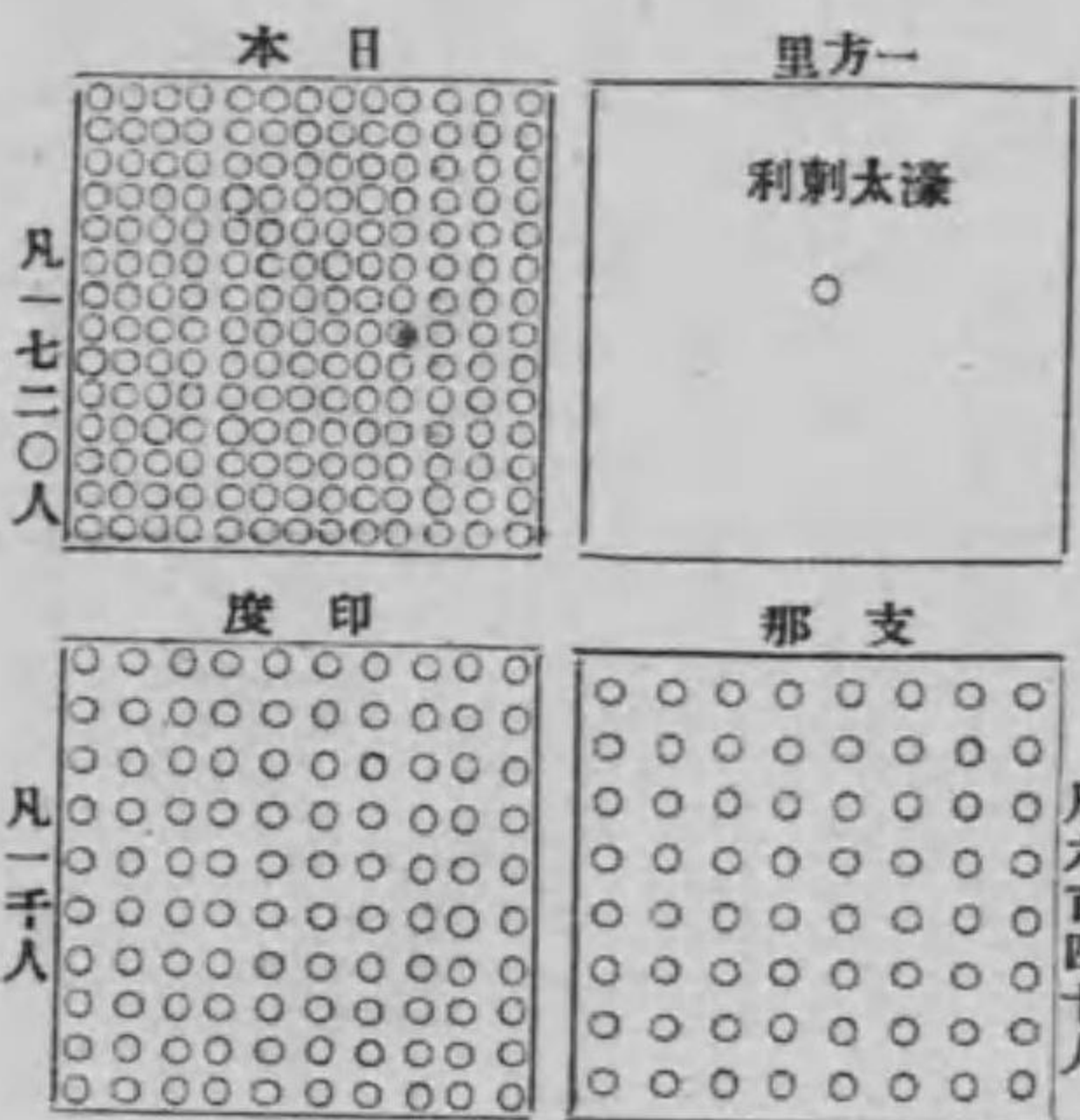
大洋洲は亞細亞の東南なる濠太刺利大陸と、其の附近より東北に亘りて大太平洋中に散布する數多の島嶼より成り、其の大部分は赤道の南に位す。(地球儀使用若し

赤道を中心として、地球を南北に分つ時は、本洲は南半球に属するを以て、氣候北半球と正反對となり。四季全く相反す。

第二節 濠太刺利

濠太刺利人口稀薄比較圖

(面積單位一方里
○八十人ヲ示ス)



一、面積、人口

濠太刺利とは南の陸地の意義にして、略して濠洲と稱す。面積凡そ五十萬方里、亞細亞の六分の一を占め、世界大陸中最小の洲なり。人口凡そ四百五十萬餘を有し、面積に比して住民少く、密度に於て世界最稀薄の洲なり。全部英吉利に屬す住民は英人の子孫其の大部を占め、日本人支那人も又少なからず。土人には野蠻にして食人の陋習ある濠太刺利人約六萬人ありといふ。

○圖に示す如く、人口の稀薄なるに拘らず、白人労働者保護のため、白人以外の移住者に對し、種々の制限を加へて之を拒否し、白人のみを以て、本洲を組織經營せんとするを主義とす、これ所謂白人濠洲主義といふ。

二、地勢

地勢は、概ね内地に低く、周邊に高く、山脈は東南岸に沿へる濠太刺利アルプ最も大なり。内地の大部は沙漠にして大河としては唯一のマルレー河あるのみ、其附近には湖沼數箇所を見る。海岸は一般に出入に乏しく、島嶼はタスマニヤ島を重ねる者とす。本洲の東海岸に近く濠太刺利大堡礁と稱する珊瑚礁ありて、海岸に併走し、南北に連り長さ約五百里に亘る。

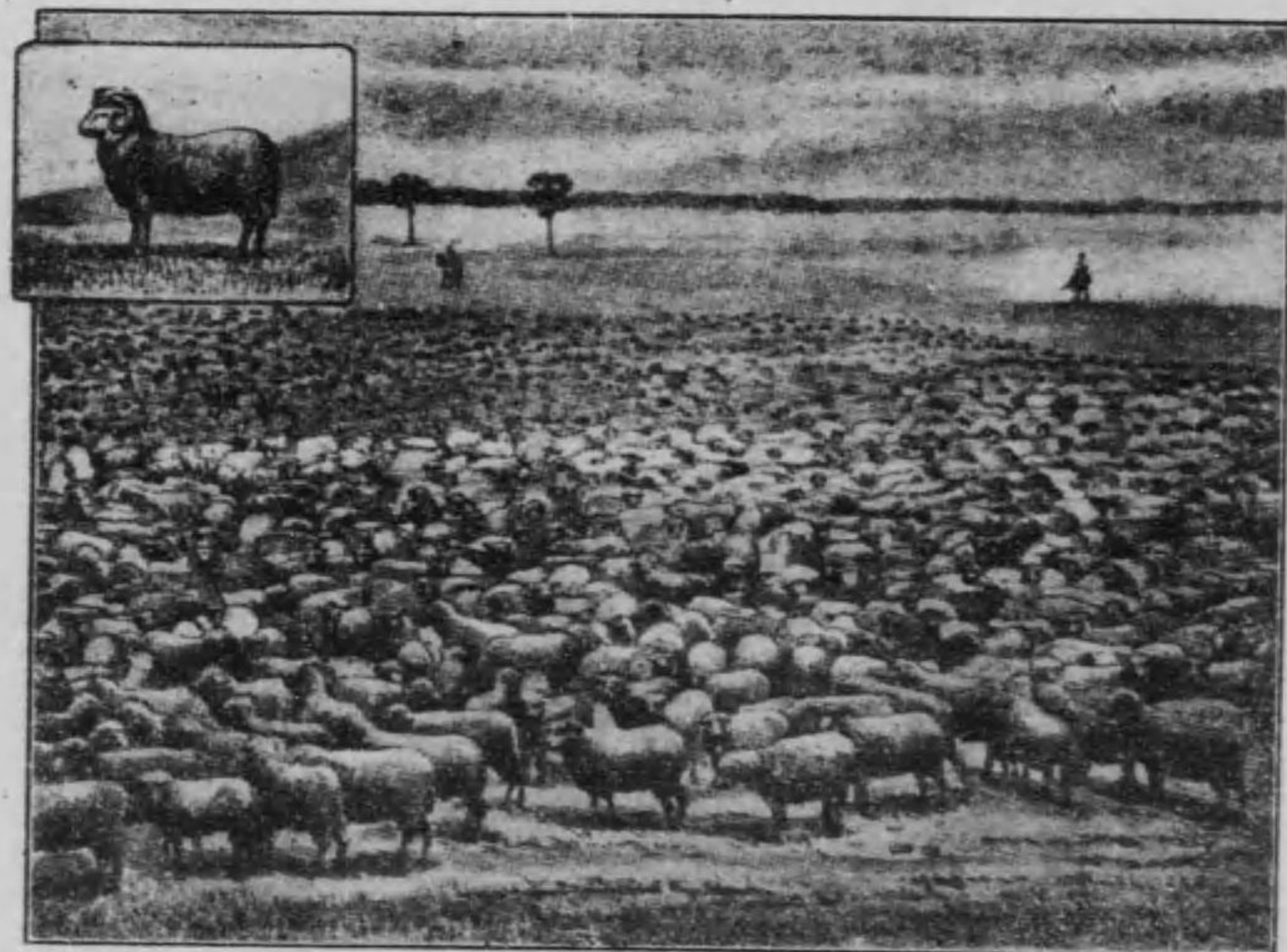
三、氣候

氣候は緯度上より見れば、本洲の五分の二は熱帯に屬し、五分の三は溫帯に入る。従て東南部

第五十三圖 地勢圖



(頭数)	(毛羊)
8400萬頭 濠洲	24萬トン
6700萬頭 アルゼンチン	17萬トン
5000 北米合衆國	14萬トン
4200 ロシヤ	
2900 イギリス	



額産毛羊、頭羊の國諸と羊牧の洲濠 圖六十五第

○鴨嘴獸も挿畫に見る如く、鼯鼠に似たり、一穴類にして、轉尿口と生殖口と同一なり、身長二尺許、皮は天鵝絨の如く裝飾用に供す、哺乳類にして卵生するものはこの類のみ。

○ユーカリ樹は挿畫の如し参照すべし

原種を歐羅巴より移したる主要の産物には、牧畜に牛、羊、農産に小麦等あり。就中羊は、其の頭數、八千四

は氣候溫和なれども、内地は海風の影響を受くることなく、概ね無雨の沙漠をなし、寒暑の差甚だしく夏は殊に酷熱なり。

四、産物

圖五十五第



圖四十五第

ユーカリ樹は常綠喬木にして高さ四十丈に達するものあり、材質堅牢なるを以て船體を造るに用ひられ、樹皮は製紙に用ひらるゝものあり、濕地に植うれば濕氣を吸收し、殊に脚氣マラリヤ熱病の病源を断つ効あるにより、近年我が國にも培養せらるれども、長ならず、葉よりは揮發油を製す

本洲は他の大陸と隔離せらるゝが爲に、産物も本洲固有の珍しき動物多し。動物にカンガル、鴨嘴獸の如き、植物にユーカリ樹の如き其の著しきものなり

○カンガルは教科書挿畫の如く顔長く容貌鼠に似たり、有袋類にして腹部に一種の袋を有しこの中に幼子を入るゝはその特徴なり、皮は靴、手袋、肉は食用に供す大いさ犬位なり。

百萬噸、世界第一にして従て羊毛の産額も年二十四萬噸に上り、世界首位を占む。

(圖參照)

圖七十五第



鐵産物としては金、銀、石炭等にして中にも金は南亞弗利加聯邦のトランスバールに次いで多く、年産額一億六千四百五十八萬圓に達し、世界第二なり。その主なる産地は上圖に示すが如し。

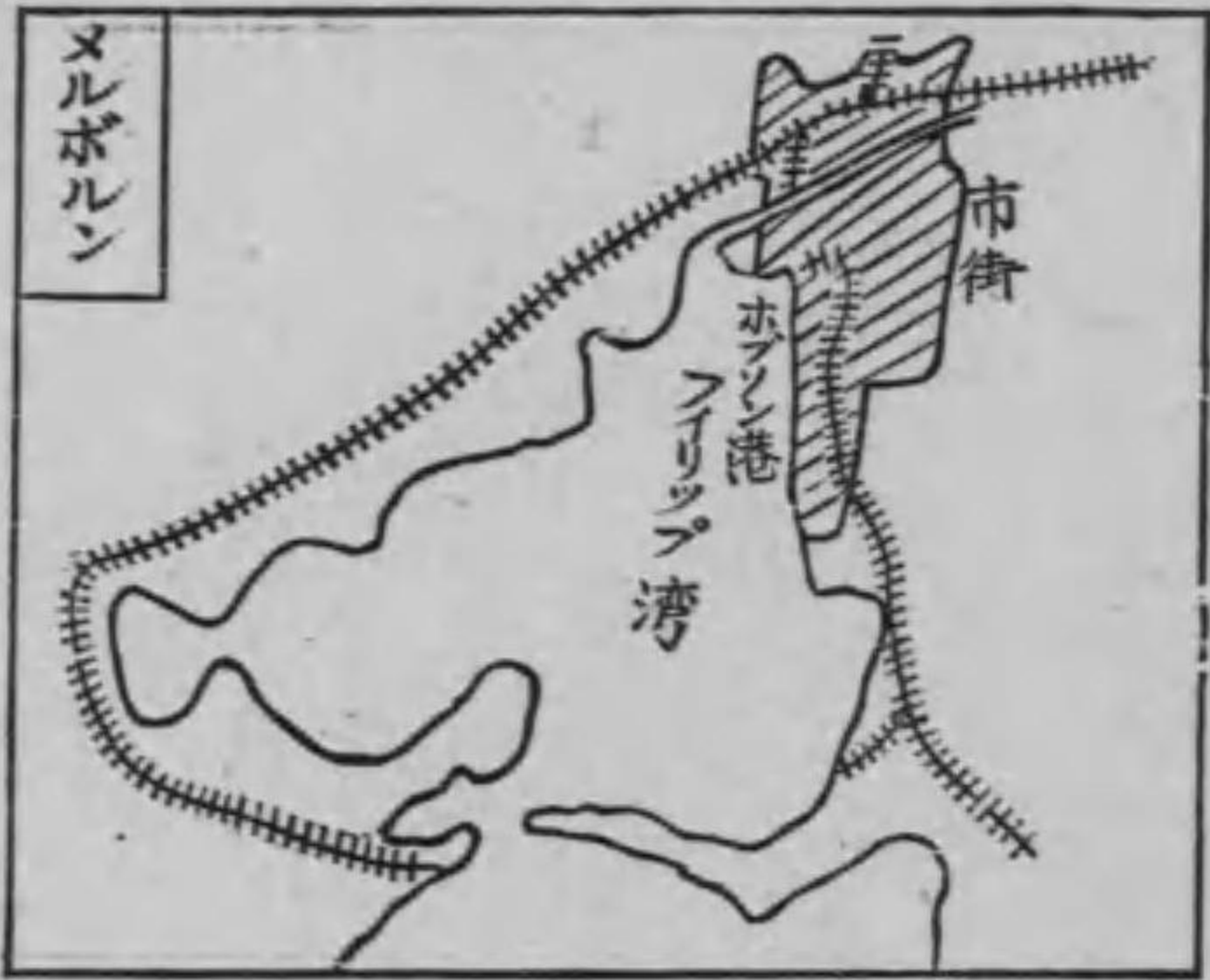
外國貿易は新開の地としては多き部に屬し、一年に十億圓の取引あり。重要輸出品は金、羊毛、小麥等にして我が國に輸入する羊毛も甚だ多し。我が國より米、羽二重を輸入す。

其の中心地はシドニー及メルボルンなり。

五、都邑

○メルボルンはフィリップ島のホブソン港

圖八十五第



に臨み、人口五十一萬、市街全く歐風をなし、鐵道四方に通じ交通頗る便利なり。従て商業活潑にして、貿易の盛なること濠洲第一なり。我が郵船會社濠洲航路の終點にして、我が横濱より四千九百九十海里、片道三十七日間を要す。名譽領事館あり。目下聯邦政府の所在地なりとす。

教科書挿畫はコリンス街の整然たる所を示したるものなり。

この市は今より凡八十餘年前バットマン及フォートネル兩氏の始めて上陸したる時、二枚の毛布と一瓶の酒とを以て土人より買収したるものなりといふ。

○シドニーは濠洲最古の都市にして、世界第一と稱せらる。ポートジャクソン港に臨み、灣の口より五哩の奥にあり、人口凡そ六十萬、濠洲第一の都會、商業頗る繁盛にして、英吉利の濠洲艦隊の根據地として

名高く、堅固なる砲臺を設く。我が郵船會社汽船の航路に當る。横濱より三十

二日にして達す。

○濠洲航路 横濱—神戸—門司—長崎—香港—マニラ—木曜島—タウンズビル、ブリ

スベン—シドニー、メルボルン。

ヨーク半島に近く一小島あり。木曜島といふ。周圍五哩、本邦人の在留するもの七百人の多きに達し、その過半は眞珠貝の採取に従事す。島内のケンネヂュー港は眞珠、イリコ(海參)龜甲などの集散地にして濠洲航路の寄港地なり。

六、沿革

濠太刺利が初めて世人に知られしは第十六世紀に於ては西班牙和蘭の兩國人相競ふて紀頃葡萄牙人の探檢に萌す。第十七世紀に於ては

圖九十五第



探檢し、廣く世界に紹介せり。西班牙人の如きはこれに南洋の神國の名を與へたることあり。今より百二十餘年前(西曆一千六百八十八年)英吉利人が初めてこの地に達してより、爾來續々探檢に従事し、西曆一千七百八十八年罪人の一團を送りて殖民せしむ。これ一千七百七十六年北米合衆國の獨立せるを以て、他に殖民地を開き以てその損失を補はんが爲なりき。爾來勢力を扶殖して遂に全洲を占領するに至れり。殊に五十餘年前金鑛の發見せられしより、土地大いに開け人口繁殖して數箇の殖民地成立するに至り、近年(明治三十三年)グイクトリヤ、ニューサウスウエルズ、クインズランド、南濠太刺利、西濠太刺利等の五洲とタスマニヤ島聯合して、濠太刺利聯邦を組織し、大統領これを統治す。其の下に議會ありて立法に與る。中央政府は今に假にメルボルンに置けども、明治三十七年に當市の東北百五十里なるダルゲチー附近に置くことに決定せしが、大正二年三月に愈々新首府の基石建立式を行ひ、名稱をガンベラと與へたり依て移轉も近にあるべし。

第三節 本洲の諸島

本洲の諸島は其の全面積凡そ八萬方里、人口三百二十萬あり。諸島には往々高き

火山を戴き、或は低き珊瑚礁より成る。多くは熱帯に位すれども、海風の影響を受くるが故に、暑氣甚だしからず。諸島悉く歐米諸國の分領する所にして、其の重なるものをあぐれば次の如し。

第十六圖 地勢及分轄圖



甲 バブア(一名ニューギニア)

バブアは面積我が本洲の三倍半にして、世界第二の大島なり。(ボルネオ島参照)人口七十萬餘、形匈へる龜に似たり、中央にノース山脈ありて、ヘルキユールス山は其の西部に高く聳ゆ。氣候溫熱にして森林繁茂且つ土人バブア族兇暴なるため歐洲人の開拓充分ならず。本島は英吉利、獨逸、和蘭の三國に分類せられ、本島の特産としてバンの樹あり(第六十一圖参照)

乙 ニュージージーランド

ニュージージーランドは面積一萬七千方里、人口百三萬濠太刺利の南東に位し、南北の二島に分れ、北島には火山多く圓錐狀の美を以て稱せら

第十六圖



麵包樹及果實を擔へる南洋土人
ニューギニア島に多し三本のバンの木より一人一年の食を得るに足るといふ。

る、エグモンド山最も著し、南島には南アルプ山脈縦貫せり北島は溫泉に富み間歇泉多し。南東の高山には氷河を見る。氣候一般に溫和にして、南洋の日本と稱せられ、産物として羊毛、凍肉、麥粉、金などを重なるものとす。住民は主として英人なれども、文身を以て名高き土人、小數住居す。本

島は英國の直轄殖民地にして、總督を北島のウエーリントン港に置く。女子も衆議院議員の選舉權を有するは、珍し。

第六十二圖 ニュージランド島



丙、布哇

布哇諸島は、本洲の東北部に在りて、全島火山より成り、その大なるものは、布哇島、オアフ島にして、布哇島にはマウナロア(高一三七〇〇尺)マウナケア等の大火山あり。

○ウエーリントンは肉類、羊毛、毛織物の輸出多く交通、商業、政治の中心地なり。我が南極探検隊もこの地にて南進の用意をなしたりといふ。

○凍肉とは、獸肉を冷蔵し、更に赤道を通過して歐羅巴に送る際船中の冷蔵室に詰め輸送するものなり。

第三十六圖



面積一千方里、人口十八萬餘、元は一の獨立國なりしが、我が明治三十一年亞米利加合衆國に併合せられて一屬地となる。氣候溫暖にして、多く砂糖を産し、一年に二回乃至三回の收穫あり。其の產出高八千萬圓の大きに達し、主として米國に輸出す。

(ジャバ島參照)本邦人の在留するもの八萬人に達し、重に甘蔗の耕作に従事す。故に第二の日本の稱あり。

○教科書挿畫は布哇の蔗甘畑と製糖場とを示すもの、甘蔗の高さ十尺乃至十二尺に達するものあり、製造場の前に推積せるは荷車にして、運搬し來れる甘蔗及運搬人も見ゆ。

て、本群島の首府、市街は背後に綠樹を覆ひ、風光清楚なり。人口四萬に近く、濠洲亞細亞、亞米利加合衆國との交通の要路に當るを以て貿易盛に行はれ、我が東洋

汽船會社米國航路の寄港地なり、横濱より三千四百四十五海里、約十一日にて達す。我が國總領事館あり

附、注意事項

- 1、本洲はその面積に比して人口の稀少なることに注意せよ。
- 2、本洲には他洲に見ることを得ざる特産物あることに注意して教授すべし。
- 3、本洲殊に濠洲が英領となりし次第を筋道を明にして授くべし。
- 4、本洲と我が國との關係は密なるものあれば忽にすべからず。布哇の如き殊に注意すべき必要あり。
- 5、本洲及諸島中には開拓充分ならざるものあることを地理上より觀察せしむることを怠るべからず。

第三章 歐羅巴洲

第一節 總論

第一、要旨

歐羅巴洲の位置、面積、地勢、氣候、産業、交通、住民、區分等につき其の大要を授け、併せて本洲が自然地理の多趣にして天然力に富めること随つて人文地理に大なる影響を及ぼして世界最高文明の華をなせる次第を知らしむ。

第二、區分 凡そ三時間

第一時 位置、面積、地勢

第二時 氣候、産業

第三時 交通、住民、區分及び全體の概括

第三、教辨物 地球儀、歐羅巴地勢圖、運河の二大系圖、人種分布圖、宗教分布圖等

第四、教授材料

一、位置、面積

歐羅巴洲は東半球の西北部に位し、東は亞細亞に連り、北は北氷洋に臨み、西は大西洋に面し、南は地中海を隔て、亞弗利加に對す。所謂ユーラシヤ大陸の一半島たるに過ぎず。面積凡そ六十四萬方里にして亞細亞の略々四分の一に當り、支那より遙に小なり。

○各大洲を見るに、何れも海洋を以て圍まれ、互に連続せるものなし、獨り本洲と亞

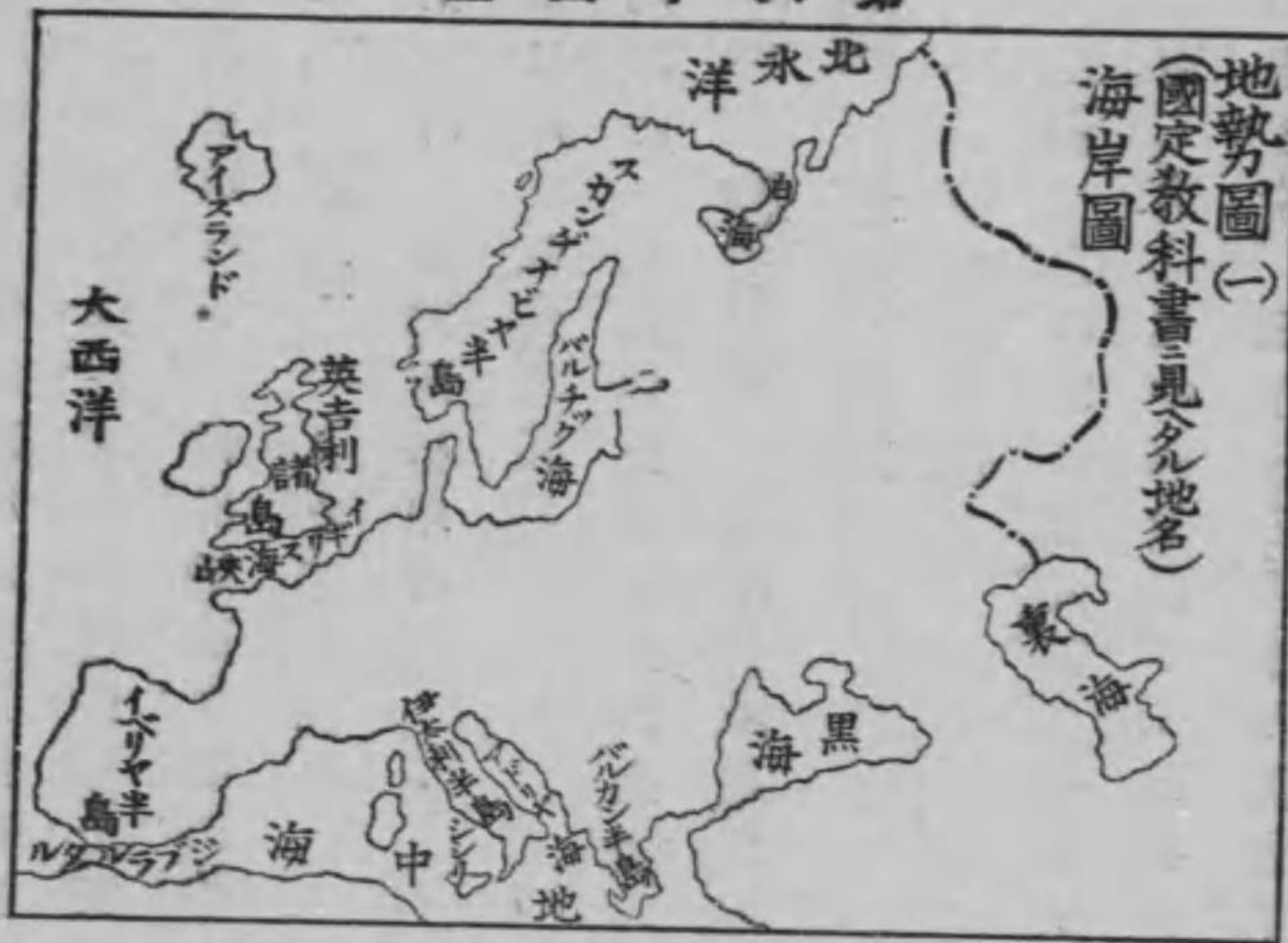
細亞洲とは陸續にして、地體構造上相切斷せるものと見るを得ず、故に學者、兩大陸を一團となし、ユーラシア大陸と稱す、至當といふべし。

一、地勢

亞細亞の地勢は土地の廣大を以て特長とせしが、本洲の地勢の特質は海岸の發達にあり、即ち本洲の海岸は出入極めて多く、島嶼に富む、これ本洲文化發達の一原因をなすものなり。

即ち北方にはスカンデナヴィヤ半島ありてバルチック海を抱き、西には英吉利諸島ありて北海及び英吉利海峡によりて大陸と隔つ。

圖四十六第



○バルチック海は一般に淺く、北部は平均十呎、南部は五十呎に過ぎず、海水大西洋よりも鹽分少なく、故に冬季は結氷し航海杜絶すること多し。

南部には、西にイベリヤ、中央に伊太利、東はバルカンの三大半島あり、イベリヤ半島は大西洋と地中海との間に突出し、其の南端は亞弗利加に迫りて、ジブラルタル海峡によりて地中海の咽喉を扼す。伊太利半島は地中海の中部に長く突出し、其の南端に近くシシリー島、西方にサルデニア島あり。又バルカン半島はアドリヤ海を隔て、伊太利半島の東に位し、其の東南は小亞細亞半島に迫りて、地中海の一部なる多島海と黒海とを分つ。

○地中海は、面積約十五萬方里、その海水は大西洋の水よりも多量の鹽分を含む、スエズ運河の通航に依り、東西に通ずる時は、亞弗利加の南端を迂廻するに、比して、五千哩の短縮を見るを以て、商業上重要な水路なり。

斯の如く夥多の半島及び岬角とは其の附近に散在する島嶼と集りて、幾多の小灣内海を抱くを以て、海岸線の延長約九千五百里に及び、面積一方里につき百五十里の多きに達し、各大洲の首位を占む(亞細亞の部参照)。

山脈は本洲の西南部より南部にかけて多く、其の他の地方はスカンデナヴィヤ半島を除く外、全部殆ど廣き平野をなす。即ち大體より之を見れば、本洲の東部は平原にして、西南部は山地なり。山脈中其の脊骨となるべきものは、アルプ山脈にして、本洲西部の中央に略々東西に横たはり、脈中のモンブランは高さ凡そ一萬六千尺、本洲第一の高山なり、其の他一萬尺以上の山は、挿畫のマツテルホルン峰を始として、モンテローサ等多し。

圖五十六第



教科書挿畫はアルプ山脈中の一高峯たるマツテルホルンを示したるもの、山は瑞西の南境に聳え、山容の奇景を以て表はるゝものなり、山麓の帶狀を

なせるものは氷河の河道を示したるものなり。アルプ山脈の一派東北に延びて、カルパチヤ山脈となり、灣曲してバルカン山脈となり、他の一派は伊太利半島に入りてアペニン山脈となる。カルパチヤ山脈とアペニン山脈との間には、アドリヤ海に沿ふて、チナルアルプ山脈、ピンドス山脈あり。其の他本洲の東方亞細亞との境上に、ウラル山脈、北方スカンデナヴィヤ半島に同名の山脈、西方イベリヤ半島の境上にピレネー山脈あり、今本州南北の断面圖を示せば左の如し。

圖五十五第 西にルーキリヤ馬羣

圖六十六第



河流は、地勢上よりして西南部の山地を發源地とするもの、東部平原の中央高地に

發源するものと二大系統をなす。西南部の山地に發源するものには、ダニユープ河、ライン河、エルベ河、ロース河等を顯著なるものとす。

ダニユープ河は、アルプ山中に發し、洪牙利平原を流れ、東に折れてバルカン半島に入り、黒海に注ぐ、全長七百卅里、歐洲第二の長流なれども、水量の多きと水運の便と人文に影響する所甚大なる點より見れば、歐洲第一とすべし、故に多腦河の稱あり。ライン河は、アルプ山中に源を發し、瑞典のボーデン湖に入り、出で、獨逸に入り、和蘭を経て北海に注ぐ、全長三百四十里、流域には沃野平地を作りて水運灌漑に至大の便を與へ、氣候また溫和にして、風景に富み、或は葡萄園、歴々相連り、又は古城址點々相峙ちて、行客をしてその佳絶なると生産力の偉大なるとに驚かしむ。

エルベ河は、源をボヘミヤ(奥國の西北部)に發し、獨逸に出で有名なるハンブルグに至りて北海に注ぐ、全長凡そ三百五十里。

ロース河は、源をアルプ山中に發し、ジユエネープ湖に入り、更に山間の諸水を集め、再び湖を出で、佛蘭西に入り、有名なるリヨンの蠶業地を開きて地中海に注ぐ、全長凡そ二百五十里、水流急なるを以て水運の便以上の諸流に及ばず。

東部平原の中部に發する水系中著しきものをあげれば、ボルガ河を始めとして、ドビナ川、ドン河等露西亞の諸河あり。

ボルガ河は、歐洲第一の長流にして、全長八百八十里、餘、内地河中世界第一の大河なり、源を東部平原の中央バルダイ連丘に發し、南流して裏海に注ぐ、水流緩なるを以て運輸の便極めて多く、夏季は水源に至るまで舟楫を通ず、然れども冬季は結氷して楫と馬車とを通ず。

本洲に於ける湖沼の系統を見るに、第一ジユエネープ、ボータン等のアルプ山中の湖水。第二スカンヂナビヤ半島に於ける、氷河の作用によりて生じたる半島の諸湖。第三露西亞のラドガ、オネセ湖系の三つに分る。

○ラドガ湖、面積約千五十方里、歐洲最大湖。○オネガ湖、面積約五百四十六方里。

○ジユエネープ湖、面積約五十方里。○ボータン湖、面積約三十五方里。

三、氣候

本洲は大部分北温帯に位すれども、北方の一部は寒帯に入り、特に西半部は三方海にて圍まれ、西南の風、墨西哥灣流の上を吹き來るが故に、氣候温暖四季の變化の差

少なく、且雨量に富むを以て、概して良好なるに反し、東部は海洋の影響を受くること極めて少なく、廣大なる平原なるを以て、大陸性氣候を呈し、冬季は河海水結する状態なり。即ち教科書記載の如く、東西によりて大に氣候の趣を異にす。スカンヂナビヤ半島の西北岸の如きは、北方に偏すれども冬季氷結の虞なきは全く灣流の影響と見るべく、又本洲の西より東に至るに従ひ寒暑の差一般に増加して大陸的氣候を呈するは、一は海洋及灣流の影響を受けざると一は海洋及緯度の高さによるなり。

四、産業

本州は一般に土地よく開けて麥類、甜菜、葡萄等の農産物に富む、麥類は露西亞、獨逸、埃地利、洪牙利、佛蘭西等に多く、甜菜は獨逸を以て最とし、埃地利之に次ぐ、葡萄は佛蘭西を第一とし、伊太利、イベリヤ半島、獨逸等に多く産す。

麥類——小麦、大麦、燕麥、裸麥、ライ麥等を云ふ、

甜菜——砂糖の元料(獨逸の部参照)

牧畜も亦廣く行はれて牛、馬、羊、豚等を産するに多く、殊に牛は埃地利、洪牙利、露西亞、丁抹、和蘭等に盛に、馬は露西亞、埃地利、洪牙利等に著しく、羊、豚は英吉利、露西亞、丁抹

等に多し。

然れども是等の産物は、尙本洲の需用を充すに足らずして、他の大洲より其の供給を仰ぐこと甚だ大なり。これ一は人口の夥多なること、一は他洲に比して農産地にあらざることによる。故に北亞米利加洲の合衆國及び加奈陀、亞細亞洲の印度、大洋洲より日用食料品の供給を仰がざるべからざる状態なり。されど本洲は、鑛産に富み、殊に鐵及び石炭は其産頭甚だ多く至るところに採掘せらる。就中西部地方、獨逸、白耳義、英吉利に殊に多く、爲に商工業の大發展に甚大の影響を與へ、工業の旺盛なること、六大洲中第一なり。工業品は世界の重なる供給地となり、隨て商業も甚だ般盛を極む。

五、交通

各種の交通機關著しく發達し、陸には鐵道の敷設普くして線路恰も網の如く、其の密なること蜘蛛の巣に勝り、今や其の延長二十萬哩に達し、亞米利加大陸には及ばざれども面積の比較より見るときは各洲中第一なり。故にアルプ山脈の如き高峻なる山地にも鐵道を通じ、シンブロン、サンゴタルド、モンスニー等、數條の大トン

ネルを見るに至る。

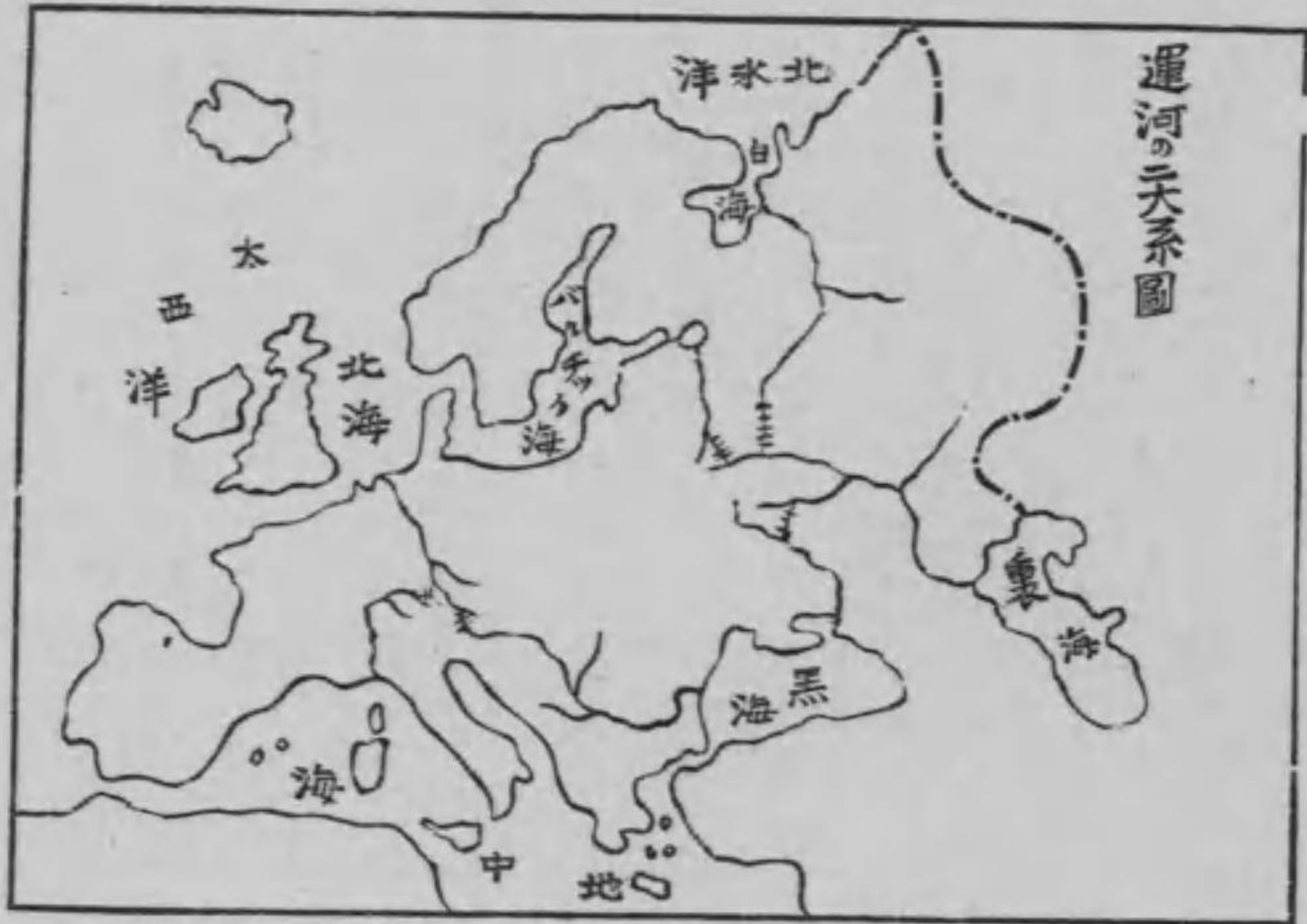
○サンゴタルド大トンネルは、全長凡そ九哩、世界第二にして、瑞西と伊太利との國境にあり、南歐と北歐の交通上必要なる鐵路なり。

○シンプロン大トンネルは、長さ約十二哩、我が國最長の管子墜道の四倍餘にして、實に世界第一に位す、海拔二千米のところにおいて、伊太利と佛蘭西鐵道系を連絡せしむ。

○モンスニーは全長七哩餘、佛蘭伊太利の交通上重要な鐵路中にあり。

河流は各國とも運河によりて相連絡し、交通の便を與ふること頗る大なり、就中西部に於ては、圖に示す如く、ダニユーブ河、ライン河、ロース河の如きは地中海と北海と黒海とを連絡し、物貨輸送上多大の便益を與ふ。東部に於ても、ボルガ河、ドニール河、ドン河、ネバ河の連絡せるものあるを以て、白海、北氷洋、裏海、黒海、バルチック海の交通は、水路のみによりて行ふことを得、これまた至大の便利を與ふ。海岸は、海岸線の發達に伴ひて良港多く、船舶の往來繁く、世界の大港としては、有名なるロンドン、ハンブルグ、ルアーブル、リバプール、マルセイユ等をあぐべし、汽船の總噸數

圖七十六第



三千四百萬噸以上にして、世界の八割を占む、交通の便利なる相像に足るべし。

六、住民

住民は其の數、四億、四千萬に及び、密度に於ては、六大洲中第一に位す。

歐羅巴洲一万里、七〇〇人

亞細亞洲一万里、三二〇人

南北亞米利加洲一万里、一一二人

亞弗利加洲一万里、七二人

大洋洲一万里、一〇人

人種は、其の大部は歐羅巴人種に屬し、普通これを三大別す、即ちチュートン族、ラテン族、スラブ族、これなり。其の

他東南部には、マジャル人、トルコ人あり、北部にはフィン人、ラップ人住す。これ等

は何れも亞細亞人種に屬するものなり。

○教科書挿畫の極北部の土人は、ラップ

人を示したるものにして、スカンデナ

ビヤ半島の北部に住す、身長低く漁獵

を職とし、馴鹿を唯一の財産とする土

人にして、目下三萬あり。

○チュートン族は、身體強健長大にして、

皮膚白く、髪は一般茶褐色を帯び波狀

を呈し、虹彩は、綠色頭大にして額廣く、

性忍耐にして研究心に富み、着實にし

て實業に熱心なり。其の數一億二三

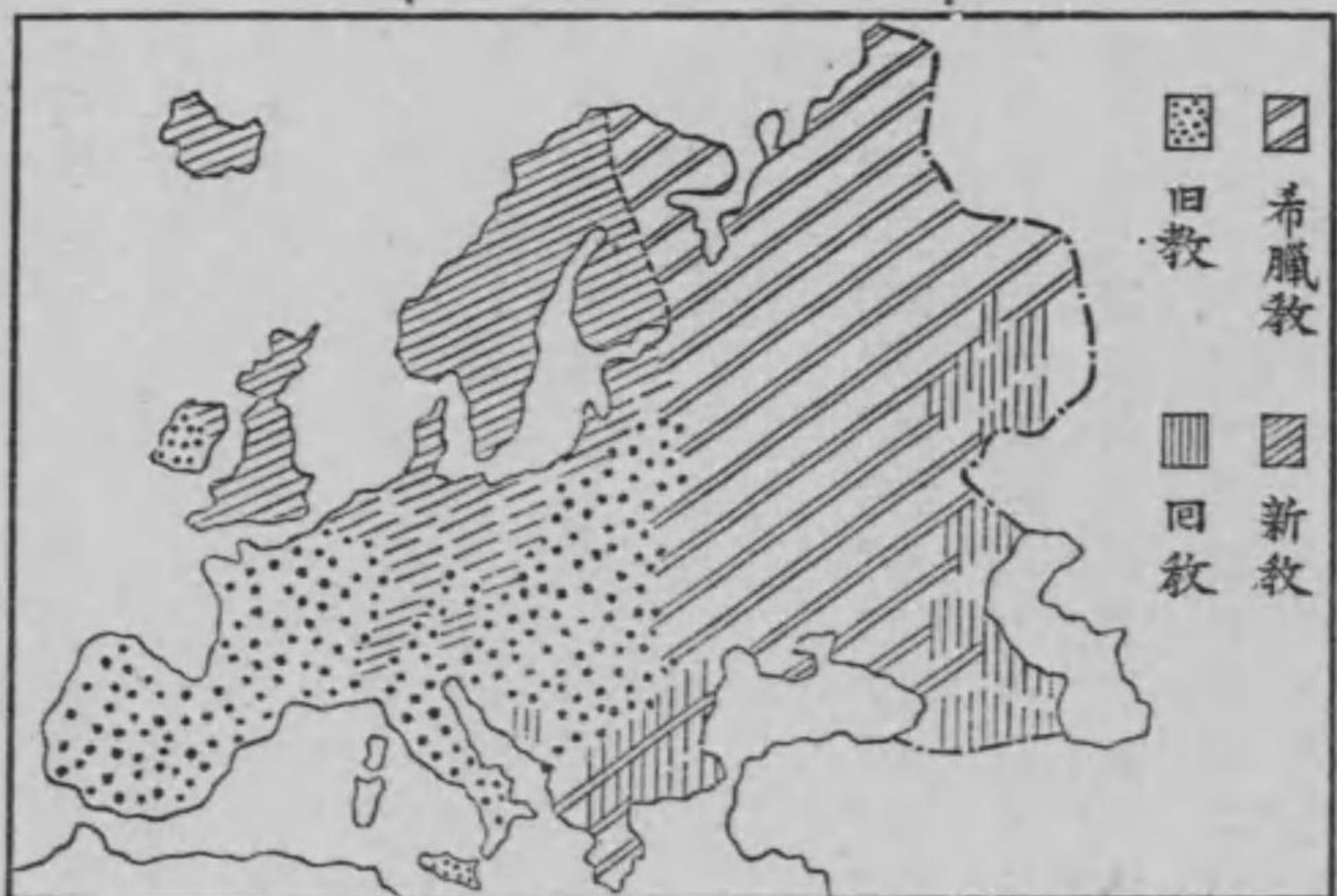
千萬に達す。

○ラテン族は、其の數一億一千萬餘、體格

圖八十六第



圖九十六第
圖 布 分 教 宗



以上の人種の分布は第六十九圖に示すが如し。

中等毛髮稍々黒色を帯ぶ、虹彩も黒色を呈するもの多く、皮膚は稍々褐色、性輕快にして、美術心に富み、中には佛蘭西人の如き發明心に秀づるものあり。

○スラブ族は、一億三千萬、白面金髮碧眼殊に鬚髯多し、性勇敢なれども幼稚なり。然れども將來發展の見込みあり。

○トルコ人は、土耳其にマジャル人は、洪牙利に、フィン人はフィンランド地方(露西亞)に住す、これ等は其の總數約二千六百萬以上あり。

これ等の人種の奉ずる宗教は、主として基督教にして、歐洲の大部に擴かる、されどもバルカン半島地方及び露西亞の東方には、マホメット教を信するもの少なからず、基督教は希臘教、舊教、新教の三大派に分れ、希臘教はスラブ族、舊教はラテン族、新教はチュートン族に多く信奉せらる。其の分布の狀況前圖の如し

○マホメット教を信するものは主として土耳其なり

又本洲は教育一般に普及し、學術技藝の研究盛にして、殊に獨逸、英吉利、佛蘭西は世界學藝の叢林として名高く、これ本洲の六大洲中文明の最も進歩せる所以の一なり。

七、區分

本洲には、大小の獨立國甚だ多く、其の數二十餘に達す、東部に露亞西あり、其の西に接して獨逸及び埃地利、洪牙利あり、西部には佛蘭西、英吉利の二國、南部には伊太利あり、いづれも國勢盛にして、歐羅巴の六大強國と稱せらる。これ等の六大強國と、我が國との間には互に大使館の交換あり、其の他スカンデナヴィヤ半島は瑞典、挪威の二國に分れ、北海沿岸には和蘭、白耳義の二國相並び、北海とバルチック海の間

には丁抹、アルプ山中には瑞西あり、又イベリヤ半島は西班牙、葡萄牙の二國に分れ、バルカン半島には土耳其、希臘等あり、右の中我が國より公使館を置く國は瑞典、和蘭、白耳義、西班牙等にして、他は兼管なり。次に本洲の諸國は皆立憲政體にして、又佛蘭西、瑞西、葡萄牙の共和國を除きては皆君主國たり、又以上の諸國中、英吉利、佛蘭西、露西亞、獨逸、和蘭、白耳義等は他洲に廣き領土を有す、その詳細は各國地理の場合に譲らん。

八、注意事項

- 1、本洲の地勢を授くるには、山脈、河流につき注意すべきは勿論、特に海岸線の發達に注意して、本洲の文明に至大の關係あることを知らしむべし。
- 2、又地勢自ら二大部に分るゝよりして、産業氣候に差異を見ることを注意すべし。
- 3、氣候は大部分温帶に屬すれども、北部地方緯度の高きところにおいて、割合に温暖なる地方あるは、全く大西洋の墨西哥灣流の影響することを知らしむべし。
- 4、本洲の産業に就ては、農牧盛なりと雖、尙本洲は商工業地なることに留意すべし。
- 5、交通に至りては、水陸共に自然に打勝てる人力の甚大なることに想起せしむべし。

- し。
- 6、本洲の文明を人種の上より見て、ラテン族よりチユイトン族に移り行けることを授け、更に將來の如何を卜知せしむることも面白かるべし。
- 7、本洲の區分斯の如く複雑なるは歴史的關係多しと雖、尙地勢の影響するところ尠なからざること注意せしむべし。
- 8、本洲の諸強國は他の大洲に廣大なる殖民地を有し、今や世界は白人の世界たる觀を呈するを注意して、既習の亞細亞の狀態と比較對照せしむることを忘るべからず。
- 9、尙地理の各項につき既習の教材と比較關係せしむべき點は教授の際其の機を失はず相連絡して教授することに注意すべし。
- 10、最後に總論の小概括をなすことを忘るべからず。

第二節 露西亞

第一、要旨

露西亞の面積、人口、地勢、産業、都邑、沿革等の大要を授けて國勢の一斑を察せしめ、且つ本邦と關係する點につき知らしむ。

第二、區分 凡そ三時間

- 第一時 面積、人口、地勢、産業
- 第二時 都邑、沿革及び概括

第三、教辨物 地勢圖、本國及び領土比較圖、物産分布圖、物産圖、都會圖等

第四、教授材料

一、位置、面積、人口

露西亞は、歐羅巴洲の東北部を占め、面積約三十四萬方里にして本洲の二分の一以上の廣さを有す、其の領土を合したる全面積は我が國の凡三十三倍に當り、全陸地の六分の一を占有することゝなる。普通亞細亞露西亞を併せて露西亞帝國を形成す。人口凡そ一億二千八百萬人、歐羅巴全人口の三割を占むれども、その密度は一方里凡そ三百人にして、我が國の五分の一に満たず、人種は頗る複雑を極め之を大別す

第十七圖



るも尙二十餘種に及ぶ、其の中最も多數なるはスラブ族にして、總數の六割六分に當る、其の他西南地方に土耳其人、西方に猶太人、東北及び北方に蒙古人、フィン人、ラツプ人等住す。

一、地勢

地勢は、東方にウラル山脈、南方に高加索山脈の高地あるのみにて、他は一般に茫々際涯なき大平原をなせども、中部には略々東西に亘りて、稍々高きバルダイ連丘あり、高さ平均三百五十餘米に過ぎざれども、本國河流の中央分水界をなす。

河流の重なるものは、源を此の連丘に發し、一は南に、一は北に、一は西北に向つて緩かに流る。

圖一十七第



南流するもの、著名なるものは、裏海に注ぐボルガ河、黒海に注ぐドン河、ドニープ

ル河にして、北流するものはドビナ河、最も大にして、白海に入る、西北流するものは、ネバ河、チウナ河、ありてバルヤツク海に注ぐ、以上の諸河は何れも水量に富み、流れ緩漫なるが故に殆ど上流まで航進することを得べく、爲に水運の便頗る大なり、海岸は三方海に面すれども、その延長は僅に二千三百里にして、然かもこの中、一千里は北氷洋に面し、一年の三分の二は氷に閉ざされ、五百里はバルヤツク海に面して、半ヶ年は凍結し、他は黒海に面すれども、他國の爲に咽喉を扼せられ、海面の利、用意の如くならざるは露西亞帝國版圖の大欠點にして、本國が或は北通を圖り、或は南下を講じ、或は東洋にその銳鋒を向くるは、自然の要求に基くところにして、内國に於ては、銳意河川の利用を努め、諸川の上流に運河を設けて、相連絡し、(總論參照)水路航進の利便を計るも、理ありといふべし。

三、産業

この國は地勢上より、農業國に適當するを以て、古來農業を以て國本とし、住民の九割は農業を營み、實に本州第一の農業國なり、たゞ北氷洋に沿へる地方は、氣候寒冷にして、西比利亞よる連續せる凍原帯なれば、地不毛にして、動植物甚だ少なけれど

も、其の南は森林帯をなし、針葉樹多く繁茂し、木材を出す、更に其の南には黒土帯と

圖二十七第

圖布分産物國露



稱して、過去の植物腐敗して黒土と化し、肥沃の地を成し、七十年間も一の肥料も施さずして作物實るといふ地ありて、農業牧畜甚だ盛なり、故に人稱して露國の穀倉と言ひ、其の面積五萬方里に及ぶ。

農産物中最多きは、麥類及び麻にして、麥は小麥、ライ麥、燕麥、大

麥裸麥等悉く産せざるはなく、其の中大麥裸麥は世界第一の産額、小麥は亞米利加合衆國に次いで世界第二なり、一年八千萬石、ライ麥は即ち黒麥にして本國人の常食、黒パンの原料なるが主として、黒土帯の北方平原に産す。麻は、大麻及び亞麻を主とし、共に世界第一なり、中、亞麻は平原の西部に産し、大麻は

麥燕圖三十七第



圖四十七第



皮は黒し故に黒麥と云ふ、粉にして黒パンの原料とす、又酒も造る。

ライ麥(黒麥)

西南部に多く小麥と共にこの國重要輸出品たり、牧畜は黒土帯より草原地方に盛にして牛、馬、羊等飼養せらる、牛は三千四百萬頭、馬は二千三百萬頭、羊は四千三百萬頭を有す、中、馬は其の頭數に於て世界の首位を占む。

礦物はウラル山脈地方に金、白金等の貴金屬及び鐵等を産す、白金は山脈の東斜面より出で、其の産額一年五千三百一十噸に達し、世界第一なり。

○白金は色銀に似て白し、金屬中最も重く、又最も溶解難し、時計側或は化學工業用に使用せられ、其の價金より貴し。

商業中、内地商業は一定の期を定めて市場を開き、諸方の物産を取引する風習あり、

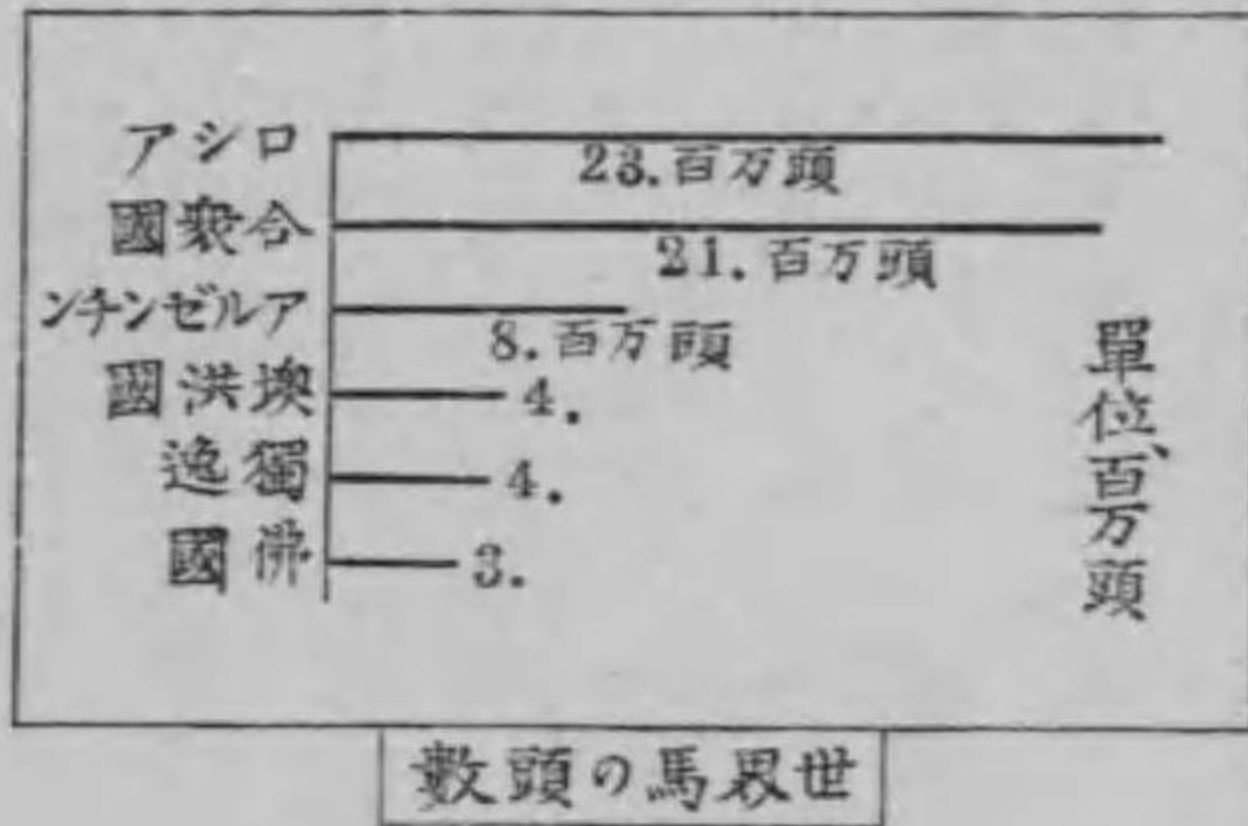
その中心と目すべきはニジノブゴロドにして、一年に夏一回大市場を開く、其の時

時は歐羅巴、亞細亞の商人群集して非常なる盛況を呈す、其の取引高三億圓に及ぶといふ、外國貿易は獨逸、英吉利との間に盛に行はれ、輸出品の重なるものは穀物材木、麻、輸入品の重なるものは綿器械、羊毛等にして、其の取引地は北に於ては彼得堡、南に於てはオデッサなりとす。年總額十二億圓以上に及ぶ。我が國との取引は、生糸、書籍、雜誌を輸入して、板紙、パタ、更紗等を輸出す、年取引高二百萬圓に達す。

四、都邑

○彼得堡は露西亞の首府にして、バルチック海の東灣、フィンランド灣に臨み、ネバ河に誘る、今より二百年前ペテロ大帝の創立せし都にして、人口百九十萬、バルチック海沿岸の門戸なるが故にこの國貿易の北方に於ける大中心地にして我が國大使館あり。

圖五十七第



圖六十七第



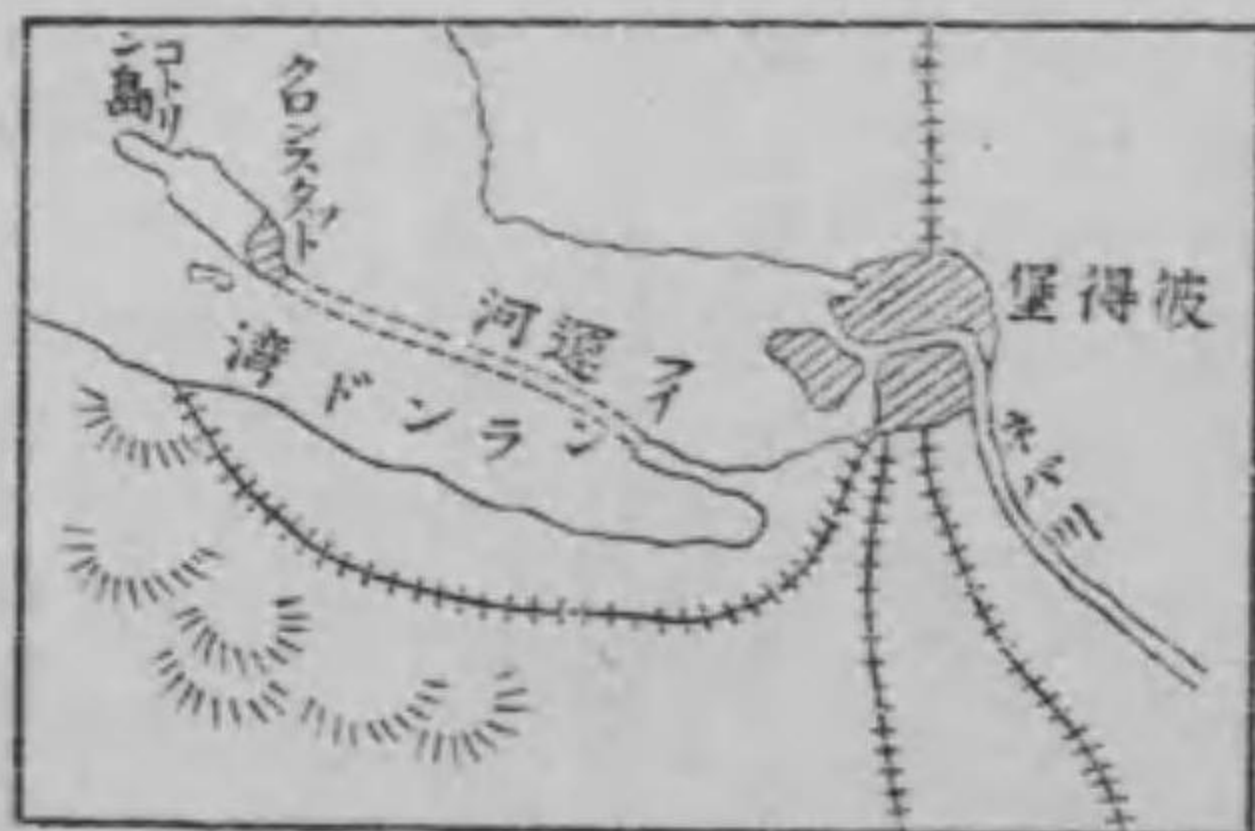
てバルチック艦隊の根據地として有名なり、彼得堡との間は海淺く、大船巨艦の通航に堪へざるを以て、海底運河を開鑿しこれを補ふ。

○モスコフは、略、國の中央に位し此の國の舊都にしてクレムリンの宮殿は高く聳え、今尙露帝の戴冠式はこ

○教科書挿畫の市街は、最も繁盛なるネフスキー街の一部にして、建築宏壯なるが前面に長く突き出でたる雪排けを有すること、窓はすべて二重窓なることは寒地都會の一特質を備ふ。

○クロンスタットは、フィンランド灣上の一小島にある軍港にして

圖七十七第



モスコー市とクレムリン王宮



の處にて行はる、この國内地商業の大中心にして又工業の中心地なり、數條の大鐵道は此處に集り内地交通の要路に當る、人口百六十萬餘我が國の總領事館あり。

○オデッサは黒海に臨める良港にして、黒土帶の農産物を控へ、麥類の輸出甚だ多く、南部貿易の一大中心地をなし、此の國第一の貿易港なり、従つて義勇艦隊はこの地に根據を置き東洋との間に盛に航通す、人口五十四萬我が國の領事館あり。

○セバストポールはクリミア半島の南端にあり、黒海艦隊の根據地にして大なる造船所あり。

五、沿革

此の國は歐羅巴洲に於ては新開國の一にして、今より四百年前にありては、蒙古人に臣服せしが、凡そ二百年前第十七世紀の末葉にペートル大帝出で、大いに革新を圖り、爲に其の形勢全く一變し、近隣を征し、遠國を従へ、遂に中央亞細亞を略し、進んで西比利亞を奪ひ、都をモスコーより彼得堡に移し、西歐諸國と相伍するに至れり、其の後國勢益隆盛に越き、地を四方に開き、遂に現今の如く世界の、一強國として、歐羅巴、亞細亞の兩大洲に亘り、廣大なる版圖を有し、曾つて日清戰役後三國干渉を企圖して遼東半島を租借し、平時に於ては百二十萬戰時に於ては四百萬の陸軍を養成し、五十萬噸の海軍を以て日露の戰役を起したるも、我が國の大勝利に歸し、以て平和の局を結ぶに至れり。

六、注意事項

- 1、面積廣大なれども人口比較的小なるは地不毛氣候嚴寒の地方あるによることを注意せしむべし。
- 2、人種についてはスラブ人が忍耐持久の精神に富み且つ今幼年期にあることを知らしめて將來の發展著しきものあるべきを推知せしむべし。

- 3、地勢については中央バルダイの連丘を中心として北南西の三方に傾斜せることを授け、水系との關係を明察せしむべし、
- 4、本國が海面の利用不充分なるを以て極力河川の利用に努むることに注意せしむべし、
- 5、氣候は詳説せざれども地勢、産業、交通に及ぼせる影響大なることを留意せしむべし、
- 6、産業については地勢上農業國なることに注意せしめて歐羅巴諸國との食料品に於ける關係を注意せしむべし、
- 7、我が國との關係に於ては貿易上の關係は僅少なれども國際上の關係極めて密接なることに説き及び日露の開戦は兩國膨脹發展の結果なることを注意せしめ殊に露國の地理上の關係より起りたることに留意せしむべし、
- 8、第二時間目の最後に全體の概括をなして本國に對する概括せる觀念を把持せしむべし、

第三節 瑞典諾威丁抹

第一、要旨

瑞典諾威丁抹の位置、面積、人口、地勢、産業都邑につき其の概要を授けその國勢を知らしむ。

第二、區分 凡そ一時間

第三、教辨物 地勢圖、峽灣圖及繪畫、都會圖及寫真等

第四、教授材料

甲、瑞典諾威

一、位置、面積、人口

瑞典諾威は歐羅巴洲の西北部スカンデナビヤ半島の地域を占む、面積約五萬方里、人口七百八十萬餘あり(瑞典五百四十萬人、諾威二百四十萬人)

二、地勢

瑞典諾威は半島の脊梁をなせるスカンデナビヤ山脈を境として相背けり、この山

脈は一般に高原性なれども、山脈の西側に向つては傾斜急にして東側は緩なり、即ち瑞典に於ては、山脈と海との間に平地多く、其の間に數多の小流殆ど並行してバルチック海に注ぐ。

第七十九圖 地勢圖



これに反して諾威に於ては、山脈海岸に迫りて絶壁をなす、然れども氷海の爲に生せし峽灣多きを以て、出入に富み、船舶の要地となれるところ少なからず。

峽灣の大なるものは、五十里以上内地に侵入し其兩岸は絶壁にして高さ五千尺位のものあり其形狀第八十一圖に示せるが如く鋸齒狀、樹枝狀をなす。灣内の水深は三千尺に達するものありといふ。教科書挿畫は諸威のロフオデン諸島中の峽灣を

第十八圖



示せるものにして漁船の群集せる様を示す。

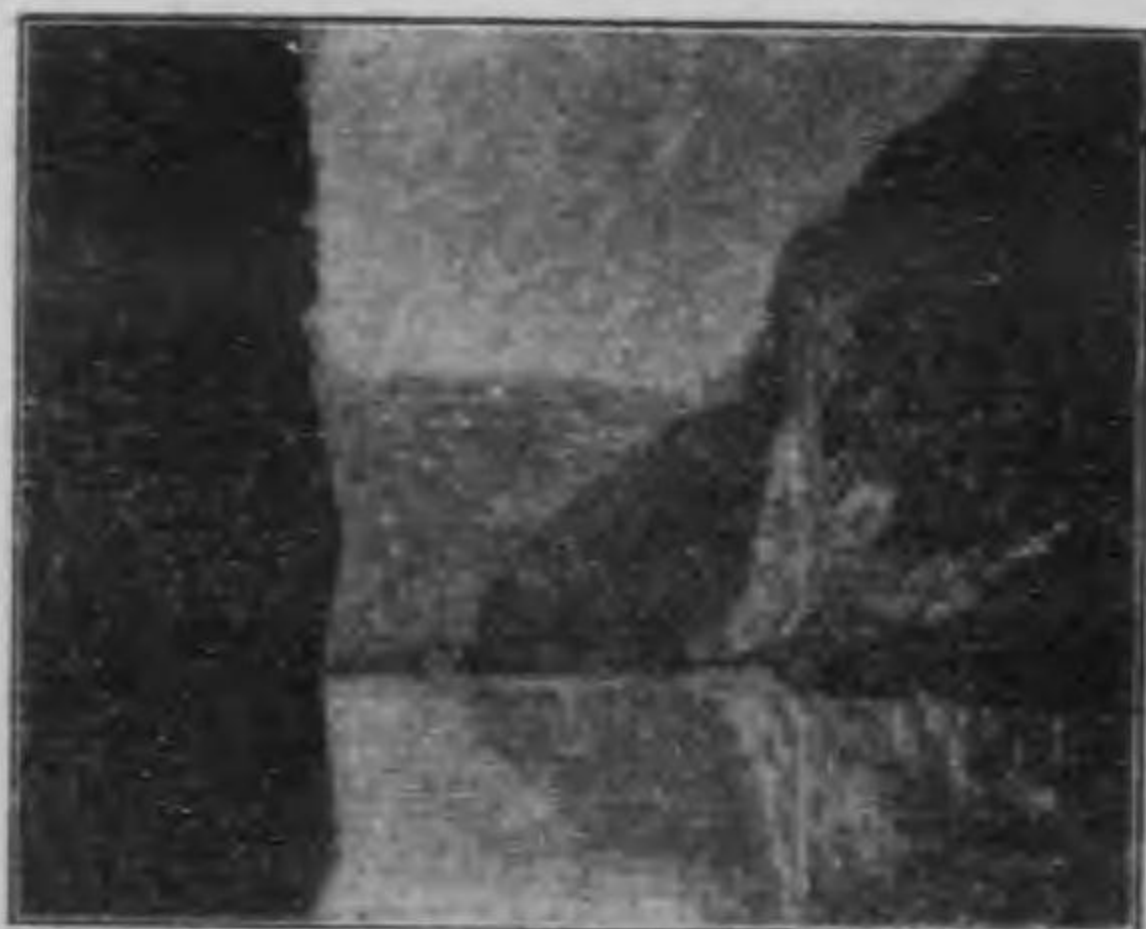
三、産業

半島の近海は暖流の影響を蒙り、漁業甚だ盛にして殊に諾威海岸の如きは世界三大漁場の一と稱せらるゝ程なれば、水産業は國民第一の生業なり、種類は鱈、鱈、鯖、鯉等多く殊にロ

フオデン諸島の鱈、西南岸の鱈は世界に其の比なくこれ等の漁獲物は西南岸のベルゲン港に集り然る後他國に輸送せらる。水産業に次いで盛なるは林業にして瑞典に於ては陸地の過半は森林に覆はれ諾威に於ては二割五分の地を占む。故に歐洲市場の木材の過半は半島の輸出にかゝる。其の全産額二億六千萬圓に達す。

四、都邑

第十八圖



○ ストックホルムは、瑞典の首府にして、バルチック海の沿岸七箇の島上に跨れり。

近く右に見ゆる入江はフアーゲン湾、左方に入り込めるはフツア峡湾

港ンゲルベ 圖二十八



人口三十二萬この國海軍の根據地にして又開港場なり、露國との取引盛に行はる。我が國公使館あり。

○ 輸出品は木材、鐵、輸入品は小麥及食料品

○ クリスチャニヤは、諾威の首府にして、ストックホルムと共に南方バルチック海に臨む、人口二十三萬貿易甚だ盛なり、木材水産物の輸出多く、食料品バタの輸入多し。

○ ハンメルフェストは、諾威の北方北緯七十度四十分の地にあり、世界最北の都會として其の名を知らる人口三千五百人。一年中夏季三ヶ月に涉りて五月十三日より七月二十九日迄大陽の没することなく冬季三ヶ月の間

は十一月二十一日より一月十日まで又日光を見るを得ず。

乙、丁抹

一、位置

丁抹はユトランド半島の北部、及附近の島嶼より成り、スカンデナビヤ半島と相對してバルチック海の門戸をなす。

○ 附近の島嶼の重なるものはシエルランド、フイーエン、ラーランド、等百五十有餘の島々なり、

面積二千六百万方里にして、我が九州位に過ぎざれども、アイスランドを加ふれば、九千三百万方里餘となる、人口二百七十萬歐洲に於ては國勢振はざる國の一なり。

二、地勢、産業

國內概ね低平にして、海岸地方は沙丘相連り沼澤多し。土地の八割餘は生産地にして、農業牧畜盛に行はれ牛酪の輸出甚だ多し、この國の富源ともいふべきは、肥沃の牧場と漁業にあるを以て、バタ、卵、豚肉及び水産物の輸出甚だ多し、輸入品は綿布毛布金屬類の工業品なり。

三、都邑

○コペンハーゲンは、丁抹の首府にして、シエルランド島とアマゲル島とに跨り、人口五十一萬この國第一の大都會にして、バルチック海出入の要地たるを以て軍

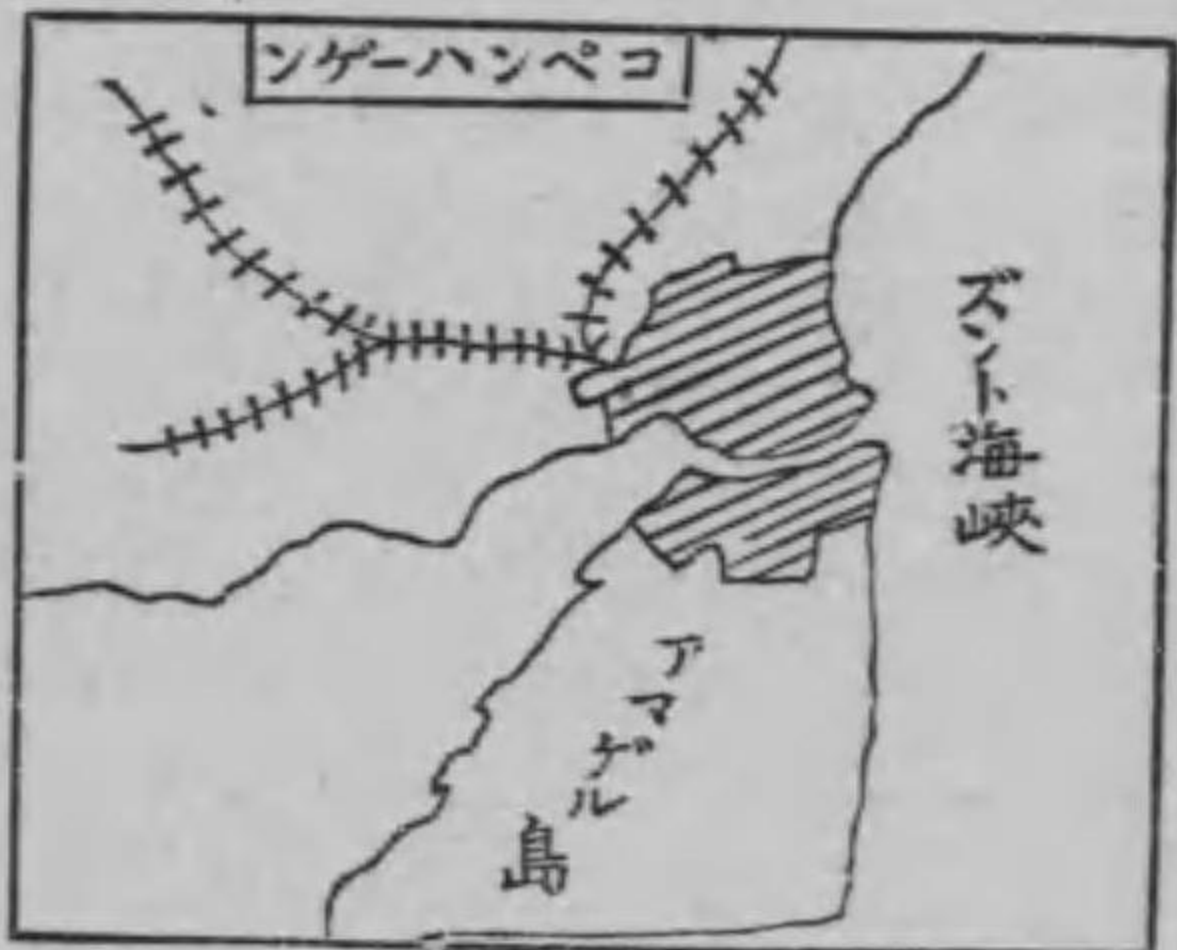
港を置く、手袋などの製造盛にして又造船所あり。

○アイスランド島は、大西洋の北部にありてこの國に屬す、面積本國の二倍より大なり、島中に百餘の火山あり、就中有名なるはヘクラの大火山にして、更に此の火山を去る西北二十里のところ有名なる大間歇泉あり。

大間歇泉は口径一間半の噴出口より高さ十五間乃至二十五間まで熱水を噴出せしむ、其の狀實に凄壯を極む。

本島に住する住民は、チユートン族に屬するノルマン人にして、本島の西岸地方に多く、島中にライキヤピクといふ都會あり。

第三十八圖



丙、注意事項

- 1、瑞典丁抹は西暦一千五百二十三年迄は同一國なりしが同年、瑞典分離して一王國を建設し一千八百十五年、諾威之に加はりて同一の君主を戴きしが、我が明治三十八年に至り分離して各一王國となる、故に人種、言語、風俗とも同一系統に屬することなども最後の概括の際に知らしむるも興味多かるべし。
- 2、諾威の漁業、瑞典の林業等兩國の特長として知らしめ、更に瑞典の體育及教育の普及せることに注意せしむるも可なり。
- 3、間歇泉は我が國熱海陸前の鬼首等と連絡して教授すべし。
- 4、諾威は漁業の盛なるよりして、商船の噸數甚だ多く、世界第四位に位すること及び海事思想旺盛なることをも注意すべし(商船噸數は英國の部参照)
- 5、最後に一概してまとまりたる觀念を得しむべし。

第四節 獨逸

第一、要旨

獨逸の位置、面積、人口、地勢、産業、都邑、沿革等につき其の大要を授けて同國の國勢發展の次第を知らしめ、且つ我が國と關係せる點を知らしむ。

第二、區分 凡二時間

第一時 位置、面積、人口、地勢、産業

第二時 都邑、沿革、及概括

第三、教辨物

地勢圖、本國と領地比較圖、產物統計圖、天產分布圖、都邑圖、運河圖、寫真等

第四、教授材料

一、位置、面積、人口

獨逸は歐羅巴の略々中央に在りて、その位置數多の國に隣接し、中にも露西亞、埃地利、洪牙利、佛蘭西の三強國と境を接するを以て國際上の關係常に複雑を極む。面積凡そ三萬五千方里、我が國の約八割に當れども、殖民地を合すれば二十萬五千方里となり、我が國の五倍大となる、人口は凡そ六千五百萬ありて我が國より少なけ

圖四十八第



れども、其の密度に至りては我が國より大なり、一年の増加數は八十五萬人に上るといふ。

二、地勢

南部はアルプ山脈の支脈たるボヘミヤ森林、シユワルツ森林、フオーゲセン山脈、エルツ山脈、ステート山脈連互して高地をなし、中央ハルツ山脈に連る、これより北部は歐羅巴平原の一部にして、通常これを北獨逸平原といひ、この國の生産地帯をなせども、北部バルチック海岸の地は沙嘴河丘澤湖など多く、地味肥沃ならざるところあり。
河流は地形に従ひ概ね北流して海に注ぐ、北海に入るものはライン、ワエーゼル、エルベの三大河とす、バルチック海系に屬するもの

圖勢地 圖五十八第

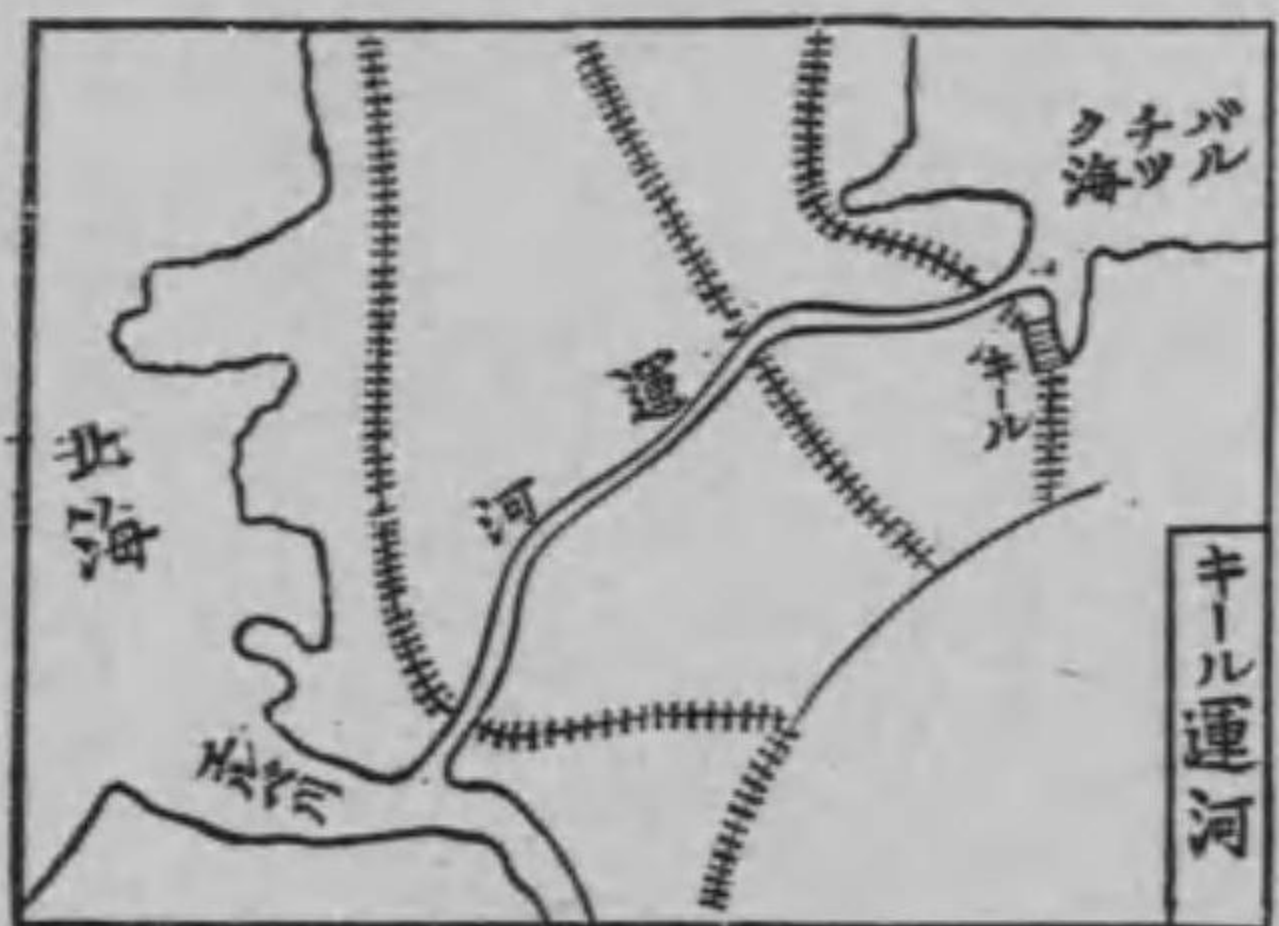


はオーデル、ウキヌツラ河にして南流するものにダニユープ河あり、これ等の河は何れも水量多く、運河によりて互に相通じ、ライン、ダニユープの如きは北海と黒海とを連絡する水路として重要なことは前に述べたるが如し、エルベ、河の如きは、ハンブルク以下六十哩の間大洋航海の大汽船の航行に適す。

キール運河はバルチック海と北海との交通を助くること甚だ大なり。

○而して此運河は、カイゼルウイヘルム運河とも云ひ、長さ廿四里、幅二百十三呎、深さ二十九呎あり、獨逸はこの開鑿に八ヶ年の歳月を費し、七千八百萬圓の費用を投じたるものなるが、獨逸に取りては、軍事上ウイヘルムハーフェン軍港とキール軍港とを連絡し、貿易上に於ては、バルチック海と北海との連絡上丁抹半島の迂廻をさけ、航程二日程を短縮する便利を與ふ。

圖六十八第

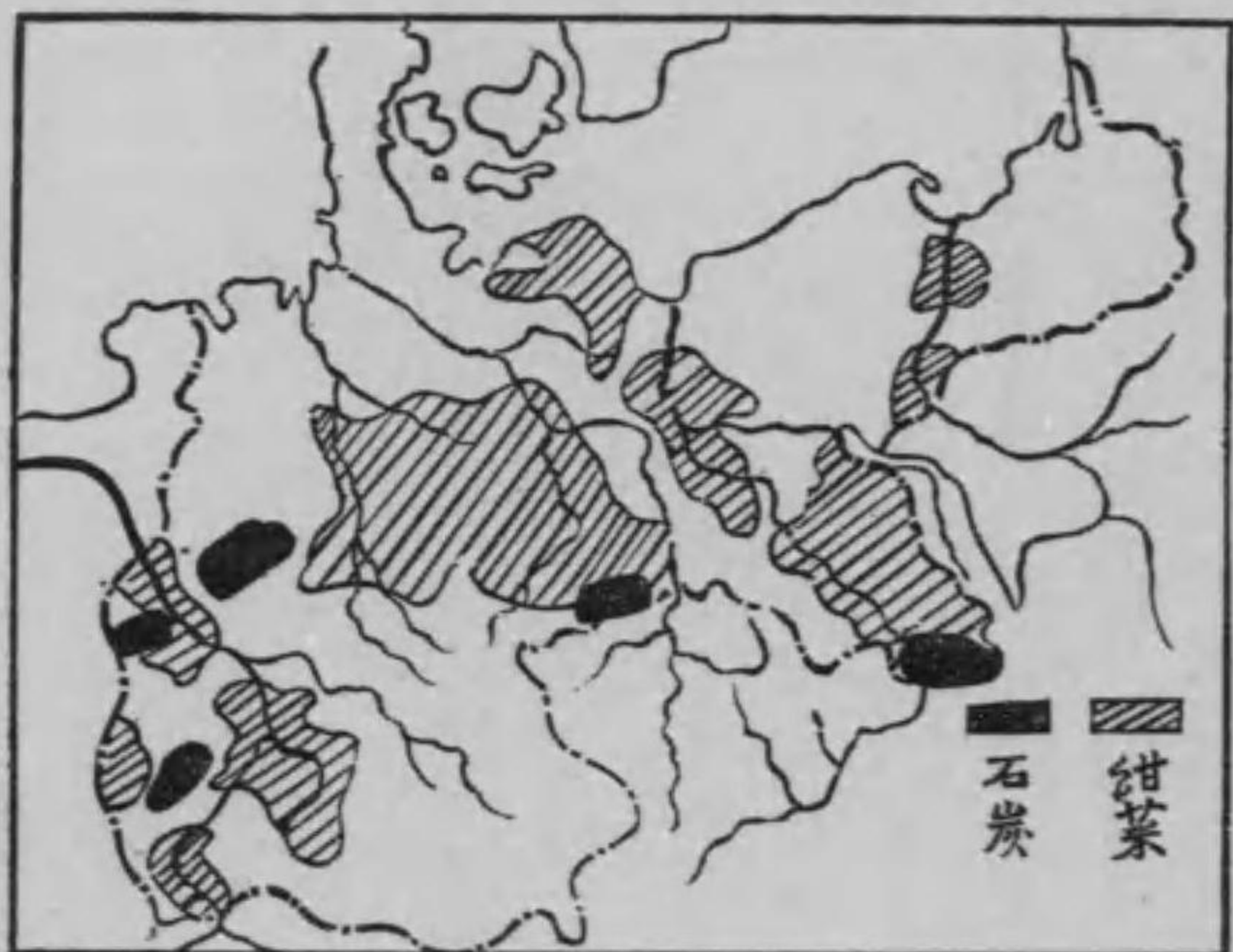


鐵道の總延長三萬六千五百里にして歐洲第二の哩數を有す、されば交通は水陸共に利便の多き察するに足るべし。

獨逸の甜菜及石炭の産地

氣温は南北に於て著しき差を見ざれども、西南より東北に赴くに從つて、氣温次第に低く、バルチック海岸は冬季氷結を見るに至る、内部は大陸的にして伯林の如きは年平均二度九にして我が國の盛岡に相當す、たゞライン河畔及北海沿岸に温暖なる地方を有す、之を要するに氣候は緯度の割合には寒く、同緯度の英吉利に比すれば不良なり。

圖七十八第



三、産業

産業は頗る發達して諸種の産物に富めり、國民の三分の一は農に従ひ、不生産地

圖八十八第



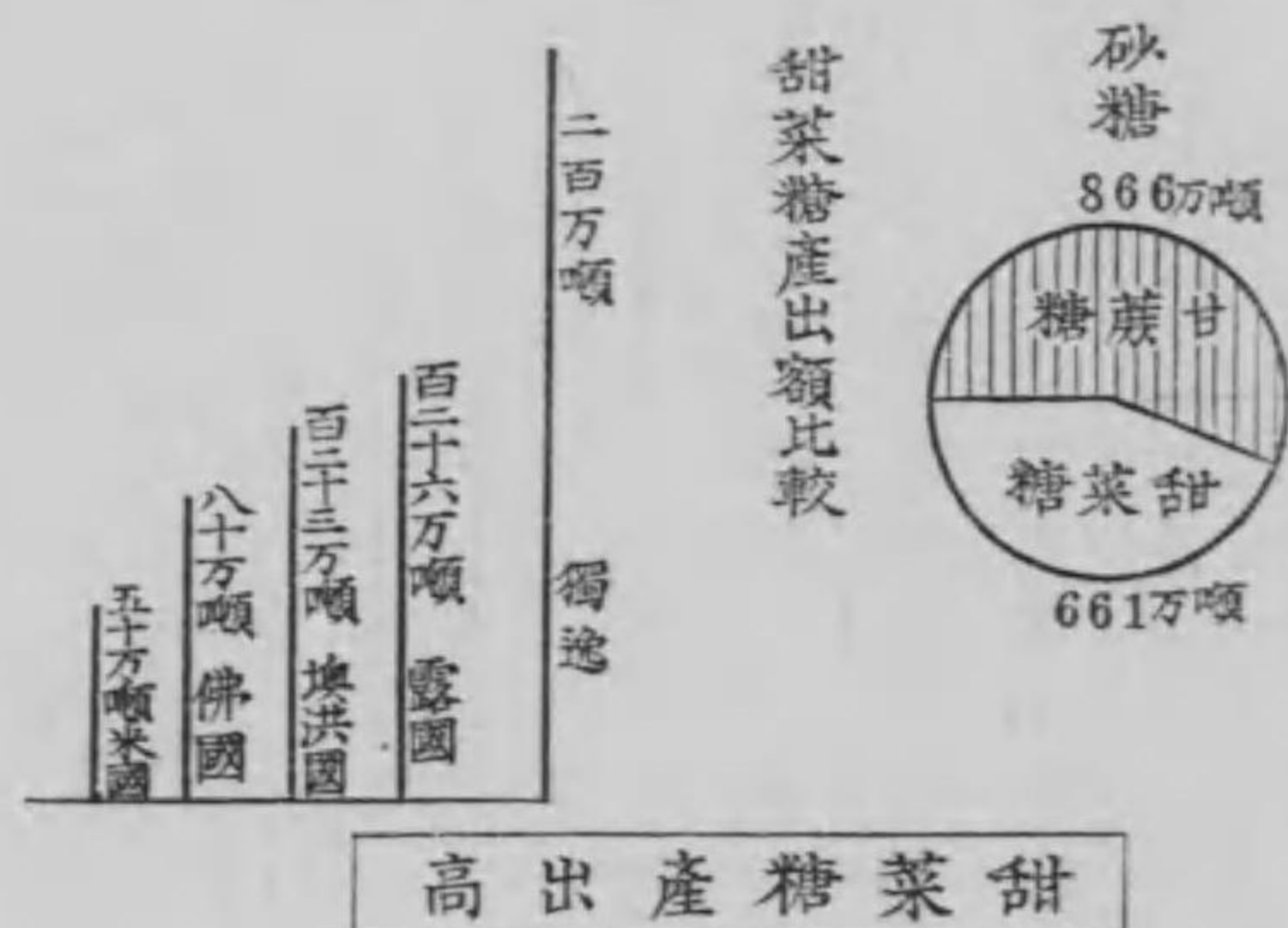
として盛に醸造せらる。

林業は學理の應用盛なるにより大いに進歩し、一定の面積の森林より得る收益は我が國の三十倍乃至五十倍と計算せられ、年額一億三千三百萬圓の多きに昇り世界其他に比すべきものなし。

礦産物はその種類甚だ多く、中にも鐵、石炭、亞鉛の産出は世界屈指の巨額に上れり。即ち鐵は年額二千六百萬噸餘にして合衆國に次ぎ石炭は二億二千萬噸にして世

は全國の一割に過ぎざれば、農産物甚だ多く麥類、馬鈴薯、甜菜、葡萄などは廣く各地に栽培せらる。馬鈴薯の如きは年額四百三十萬噸に達し、世界第一にしてこの國に於ては貧者のパンと稱せらる。甜菜は圖に示せる如く各地に産すれども就中エルベ河中流域はその中心地なり。葡萄はライン河畔に多く、白葡萄酒

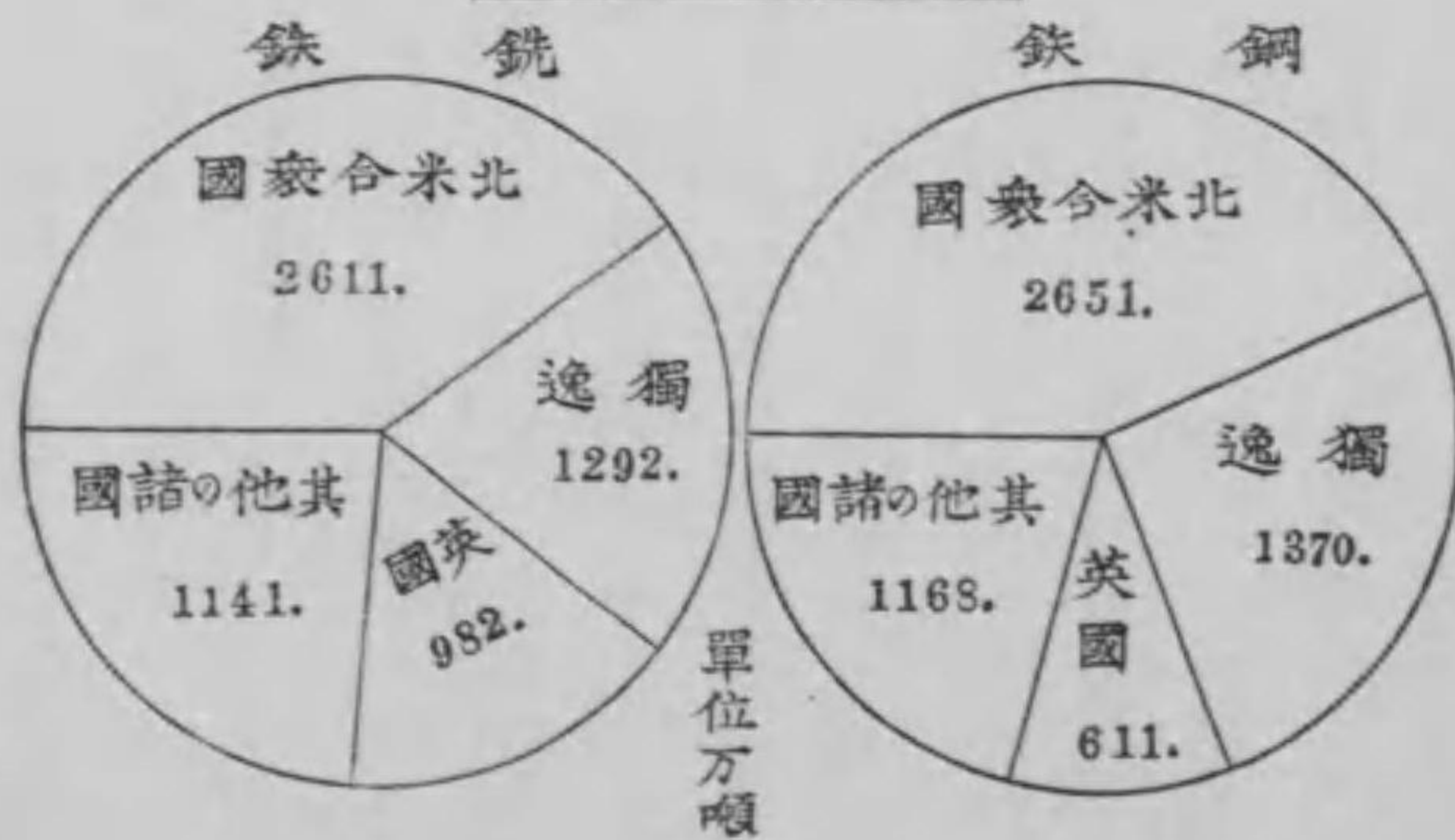
圖九十八第



總ての産業中本國に於て最も盛なるは工業にして、殊に近年科學を應用するに至りて、一層の盛大を極め、世界各國の驚嘆するところなり、麥

圖十九第

額產の鉄界世



界第三にあり、亞鉛の産額も亦世界第一なり、

其の他の

礦産物を

合算する

時は年八

億五百萬

圓の巨額

に及ぶ。

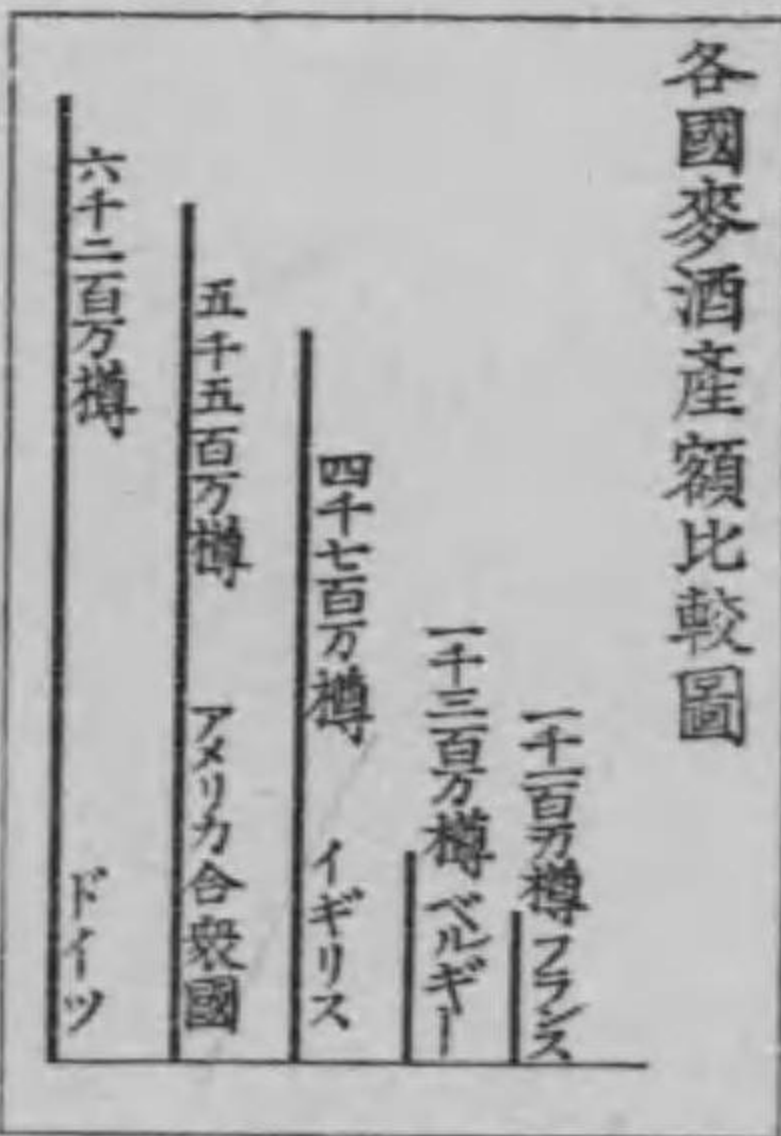
其の富源

大なりと

いふべし。

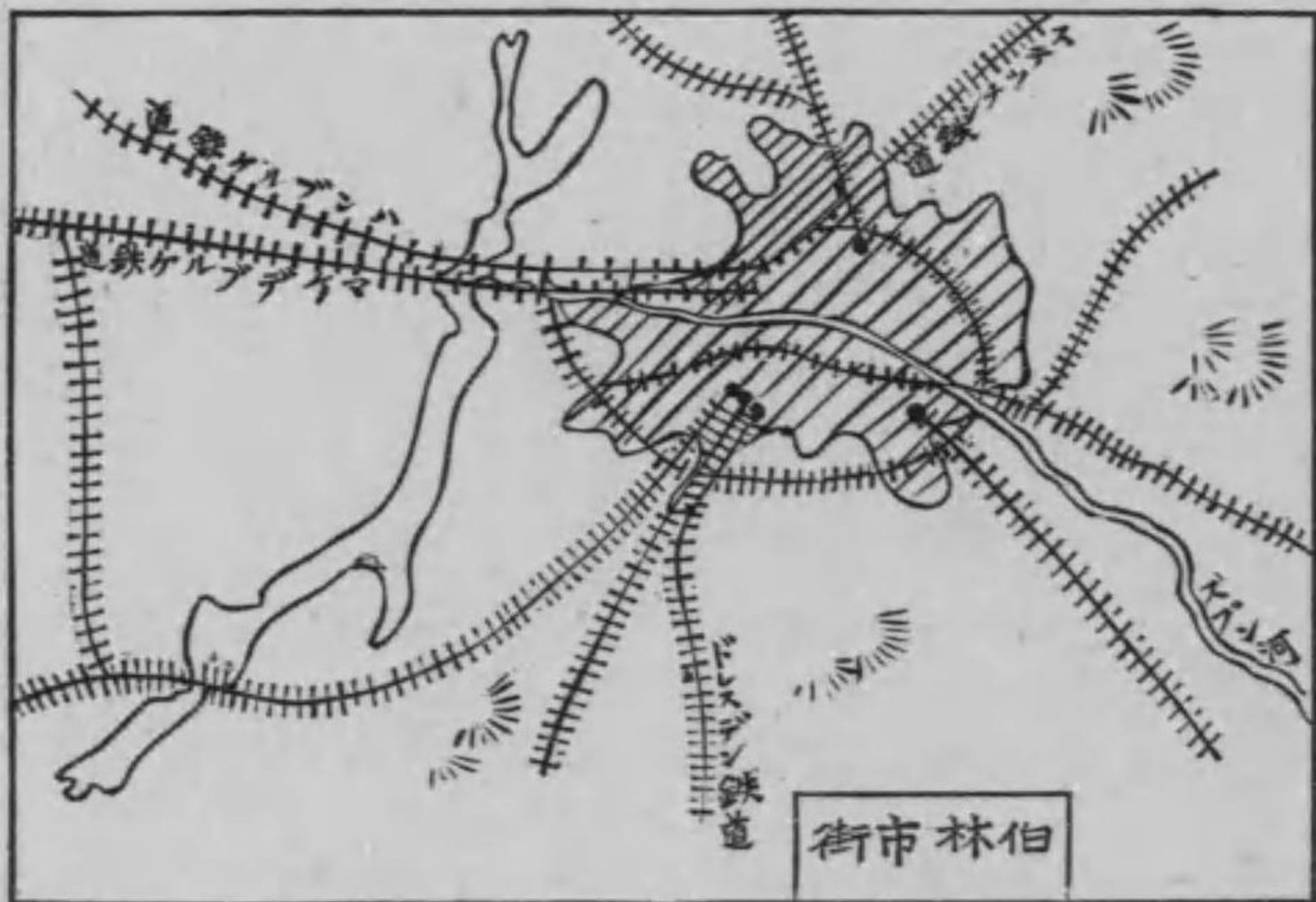
酒の醸造は世界第一、鐵製品は世界第二なり、砂糖の製造も亦世に覇を争ふに至れり、其の他毛布綿布麻布などの織物業も甚だ盛なり、更に工業中その特色とも見るべきは、化學工業品にして、人造染料、炭酸加里、硝石、綠礬等の製造品を始めとしてあらゆる化學工業の産出を見るべく、其の發達實に驚く程にて、年額七億五千萬圓の多額に上り、品質に於て製造高に於て他に競争者なき狀況なり。

圖一十九第 各國麥酒產額比較圖



如斯産業の發達は、大いに外國貿易の進歩を促し、輸出入總額の多きこと英國に次ぎて年九十億圓に達し、世界第二位に居り、我が國の八倍餘に當る。輸出品の重なるものは鐵材、鐵製品、綿織物、毛織物、化學工業品にして輸入品の重なるものは綿羊毛、麥類等にして英吉利、北亞米利加合衆國、埃地利、洪牙利、露西亞との貿易甚だ盛なり、我が國との貿易も近時漸く盛にして、主として鐵材及鐵製品、染料、ア、ニ、リ、ン、染料、毛糸、人造藍等を我に輸出し、其の額四千萬圓餘にして、輸入品は羽二重、銅魚油、眞田、樟腦等にして八百萬圓に達す。

圖二十九第

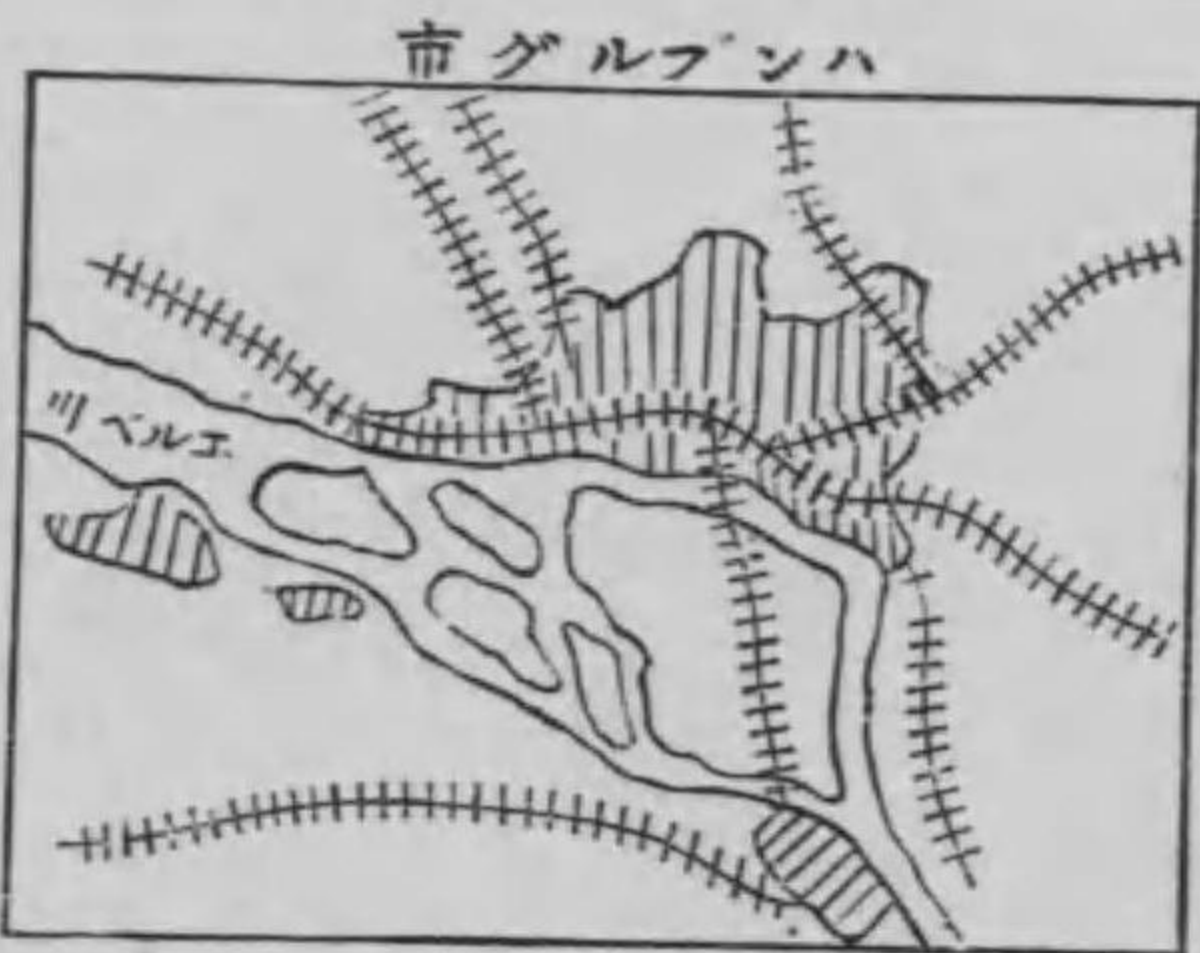


今本國の産業について考ふるに、地勢より見て、地味肥沃なるにあらず、氣候また他國に比して良好なるにあらず、天産物も、礦物もその一部を除く外、豊富なりと稱するを得ず、然るに農業に於ても、林業に於ても、殊に工業に於て著しき大發展をなせるは、これ畢竟國人の努力にありといふべく、彼等が學理の研究心に富み且つ其の應用に孜孜吸々たる結果なりと言はざるべからず、即ち獨逸科學的研究の秩序的發達及獨逸國民の産業上に對する實際問題の研究の適用に依るものといふべし。

四、都邑

○首府伯林は、國の中央に位し、エルベ河の支統スプリー河に跨り、人口凡そ二百十萬餘、世界第六位にして、世界學術の淵藪と稱せられ、有名なる伯林大學あり、且こ

圖三十九第

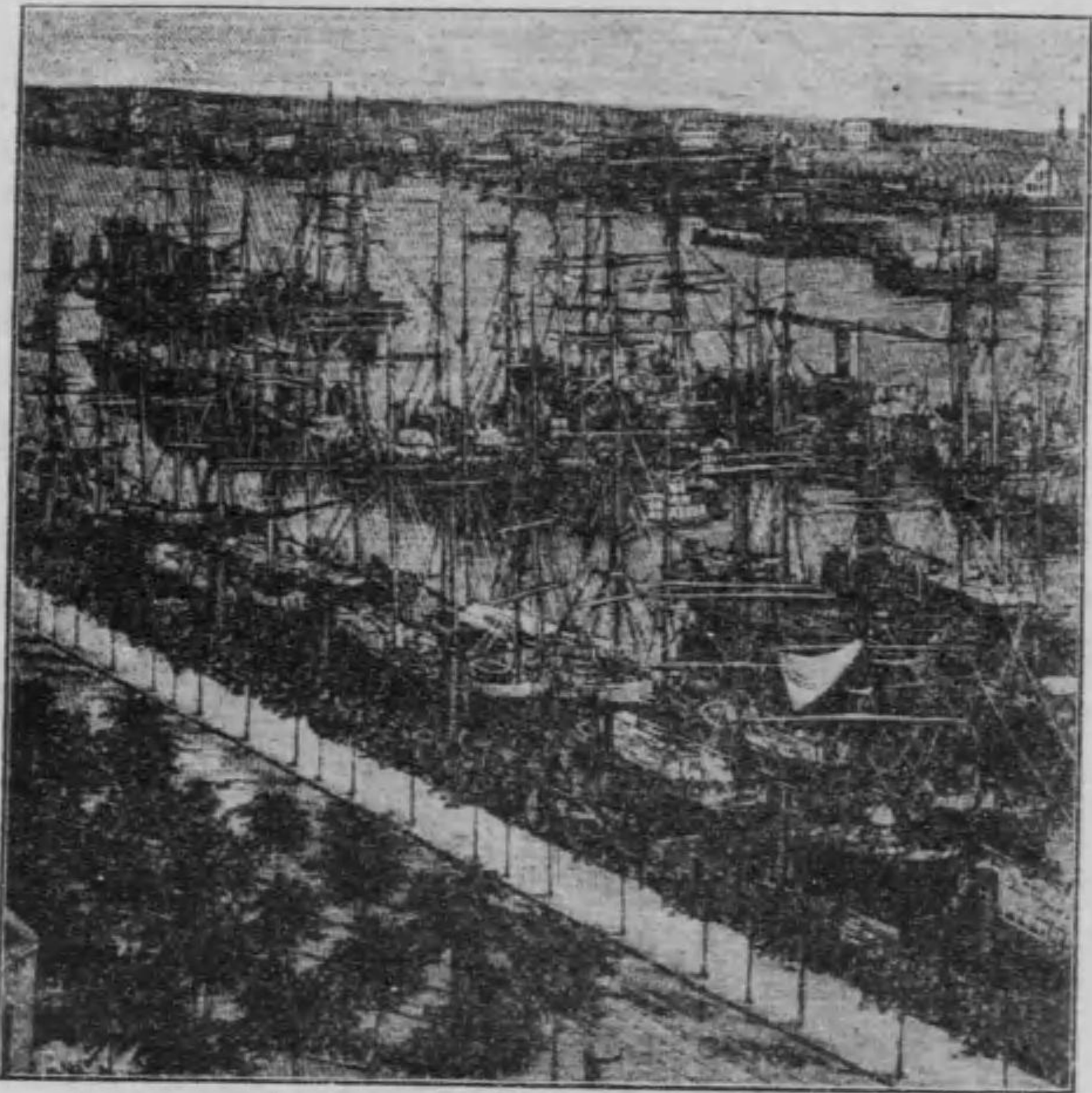


論、世界第一のハンブルク、亞米利加汽船會社の根據地を、此處に置く、船舶の輻湊帆檣林立の狀第九十五圖を見て知るべし。

の國に於ける商業の一大中心なり、教科書の挿畫に見ゆる銅像は建國の祖フリードリヒ大王の像なり、尋常小學讀本卷十二第十六歐羅巴の三大都參照

○ハンブルグは、エルベ河の下流に臨み、人口八十萬の大都會にして、世界屈指の貿易港なり、即ち獨逸の輸出入の四割三分は三十七億九千萬圓、この地にて取引せられ、倫敦、紐育に次ぎ我が横濱、神戸の十倍に當る、さればこの國第一の貿易港たるは勿

圖四十九第 漢堡の帆檣林立



らるゝは、獨逸に於ける出版業の中心なるにあり、人口五十萬。

○ドレスデンは、風景秀麗の地にして、且つ美術工藝品によりて其の名を知らるゝ、殊に有名なるは本市より産出する陶器なり、人口五十二萬、サクソンニヤ王國の首府なり。

○西北にライプチヒあり、學術上の一中心地にして、その大學は有名なり、エルベ河の支流に跨り、南北獨逸交通の要路に當れり、然れども本市の世人に廣く知

○ミュンヘンは、ダニューブ河の支流に跨り、南部の重要な都會にして、芳香、美味なる麥酒の醸造を以て、天下に鳴り、大學は柏林、ライプチヒと共にこの國に於ける三大學の一にして、學生の多きこと、柏林に次ぐ、人口五十四萬。

五、沿革

獨逸は四王國、六大公國、五公國、七侯國、三自由市、一帝國領の廿六の聯邦より成り、聯邦の一なる普魯西の國王兼ねて皇帝たり、普魯西には今より四十餘年前、ウイヘルム一世、ビスマルク、モルトケの三傑出で、政治、兵制を改良し、西曆千八百六十六年には、埃國と戦ひて之を破り、獨逸聯邦より驅逐し、千八百七十年には、佛國を破りて、茲に獨逸帝國を建設し、ウイヘルム一世は推されて獨逸皇帝の位に登れり。これより國威大いに振ひ、内には教育の普及を計り、學術の進歩を奨励し、大學教育を盛にして、其の數今や廿一の多きに及び、世界學術の淵藪地をなせり、隨つて他國より留學生として來り學ぶ者多し、商工業の發達は、海陸の軍備の擴張と相俟ちて、外に廣き領地を獲得し、世界強國の隨一に數へらるゝに至れり。

○陸軍は常備兵六十萬餘、戦時は百八十萬となり、露西亞に次ぐ。

○海軍は八十五萬噸、英國に次ぐ。

六、注意事項

- 1、獨逸の位置に注意し、常に國際上の要衝に立つは全く位置より來ることを知らしむべし。
- 2、地勢については高低と河流との關係に注意し、且つ河流の利用、運河と發達は陸上の鐵路と相俟ちて交通の至便を來たせし、所以を知らしめ、同時に人力の自然征服に對する活例として數へしむべし。
- 3、産業については最も重を置きて、教授し、本國が自然の恩惠、少なきに拘はらず、非常の進歩發達をなせるは、全く人力の然らしむるところなるを了解せしめ、且つ反省せしむるところあるべし。
- 4、沿革については聯邦國の如何なるものなるかを知らしむべし。
- 5、我が國との關係は貿易の外、教育、學術、陸軍に於ては從來指導者たりしことを知らしめ、且つ國民として將來覺悟せしむるところあるべし。
- 6、第二時の終りに全體を一括すべし。

第五節 奧地利 洪牙利

第一、要旨

奧地利 洪牙利の位置、面積、人口、地勢、産業都邑、沿革等につき其の大要を授け以てその國勢の如何を知らしめ且つ我が國と關係せる點を知らしむ。

第二、區分 凡一時間

第三、教辨物 地勢圖、鐵門圖、市街圖、人種分布圖等

一、位置、面積、人口

奧地利帝國と洪牙利王國との二國は聯合して、奧地利帝にして洪牙利王なる同一の君主を戴き、獨逸と共に歐羅巴の中部に位し、西南は僅にアドリヤ海に臨み、他は多くの國に接し、其の境界線の延長一千八百里、山脈の蜿蜒たるありて、天然自然の良境界をなす。面積は四萬四千方里我が國に比すれば稍々大なれども、人口は凡そ四千七百萬餘にして、我が國に及ばざること、遠し。

二、地勢

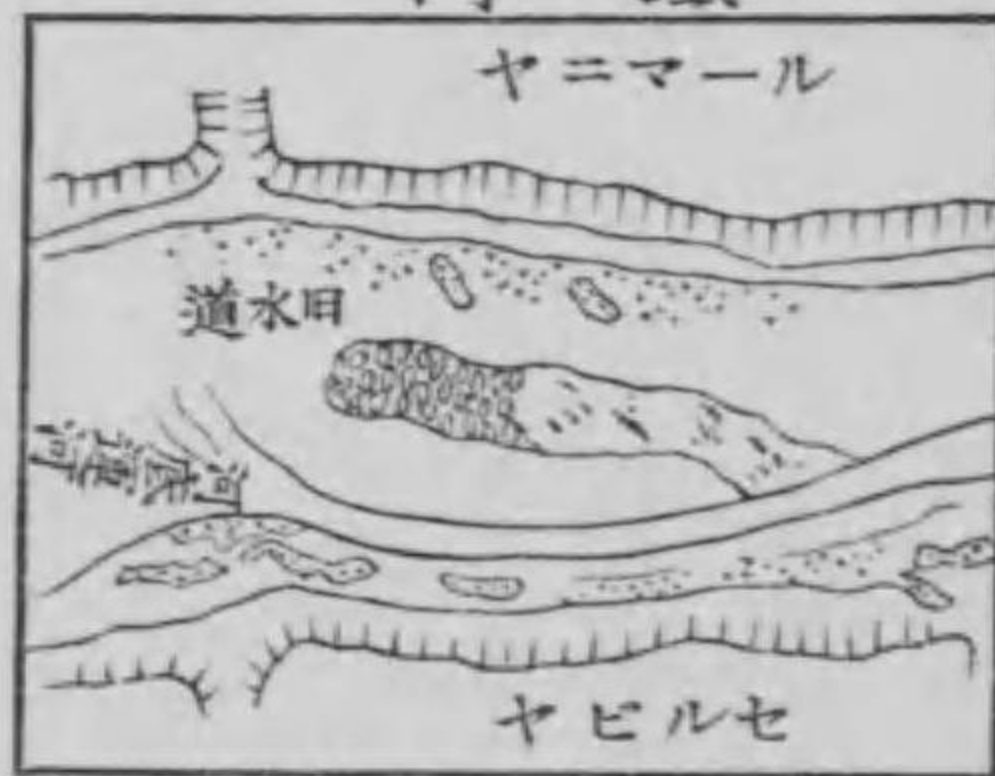
地勢甚だ複雑を極め、西北方はボヘミア、盆地をなし西方にはアルプ山脈ありて山

高く谷深き風景絶佳のチロル山間も此の中にあり、其の支脈チナルアルプ山脈は海岸に沿ふて東南に走り後バルカン半島に入りてビンド

第九十五圖 地勢圖



第九十六圖 鐵門



第九十七圖



ス山脈となる、國の東部にはカルパチヤ山脈ありて弓形をなし、東北にはガリチヤ平原ありて、東南には洪牙利平原を抱く。洪牙利平原は廣さ六千方里餘一名プヌターと稱せ

られダニエーブ河は數多の支流を合せて平原を濕しこの國の大動脈となり交通の便を助くること甚だ大なり。其の支流を合すれば小蒸汽船を通ずる間千里に及びこの國を出て、バルカン半島に入るところは所謂鐵門と稱せられ、曾つては河中暗礁多く河淺くして船舶を通ずること困難なりしが、今は其の間に運河を開鑿して船舶の上下に差支なからしむ。(前圖參照)

三、産業

産業は重に農業、牧畜にして國民のこれに従事するもの六割に及ぶ。重なる産物は麥類、葡萄、牛、馬等にして、洪牙利平原は牧畜を以て名高し。牛は一千六百萬頭、馬は四百萬頭、羊は一千萬頭を有し殊に洪牙利平原の馬は良馬の稱あり。挿畫の圖は平原の牧場を示し、右方は牛群にして角長きを以て特長とす。左方は馬、最左方は羊群なり。平原の所々に散在する撥釣瓶は、畜類の飲料に供する爲のものにしてこの平原の乾燥せるによりかゝる方法を取れるなり。

○麥類は、洪牙利平原の一部ガリチャ平原に多く洪牙利麥の名は其の品質良好なる點に於て歐洲の市場に聲價あり。

○葡萄は、洪牙利南部諸洲の比較的氣候溫暖なる地方に産す。

○農産物の總額は年三十二億圓と計算せらる。

工業は、埃地利及ボヘミヤに盛にして、織物、酒類、砂糖、ガラス等を重なるものとす。

外國貿易は十九億五千萬圓に達し取引は海上貿易よりも陸上貿易旺盛にして獨逸、伊太利、露亞等の間に行はる、これ全く國の位置、地勢の影響するところなり。

重要輸出品、砂糖、卵、牛、木材、ガラス、織物等。

重要輸入品、綿花、石炭、羊毛、器械等。

我が國との貿易は年僅に四百萬圓に過ぎず。故に其の關係厚しといふべからず、重なる取引品左の如し。

輸出、模造日本紙、毛糸、麥芽等

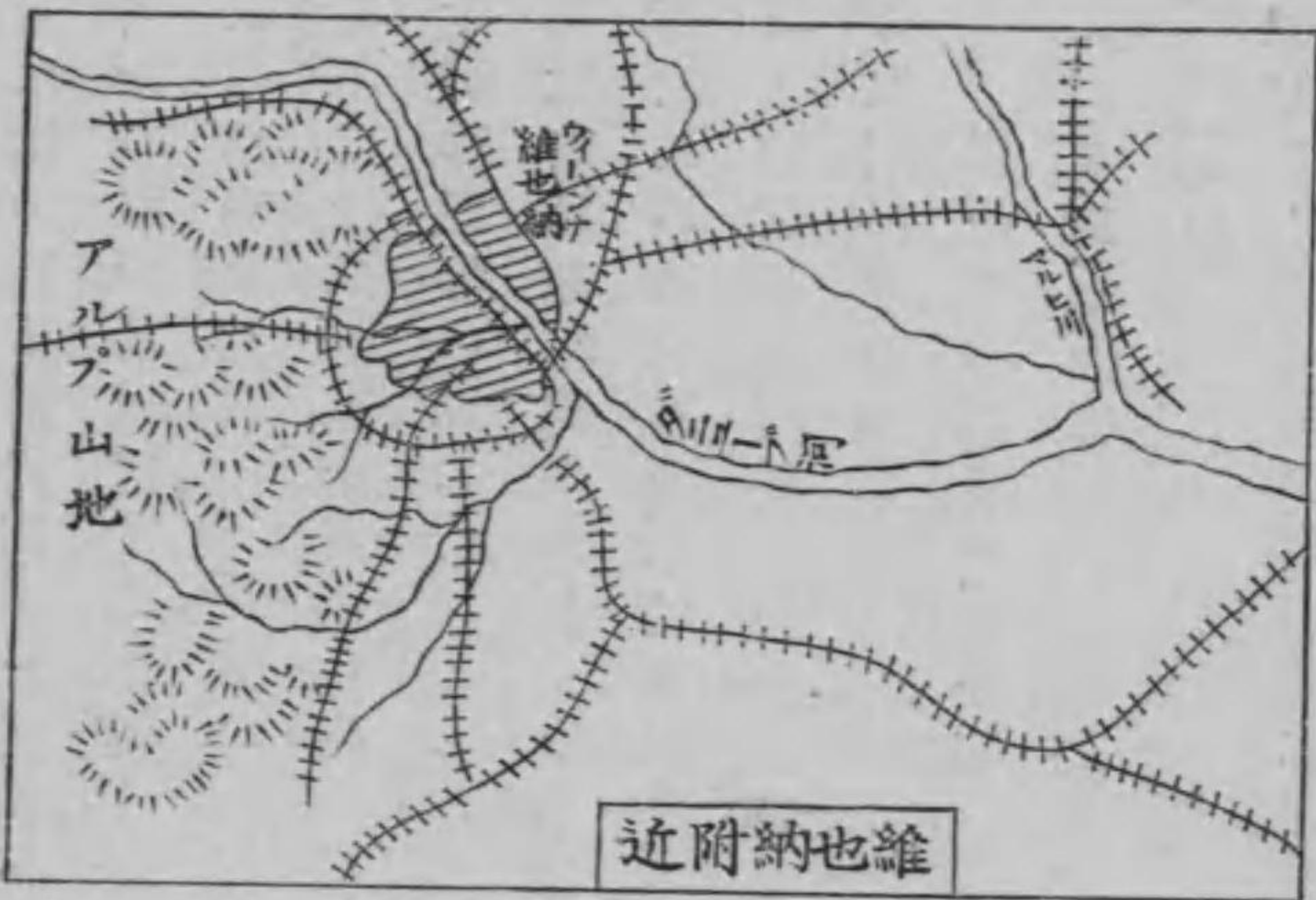
輸入、米、銅、魚油等

四、都邑

○維也納はダニエーブ河の右岸に沿ひ、埃地利の首府にして同時に埃地利洪牙利の首府なり。人口二百十萬市街甚だ壯麗なり、水路の交通と云ひ鐵道の便と言

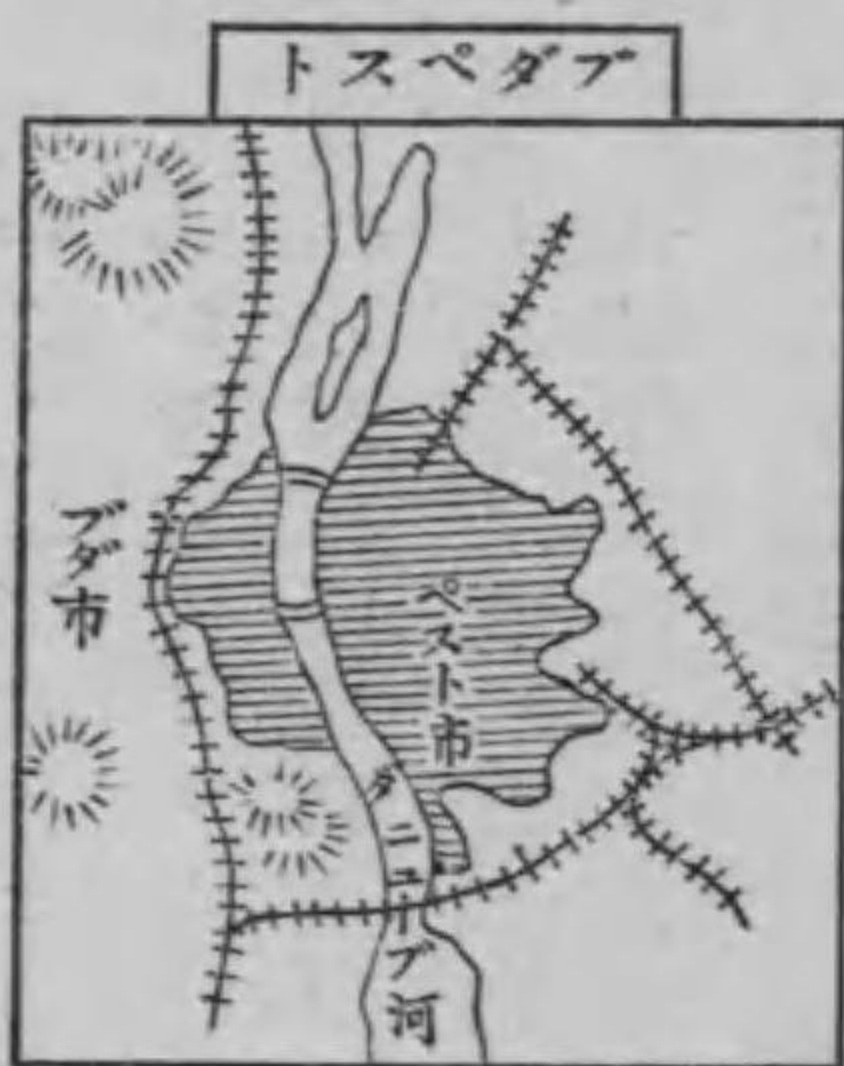
ひ、遺憾なく發達し東歐より西歐に至るにも、南歐より北歐に至るにも、此地を經

圖八十九第



過せざる可らざるなり、即ち四通八達之地と云ふべく世界第七の都會にして、我が國の大使館名譽領事館あり、有名なる大學は醫科を以て世に聞ゆ、産物としては磁器、革類、鐵器、生糸等を重なる者とす。
○ トリエストは、アドリア海岸にありてこの國第一の貿易港なり、人口廿一萬其の造船所は有名なり、埃地利ロイド會社の根據地にして我國の名譽領事を置けり、
○ ブダペストは、洪牙利の首府にして、ダニユープ河に跨り二個の市街より成る、そのブダは河の右岸にあり、王宮官衙の所在地にして主としてチエートン人の市

圖九十九第



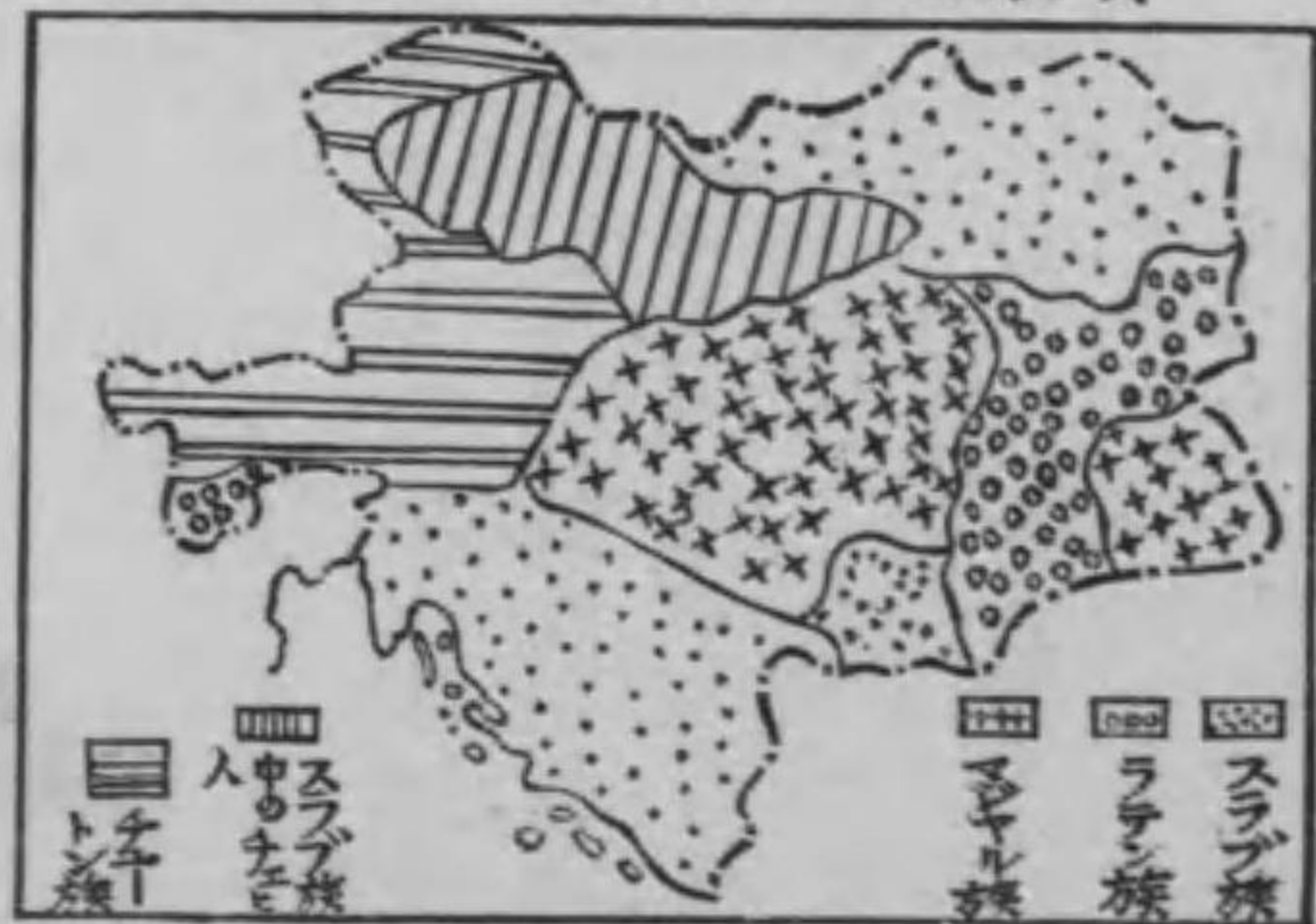
街なるが、左岸のベストは主としてマジヤール人の(洪牙利人)都にして商業盛なり。この二者の間は長さ二百九間なる歐羅巴第一の釣橋にて連絡す、人口七十三萬餘、洪牙利平原の中心市場にして製粉、醸造業甚だ盛なり、我が名譽領事館あり。

五、沿革

埃地利は十九世紀以前までは獨逸聯邦の盟主となり、勢力甚だ強大にして、常に聯邦諸國を願使せし程なりしが、今より四十餘年前即ち千八百六十六年普魯西と戦ひて大いに敗れ、これより全く獨逸聯邦との關係を離れざるべからざることゝな

圖百第

圖布分種人るけ於に國洪埃



りしが、次いで千八百六十七年に、洪牙利王國と聯合して、茲に聯合國を形成し、埃地利皇帝これに君臨し、以て現今世界八大強國の伍伴に列するに至れり、されど聯合國內には數多の種族あり、即ち住民の三割六分は獨逸人、二割はマジャール人、其の他ラテン、チエツヒ、モラビヤ、ポーリシユ人等ありて政治の統一頗る困難なる事情ありといふ。然れども目下は千八百八十二年以來獨逸伊太利と三國同盟を作り、歐羅巴に於ても世界に於ても一方の勢力をなす

六、注意事項

- 1、聯邦國のことは獨逸のところにて注意したれば、こゝにては聯合國の如何なるものなるかを注意すべし。
 - 2、埃地利洪牙利は歐羅巴の中央にありてしかも、バルカン半島諸國に接するよりして、常にこの方面に於て外交上の關係深きことに注意すべし。
 - 3、地勢は複雑なることに注意して、人種及宗教の複雑なると共に政治の統一上困難なることに關係せしめて知らしむべし。
- 地勢は 1、ボヘミヤ盆地(西北方)

- 2、アルプ山地(西方)
 - 3、ガリチャ平原(東北方)
 - 4、洪牙利平原(中部)
 - 5、西南山地(海岸地方)
- 4、人種異なる爲に政治の困難なる一例として、左にかゝることに注意すべし。
- 1、ボヘミヤ盆地の首府ブラーグに於ては、住民はスラブの一種なるチエツヒ人と、獨逸人との反目強烈にして、各々別々に大學を有し、一方の大學に入學することをせずといふ。
 - 2、ブタベストに於てもマジャール人と獨逸人との間に軋轢多く市政上甚だ困難すること多しといふ。
 - 3、洪牙利(マジャール人)人は近時聯合國より分立せんと企て、日露戦争の當時もこの計畫をなせしことあり。
 - 5、最後全體を一括してまとめたりたる觀念を得しむべし

第六節 瑞 西

第一、要旨

瑞西の位置、地勢、産業、都邑等につき其の大要を授け且つ本國が山、紫、水、明に富み、歐羅巴の公國と稱せらるゝことを知らしむるにあり。

第二、區分 凡一時間

第三、教辨物 瑞西地勢圖、サンゴタル峠及其附近鐵道圖等

第四、教授材料

一、位置、面積

瑞西は、西は佛蘭西、東は奧地利、北は獨逸、南は伊太利に境し、四強國の間に介在する小國なれば、往昔より此等の諸國の勢力の一盛一衰によりて、その隸屬を異にしたるしが、西曆千八百十五年以來永世局外中立國となれり。面積二千七百万方里我が本洲の四分の一位にして人口は三百六十萬餘なり。

二、地勢

第一百圖 地勢圖



此の國は悉く山岳臺地によりて構成せられ、歐洲中第一の山國にして、しかも歐羅巴洲中最高の地なり、即ち南方伊太利境にはアルプ山系横はり、西方佛蘭西との國境の一部をなせる所にはユラ山脈あり、故に

全面積の三分の二は高峻奇抜なる山岳突屹として聳え、頂には萬年雪皚々として幾多の氷河の根源をなし、其の間には幽邃なる深谷を造れり、随つてライン、ローヌ等の諸河の源をなし、降つては瀑布、湖水多く山頂の白雪と相俟ちて風光の明媚なる歐洲の樂園と稱せられ、佛蘭西、伊太利と共に世界の三遊園地をなす、即ち佛は人工の美を以て優り、伊は古蹟を以て著はれ、而して瑞西は自然の美を以て、天下に冠たり、故に夏季遊覽に來るもの數百萬人に上り、それ

より得る金額實に一億二千萬圓に及ぶといふ。

○この國に於ては遊覽旅客より得る金額は國の一富源をなすを以て、旅館、宿舍の設備、客人の待遇等に意を注ぐは勿論、遊覽人に便宜を與ふること頗る丁寧懇切にして、其の計劃するところ又至れりといふ、一例を擧ぐれば案内記の完全、遊覽鐵道の設備等にして、彼のリギア山上に架設せるアプト式鐵道其他高峻の山上に向つて設くる綱索鐵道は全く右の目的に出でたるものなり。

圖二百第



鐵道の延長三千哩に及び、その中にはシンブロンサンゴタル等の大墜道及び其の途中の廻旋鐵道などありて其の苦心の狀察するに足るべし、大墜道について

地勢斯の如く一般に險しけれども、天然自然の美と、遊客の誘引とは貿易上の關係と、歐洲交通の必然的要求と相俟ちて、よくその天險を打破し、人智を應用して、交通の便を開き、山上の國をして、平原の地と異なるところなき發達を種々の方面に實現せしむるに至れり、

は總論の部参照)

三、産業

地勢上よりして農業の發達せざるは自然の勢なれども、林業及び牧畜は國內一般に行はれ、牧畜は主として牛を飼養せり、工業は鐵、石炭の産額皆無の狀態なれば其の發達を見るを得ざる様思はるれども、全年涸渴の憂なき、水力を利用して、盛に之を營み、種々の精巧なる製造品を産出す、これ本國人は水力により工業を營めども、地勢上、莫大の運賃を拂ひて、粗大なる製造品を出すの不利なるを、知り、主として精巧なる製造品を出さんことを工夫せし結果なり、されば其の工業は手工業多く貴重品の製造盛にして時計、織物、モスリン、器械、寶玉細工等を重なるものとす。

四、都邑

○ベルンは、本國の首府にして西部にあり、人口七萬餘、織物、飾具等を出す、萬國聯合郵便電信事務局の所在地にして世界的の會合多くこの地に開かる。

○國の東北部のチューリヒは、同名の湖畔にあり、人口十七萬餘、この國第一の都にして、又工業地として名高く、多く絹織物、綿布等を産す、ベスタロツチ先生の生地

として世に知らる。

第三百圖
ゼネバ市



○ジュネーブは、ジュネーブ湖の西南端、ローヌ河に跨り、遙に東南に歐洲第一の高峯モンブランを望み、湖畔の風景は本國中他に其の比を見ず、故に觀光の客甚だ多し、又寶石時計の製造地として名高く、この國、時計の三分の一は本市より産出す、更に世界的事業の一として人の能く知れる萬國赤十字社本部のあるところなり、有名なるルンソーはこの地に生る。

我が國は萬國赤十字社同盟に明治十九年加盟せり、教科書挿畫はジュネーブの市街を著したるもの、湖上の橋は眺望絶佳なるを思はしめ、遙に望見するモンブランの姿、湖上のボートは風景の一要素をなせり。

五、注意事項

1、大體上より見て本國の産業、交通は頗る地勢と關係深ければ注意して授くべし、

2、交通については自然を打破して人力を應用したる活例として獨逸の産業に於けるが如く、その努力の如何に旺盛なるかを知らしむべし、

3、山水明媚風景の絶佳なるを知らしむるには、可及的繪畫、寫真等を利用して教授すべし、

4、國の位置より見てこの國が佛蘭西、獨逸、伊太利等の影響を蒙りしことはこの國に於ける住民言語の分布に注意すれば、其の間の消息を知るを得べし、即ち

○獨逸人はこの國の東北部に多く、佛蘭西人は西部、伊太利人は南部に多し、從而言語も東北に於ては獨逸語、西部に於ては佛語、南部に於ては伊太利語多く用ひらるゝ現象を呈す。

第七節 佛蘭西

第一、要旨

佛蘭西の位置、面積、地勢、産業、都邑、沿革等につき其の概要を授けて同國々勢の如何を知らしめ且つ我が國と關係せる點を知らしむ。

第二、區分 凡そ二時間

第一時 位置、面積、地勢、産業、

第二時 都邑、沿革、及び概括、

第三、教辨物

佛蘭西地勢圖、葡萄栽培分布圖、及び産額比較圖、領土比較圖、都邑圖等

第四、教授材料

一、位置、面積、人口

佛蘭西は、大西洋と地中海との間に挟まりて西部歐羅巴の中央に位し、西北は英吉利海峡を隔て、英吉利に相對し、面積凡そ三萬五千方里にして、我が國より稍々小なり、人口は凡そ四千萬にして、これまた我が國に及ばずして人口の増加甚だ少ない、住民は大體に於てラテン人種に屬す、ピレネー山地には歐洲最古の住民バスク人住せり。

○人口の増加少なきはその増加率の低きによると、一は海外移住民の多きによる増加率の少なきは國民の先天的體質もあるべけれども、主として酒精の中毒に

よること大なりといふ。

二、地勢

國の東境にはユラ山脈、アルプ山系、南境には、ピレネー山脈、中央より少しく東南に偏してオーベルニュ高原あれども、其の他は概ね平坦にして、諸大河の流域に

第四百四圖 地勢圖



屬す、オーベルニュ高原は重なる川の分水領となり、これよりセーヌ河、ロアール河、ガロンヌ河の三大河を發しすべて大西洋に入る、高原とアルプス山脈との間にはロース河南流して地中海に入る、これ等の川は其の上流互に相連接するに運河を以てせられ水路の交通甚だ便利なり。

海岸は大西洋岸に二半島を有する外概ね低平なり地中海岸には良港ツーロン(軍港)マルセイユを有す。屬島には東南にコルシカの大島ありて、その首府アヤツチヨはナボレ

オン大帝の生地として名高し、この國の氣候は概ね良好にして歐羅巴第一の溫暖地として知られ、地中海沿岸に於ては冬季霜を見ずといふ、其東部は殊に良好にして避寒に適し、ニースは特に有名なり。

三、産業

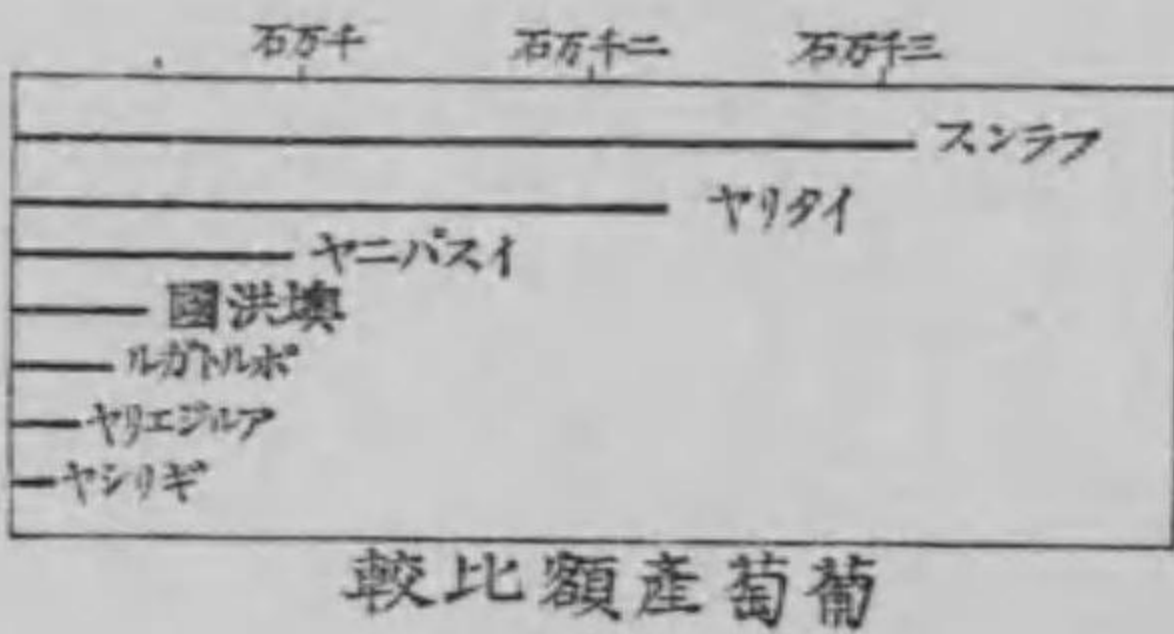
この國の農産物は、勿論以上諸河の流域にありて、麥類、葡萄の産に富み養蠶業も亦よく發達せり、麥類は主として北部地方に多く、小麥、燕麥殊に多し。葡萄はこの國到處に産し、唯僅に北部の一地方に産せざるのみにして、殊に南部ガロンヌ河、ローヌ河の流域は其中心地と見るべし、(上圖參照)養蠶業はこの國に於て奨励金を與へ盛に之を奨励せり、從て近來長足の發達をなし、ローヌ河の谷は最もこれに適せり、然れども絹織物業の進歩

圖五百第 葡萄栽培分布



發達は一層これに優るを以て、尙外國より生絲の輸入を仰ぐ、工業は織物業、釀酒業、

圖六百第

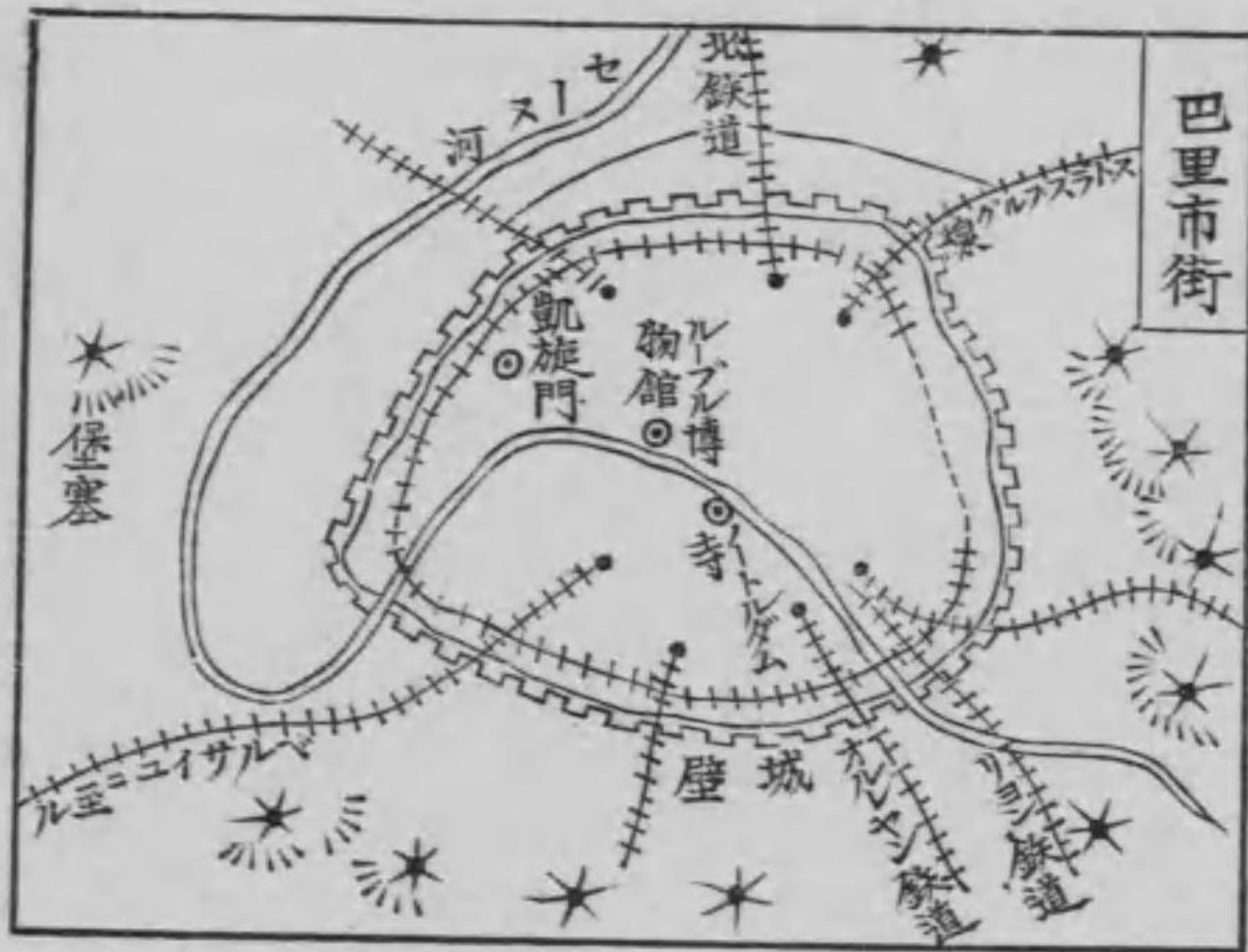


製鐵業甚だ盛なり、織物は毛織物、木綿織物等にして、就中絹織物を以て最とし、リヨンは實に其大中心地なり、釀酒業の中にて最も盛なるは葡萄酒製造にして其産額年三千石以上に達し世界第一なり(上圖參照)其中心地は所々にあれどもガロンヌ河に沿ひたるポルドーを以て最となす。又美術工藝品は頗る精巧を以て聞え陶磁器、貴金屬入れの細工物等を出す。

外國貿易は年六十八億圓に達し我が國の七倍に當る、重なる輸出品は織物、葡萄酒、佛蘭西革、毛絲等にして輸入品の重なるものは羊毛、綿、生絲、石炭等なり、取引の多き國は第一に英吉利を推し次に獨逸、白耳義等なり、我が國との貿易も益々盛にして、年五千萬圓に達し、我が國よりは多く生絲、羽二重、銅、真田、樟腦等を輸入す、其の額四千四百五十萬圓以上に達し我が國の好華客なり、佛國よりは羊毛、織物、毛絲を主として輸出しその額五百五十萬圓に及ぶ。

四、都邑

圖 七 百 第



○巴里は本國の首府にして、北方セーヌ河に跨り繞らすに城壁を以てし、人口凡そ二百八十萬、世界第三の大都會にして、市街の壯麗なること世界第一なり、本市は美術工藝品の製造甚だ盛にして、歐羅巴州服裝流行の中心地又娛樂の別天地と稱せらる、市内には凱旋門、ルヴル博物館、ノートルダム寺院、オペラ館、エッフェル塔の壯大なる建築物あり。

○凱旋門は、ナポレオン大帝が埃露の聯合軍を打破りたる記念として西曆千八百三十六年に建築せられたるものにして、すべて大理石を以て建造せらる、塔の内部には六百五十六人の佛國名將の名を刻し、又勝利の神を彫刻せり。

圖 八 百 第



(館ラペオはるあに央中) 街市るな華繁のーリパ

○ルヴル博物館、こは元歴代帝王の住居したるところにして、今の建物はルイス十四世の時に出来たるものなり、西曆千七百九十三年以來國立大博物館となれり、中に陳列せる美術品、古代發掘物、歴代王室の寶物、繪畫等は珍奇佳品にして、これを熟覽するには一週日以上を要すといふ。

○ノートルダム寺院、舊教の本山にして、七百餘年の星霜を経たるもの、實に古色蒼然たる建築物なり。

○オペラ館は紅白青紫の大理石及び花崗岩を以て建築せられ、建築宏麗設備完全實に善盡し美盡せり、これに出演

○エツフェル塔は、西暦千八百八十九年の建築にして世界最高の建築物なり、高さ一千尺。
 教科書挿畫中、遙に見る丘上、右方八分許りのところにあるは凱旋門にして、それより五分許手前セーヌ河の右岸に見ゆる圓頂形の建物はルーブル博物館なり、セーヌ河の左岸に高く見ゆるはエツフェル塔、これより左手前五分許のところにはノートルダム寺院又高く聳ゆ。

第百九圖

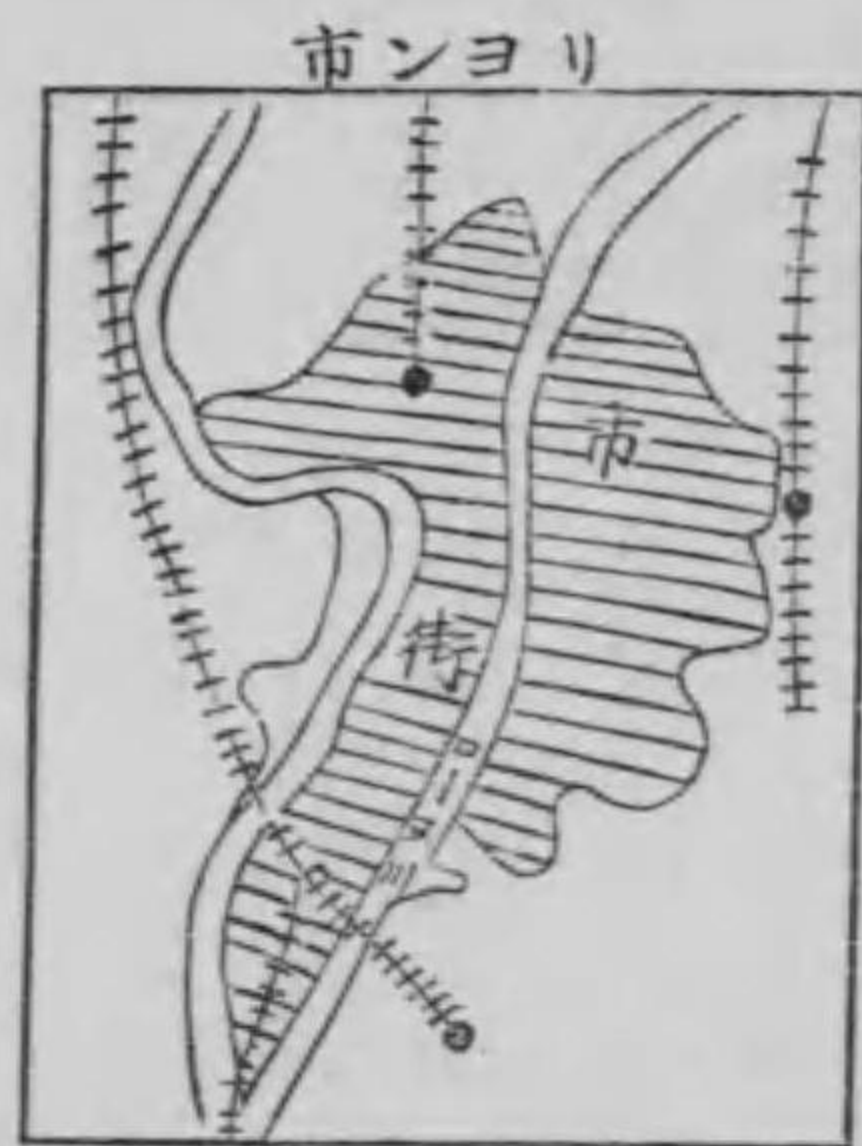


○ポルドーは、ガロンヌ河の河口より二十四里に上流にあり、有名なる葡萄の産出す、人口廿萬餘あり。

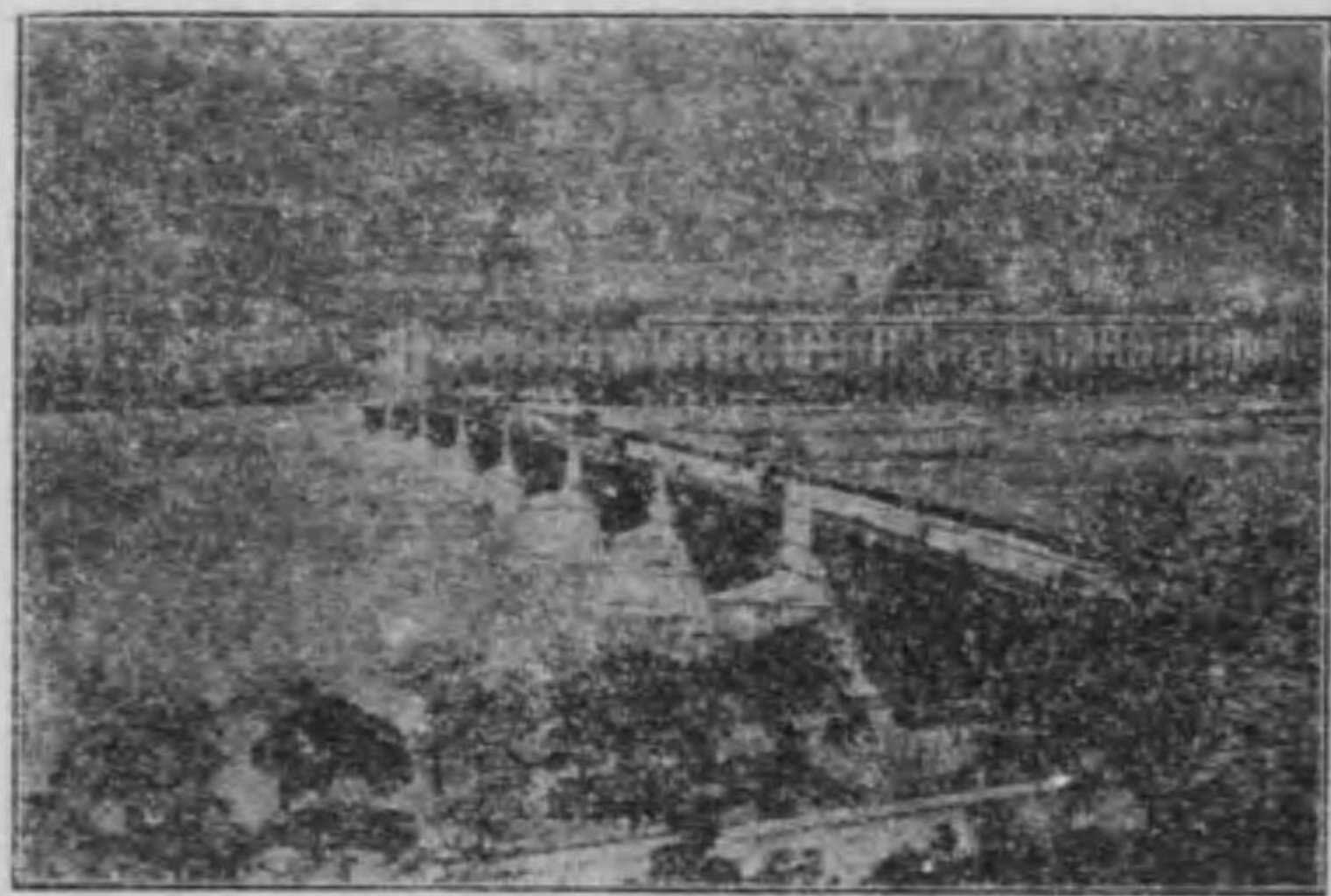
○ルアーブルは、セーヌ河口にありて巴里の外港をなし、この國、第二の貿易港なり、大西洋航路の中心地にして亞米利加との貿易盛なり、人口十三萬造船製鐵の業盛なり、我が名譽領事館を置く。

地にして且つガロンヌ河灌域の門戸なるを以て其の輸出世界に有名なり、南北

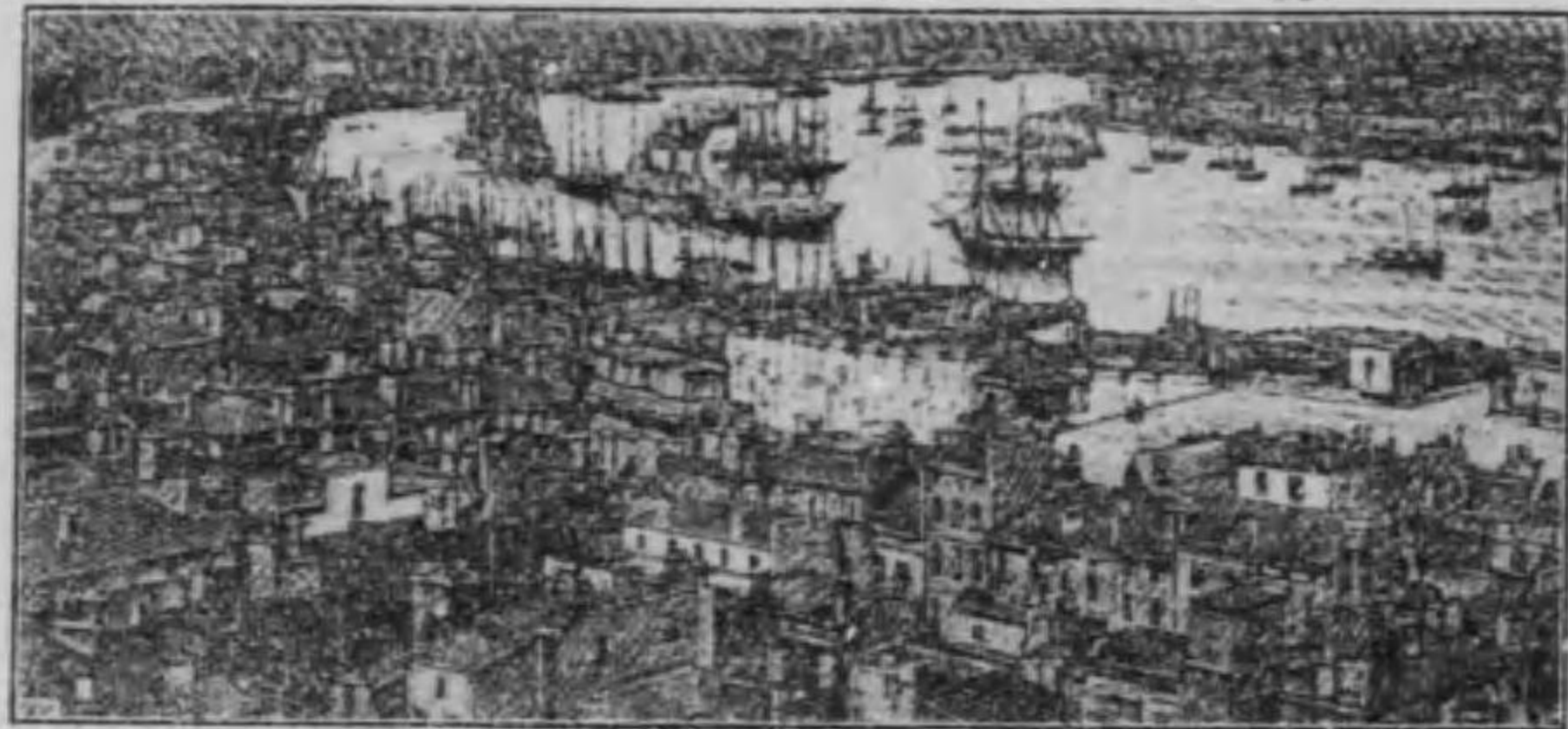
第百十一圖



第百十二圖



第百十圖



亞米利加洲との貿易殊に盛にして佛蘭西第二の貿易港なり、人口二十五萬餘この國第四の都會にして我が名譽領事館あり。

○リヨンは、ローヌ河とソーヌ河との會合點にあり、人口

第百三十圖 マルセイユ埠頭



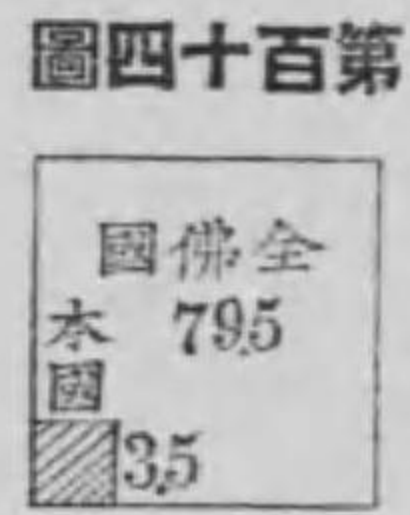
四十七萬餘佛國第三の都會にして絹織物の産出の盛なること世界第一にして、年一億四千萬圓以上に上る、而してその原料は多く我が國に仰ぐ、本邦領事館を置く。

○マルセイユは、地中海に臨み人口五十二萬この國第一の貿易港にして歐羅巴、亞細亞、亞弗利加の三大陸の要衝に當り地中海最大の港なり、織物、葡萄酒、果物等を多く輸出す、穀類、油類を輸入す、我が國より輸入する生糸、羽二重は先づこの港を経由す、横濱を去ること九千三十五海里、我が日本郵船の寄港地にして名譽領事館の設けあり。

五、沿革

此の國は凡そ六世紀の頃の建國にして十七

世紀に至りてルイス十四世以來大いに崇華を極めし結果十八世紀末に於ける大革命となり、國內大擾亂を起し、凡そ今より百二十年前ナポレオン一世出で、外征に成功し、國內の混雜紛亂を鎮めて遂に皇帝の位に登り、次いで全歐洲を併呑せんとせしも其の勢久しきを保つを得ず、業半途にして失敗し、其の後ナポレオン三世の時(我が明治三年)普魯西と戦ひて敗れし以來、現今の共和政體を採るに至り、爾來



教育を盛にし軍備を擴張し、大いに國勢を挽回し、又海外の領地をも増加して、本國の約廿五倍大の土地を獲得し、世界強國の一に伍し、露國との間に攻守同盟を締結し、三國同盟と相對して、世界國際上に於ける重要な位置をなす。

陸軍、平時約五十萬、戰時約百二十萬

海軍、世界第四位、七十八萬噸

六、注意事項

- 1、佛蘭西の位置よりして歐羅巴洲中氣候の溫和なることを知らしむべし。
- 2、佛蘭西は土地一般に平坦にしてたゞ僅に東南部に山地あるのみなること、從つ

て農業盛にして諸種の産物に富むこと、殊に養蠶業に對しては近時非常なる獎勵を以て向上せしめつゝあることに注意すべし。

- 3、精巧なる美術工藝品に富むは佛蘭西人の氣質と關係あることを知らしむべし。
- 4、外國貿易については我が國の好華客先なることに注意すべし。
- 5、都邑を授くるには繪畫寫真等を多く利用して教授すべし。
- 6、沿革を授くるには建國より現時に至るまでの變遷推移を明瞭に授け、西洋歴史に至大の關係を有すること及び戰敗後に於ける國運の挽回向上に注意し、佛國人の氣象の如何を察知せしむべし。
- 7、第二時の終りに全體を一括して復習すべし。

第八節 白耳義、和蘭

第一、要旨

白耳義、和蘭につき其の位置、面積、人口、地勢、交通、産業、都邑沿革等の大要を授けて國情の如何を窺はしめ且つ我が國と關係するところを知らしむ。

第二、區分 凡そ二時間

第一時、位置、面積、人口、地勢、交通、

第二時、産業、都邑、沿革、及び概括

第三、教辨物 地勢圖、運河の圖、都邑圖等

第四、教授材料

一、位置、面積、人口

白耳義、和蘭の二國は獨、佛、英三強國の間に位する小國にして、古はネーデルラントと稱し行政上一國をなせしものなり。其の面積は何れも我が九州より狭けれど、人口甚だ稠密なり。

面積 白耳義、一千九百方里、 九洲面積二千六百二十方里、

和 蘭、二千一百方里、

人口 白耳義、七百四十萬、

和 蘭、五百八十萬、

密度 白耳義、一方里凡そ三千八百二十人

和 蘭、一方里凡そ二千六百八十人
日 本、一方里凡そ一千六百人

二、地勢

地勢は白耳義の南方に高地を有するのみにて、他は概ね平坦にして地形は東南に高く、西北に低く、沿海の地には海面より低きところ多く、殊に和蘭の如きは、國の西部は海面以下に位するところ甚だ多く、國名和蘭は「低地」の義に基づくを以て知るべし。この低地に向つて、海水の浸入を防かん爲には自然に發達せる砂丘と、人工的の堤防とによるなり。

○二國の海面より低き土地は人力を以て、海水を排出して新陸地となす。これを「ポルダー」といひ、和蘭に於ては全面積の五分の一に及び、更に目下はゾイデル海に向つて、排水開墾

第百五十圖 地勢圖



に着手せりといふ。海水を排出するについてはこの地方、海岸の軟風は、風向常に一定するを以て、これを風車に利用して、潜水を排出し以てポルダーをつくり得るなり。
教科書挿畫の小廓内に見ゆるは、人家のある場所海面より低きを以て、海水の浸入を防ぐに自然の砂丘を以てせるを示し、その外圖は風車を利用して潜水を吸み上げる所なり。然して出來上りたる新開地には、牧場として牛を飼養せるところを示す。

河流はライン、マース、シエルト河域内を流れ、これ等の河は、縦横に數多運河を通じて相聯絡し、水運の便を助く。又陸には、鐵道の敷設普くして交通甚だ便利なり。殊に和蘭に於ては運河の延長七百八十里に達し、河水の利用すべきもの三百五十里餘なれば、可航水路の合計一千一百里以上に及ぶ。以て水運に依る交通の如何に發達せるかを知らるべく、水運の便世界第一と稱せらるゝも至當と云ふべし。白耳義に於ては鐵道の敷設に於て他に比類なく、その延長凡そ三千哩に達し、面積に比して鐵道哩數の多きこと他國に冠たり。

1. 重なる運河

北和蘭運河(ヘルダーよりアイ灣に至るもの)、北海運河(アムステルダムより北海に至るもの)、オスデンドよりブルツセルに至る運河、グントよりシエルト河に達するもの、アンベルスよりライン河に至るもの等なり。

2. 鐵道

面積百方に對し
白耳義は、百五十哩
瑞西は、百十八哩

圖 六 十 百 第
圖 の 河 運



英國は、百十三哩
日本は、十七哩

三、産業

和蘭は農業牧畜共に發達し、殊に農業に於ては園藝術世界に名高し。國の富源は

牧畜にして、多く牛を飼養し、牛酪、乾酪等を輸出す。

○牛酪は、牛乳を器物に入れて、靜置し表面に生じたる脂肪質の乳皮を取り、これに食鹽を混じたるものにて、歐羅巴人のパンに塗りて食し、或は副食物の味を附するに必要缺くべからざるものとす。乾酪は、牛乳を熱しこれに仔牛の脂肪を混じ、色素を加へて、堅めたるものにして、脂肪、蛋白質に富む。これまた歐人の日用食料品なり。

白耳義は、農業大いに發達して、其の面積に比して産額の多きこと世界に冠たり、其農産物は、國民の需用に供して餘ありといふ。然どもこの國の富源は鐵、石炭の産出多きと、工業の發達せるにあり。重なる工業品は器械、板ガラス、織物等にして、就中ガラスの製造は、歐洲第一に位し、レースの品質精巧なるは、世界無雙なり。工業の盛なる點より見て、小英國の稱あり。

更に、この二國は商業頗る盛にして、其の貿易額の多きこと、世界屈指の地と稱せられ、即ち白耳義に於ては、其の貿易額年二十六億圓に及び、和蘭は曾つては世界第一の商業國たりし、倂今尙存し、貿易盛大にして、一年四十億圓以上の取引ありて、我が